

**令和 6 年度
「男女共同参画社会づくり」に向けての
市民意識調査
報 告 書**

令和 7 年 3 月

豊後大野市

目次

第1章 「男女共同参画社会づくり」に向けての市民意識調査の概要	9
1. 調査概要	9
(1) 調査の目的	9
(2) 調査の設計	9
(3) 回収結果	9
(4) 調査集計にあたっての留意事項	10
2. 回答者の属性	10
(1) 年齢構成	10
第2章 「男女共同参画社会づくり」に向けての市民意識調査の結果	13
問1 あなたの性別をお聞かせください。	13
問2 あなたの年齢は次のどれにあたりますか。	13
問3 あなたの職業は次のうち、どれにあてはまりますか。	14
問4 あなたは結婚されていますか。	15
問5 【問4で「1. 結婚している」を選んだ方におうかがいします。】	15
あなたは共働き(パート・アルバイトなどを含む)ですか。	15
問6 現在同居しているあなたの家族構成は、次のどれにあてはまりますか。	16
男女の意識について	17
問7 「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。	17
問8 あなたは、次の①～⑧にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。	20
問9 あなたは、これまでに学校・職場・地域などで、男女共同参画についての学習を受けたことがありますか。(例)男女平等、ワーク・ライフ・バランス、性の多様性などの学習。	31
問10 【結婚している方におうかがいします。】あなたの家庭では、次の①～⑪の家庭内の役割を主に誰がしていますか。(1)【現状】と右側の(2)【理想】を、それぞれお答えください。	35
問11 今後、男性と女性がともに家庭生活(家事、育児、介護)や地域活動へ参加をしていくために必要なことは何だと思えますか。	58
問12 夫婦が希望すれば結婚後もそれぞれの姓を名乗れる「選択的夫婦別姓制度」を認めるべきだと思いますか。	60
教育について	62
問13 子どもの育て方について、次の①～④ではどのような考え方をお持ちですか。	62
問14 子どもの教育を、次の①と②についてどこまで希望しますか。	66
ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人間の暴力)について	68
問15 あなたは、これまでに配偶者や恋人など親しい関係にある人との間で、次の①～⑤のようなことを受けたことがありますか。	68
問16 【問15で1つでも「受けたことがある」と答えた方におうかがいします。】誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(複数回答)	72
問17 【問16で1つでも「相談した」と答えた方におうかがいします。】相談した結果、状況はどうになりましたか。	75

問18 あなたは次の①～③にあげることがらについて知っていますか。.....	76
人権について	79
問19 あなたは、次の①～③のような行為を受けたことがありますか。.....	79
問20 【問19で1つでも「受けたことがある」と答えた方におうかがいします。】誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。.....	81
問21 【問20で1つでも「相談した」と答えた方におうかがいします。】相談した結果、状況はどうになりましたか。.....	83
問22 性犯罪、売買春(援助交際を含む)、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアルハラスメント、ストーカー行為等などの暴力をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。.....	84
問23 妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が生涯にわたり心身共に健康であるために、どのようなことが大事だと思いますか。.....	86
問24 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの固定的な性別役割分担の表現(男は仕事、女は家庭など)や暴力、性の表現について、どう思いますか。.....	88
女性の参画について	90
問25 女性が働くことをどう思いますか。.....	90
問26 女性が働き続けていくためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。.....	92
問27 【農林漁業、商工サービス業等自営業に従事(家族従事者も含む)している方におうかがいします。】.....	94
いわゆる給料は、家族に対して払って(受け取って)いますか。.....	94
問28 農林漁業、商工サービス業等自営業に従事したことに対し、労働報酬(いわゆる給料)を支払うなど金銭的な評価をすべきだと思いますか。.....	95
問29 【現在、働いている方(パート、アルバイト含む)におうかがいします。】あなたの職場では、性別によって処遇が違いますか。.....	96
問30 【現在、就業されていない方におたずねします。】今後、働く予定はありますか。.....	97
問31 【問30で「2. すぐに働きたいが、まだ就職活動は行っていない」、または「3. 将来働きたい」と答えた方におうかがいします。】現在、就職活動をされていない理由は何ですか。.....	98
問32 女性の社会進出は進んでいます、議員や審議会委員、自治会長などにはまだ女性が少ないのが現状です。なぜだと思いますか。.....	101
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	103
問33 今、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進がもてられています、現状をお聞かせください。あなたは、仕事と生活の調和がうまくとれていますか。.....	103
問34 【問33で「いいえ」と答えた方におうかがいします。】仕事と生活の調和がうまくとれない理由は何だと思いますか。.....	105
問35 男性が育児・介護休暇を取ることに、あなたは どう思いますか。.....	107
問36 【問35で「2. 男性が育児・介護休暇を取ることに賛成だが、実際は取りづらいと思う」を選んだ方におうかがいします。】実際に取りづらい理由は何だと思いますか。.....	109
地域活動について	110
問37 次のような地域活動を行っていますか。.....	110
問38 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい状況があると思いますか。.....	112

問39 【問38で「1. できにくい状況があると思う」を選んだ方におうかがいします。】それはどんな雰囲気
や状況だと思いますか。 113

性的マイノリティについて 115

問40 LGBTQ+など(性的マイノリティ)にどのような考えやイメージをおもちですか。 115

問41 LGBTQ+など(性的マイノリティ)の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
..... 118

問42 あなたは、次の①～⑫にあげることがらについて知っていますか。 120

問43 あなたは男女共同参画社会の実現に向けて、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思
いますか。 131

問44 男性と女性が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に共同で参画する社会を実
現するために、市に対してのご意見・ご希望などありましたら、ご自由にご記入ください。 134

第 1 章

「男女共同参画社会づくり」に向けての 市民意識調査の概要

第1章 「男女共同参画社会づくり」に向けての市民意識調査の概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的

市民の男女共同参画に関する意識の状態等を統計的に把握し、今後の男女共同参画施策等の基礎データとして活用するとともに、「第3次豊後大野市男女共同参画基本計画」の基礎データとする。

(2) 調査の設計

調査対象者	豊後大野市在住の満18歳以上の男女
対象者数	1,200人(住民基本台帳から層化無作為抽出)
配布・回収方法	郵送による配布、郵送による回収及びWEBによる回答
調査の期間	令和6年9月7日～令和6年9月24日

(3) 回収結果

本調査の有効回答数・回答率は以下のとおりです。

配布数 (人)	郵送回答数 (人)	WEB回答数 (人)	合計回答数 (人)	有効回答率 (%)
1,200	444	88	532	44.3%

(4) 調査集計にあたっての留意事項

○回答結果は小数点第2位を四捨五入しているため、単回答(複数の選択肢からひとつだけを選ぶ形式)の割合の合計が100%にならない場合があります。

複数回答(2つ以上の回答を選ぶことのできる形式)の項目は、有効標本数全体もしくは各属性の合計に対して各々の割合を示していますので、各選択肢の回答の割合を合計しても100%とはなりません。

○本報告書における「n」「SA」「MA」の意味は次のとおりです。

「n」 : サンプル数

「SA」 : 単回答(Single Answer の略)

「MA」 : 複数回答(Multiple Answer の略)

2. 回答者の属性

(1) 年齢構成

		18歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～69歳	70歳以上	無回答	合計
女性	人数(人)	35	40	45	48	63	57	1	289
	割合(%)	12.1	13.8	15.6	16.6	21.8	19.7	0.3	100
男性	人数(人)	21	23	38	46	52	56	1	237
	割合(%)	8.9	9.7	16.0	19.4	21.9	23.6	0.4	100
答えることに抵抗を感じる	人数(人)	1	2	0	1	0	0	0	4
	割合(%)	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100
無回答	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	2
	割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100
合計	人数(人)	57	65	83	95	115	114	3	532
	割合(%)	10.7	12.2	15.6	17.9	21.6	21.4	0.6	100

第2章

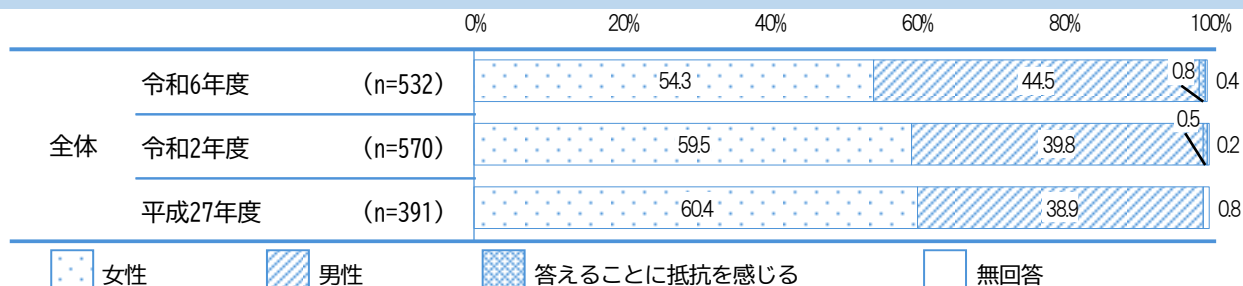
「男女共同参画社会づくり」に向けての 市民意識調査の結果

第2章 「男女共同参画社会づくり」に向けての市民意識調査の結果

※この意識調査の中の「結婚」及び「夫婦」は「事実婚及びパートナーシップ宣誓者」を含みます。

[SA]

問1 あなたの性別をお聞かせください。

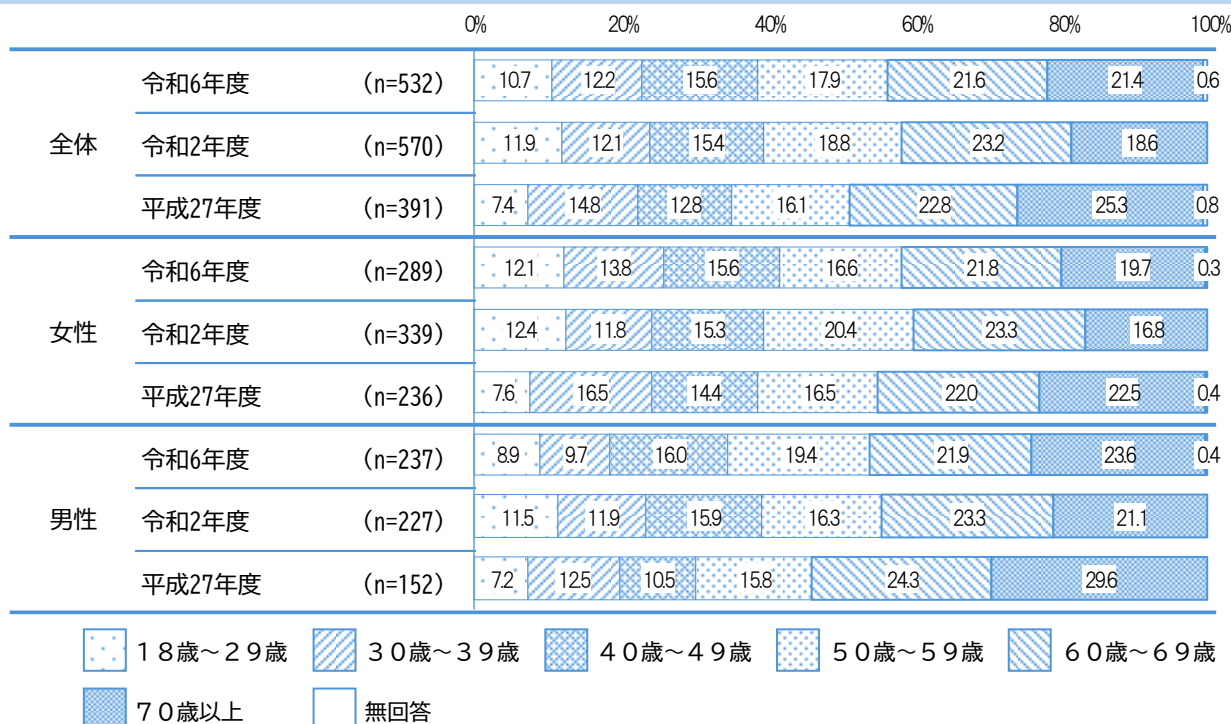


全体でみると、「女性」が54.3%、「男性」が44.5%となっています。

前回調査と全体で比較すると、「女性」が5.2ポイント減少しています。

[SA]

問2 あなたの年齢は次のどれにあたりますか。



※平成27年度調査時は「20～29歳」として集計

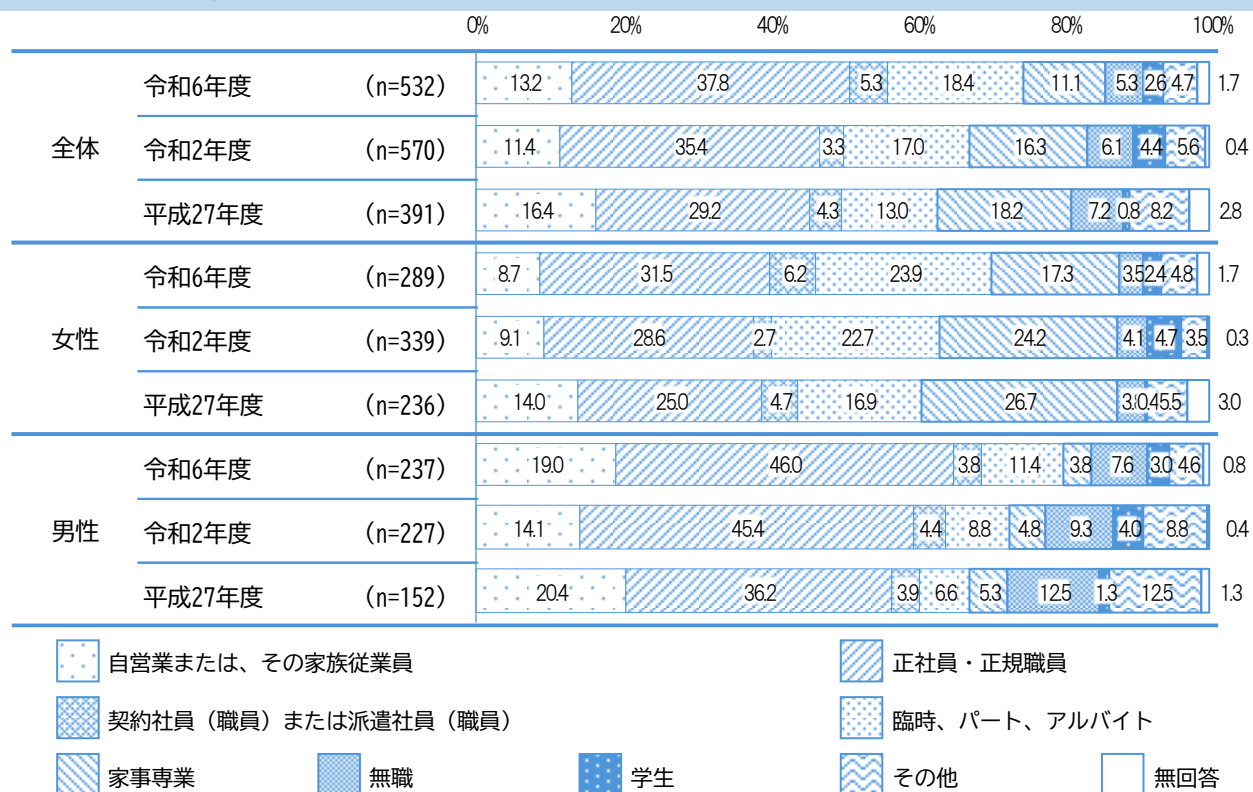
全体でみると、「60歳～69歳」が21.6%と最も高く、次いで「70歳以上」(21.4%)、「50歳～59歳」(17.9%)となっています。

性別でみると、女性では「60歳～69歳」、男性では「70歳以上」が最も高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

問3 あなたの職業は次のうち、どれにあてはまりますか。



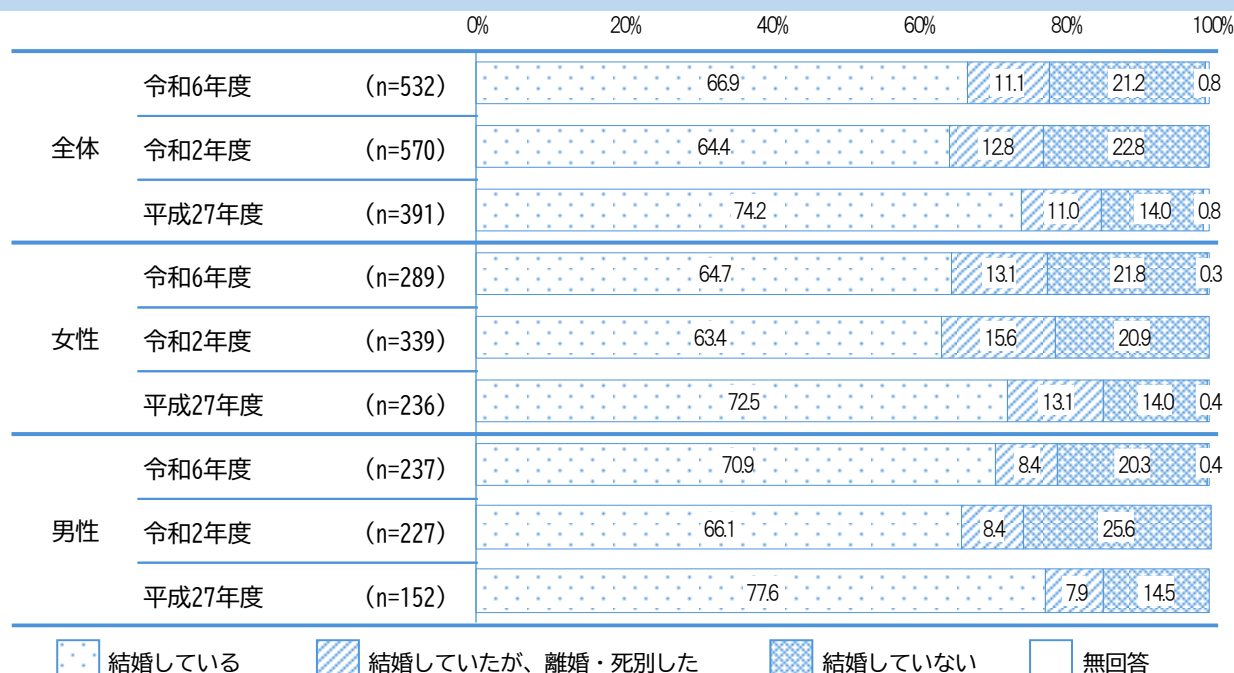
全体でみると、「正社員・正規職員」が 37.8%と最も高く、次いで「臨時、パート、アルバイト」(18.4%)、「自営業または、その家族従業員」(13.2%)となっています。

性別でみると、「正社員・正規職員」では女性が 31.5%、男性が 46.0%と女性に比べ男性が 14.5 ポイント高く、「臨時、パート、アルバイト」では女性が 23.9%、男性が 11.4%と男性に比べ女性が 12.5 ポイント高く、「家事専業」では女性が 17.3%、男性が 3.8%と男性に比べ女性が 13.5 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「家事専業」が 5.2 ポイント減少しています。

性別で比較すると、女性では「家事専業」が 6.9 ポイント減少しています。

問4 あなたは結婚されていますか。



全体でみると、「結婚している」が66.9%と最も高く、次いで「結婚していない」(21.2%)、「結婚していたが、離婚・死別した」(11.1%)となっています。

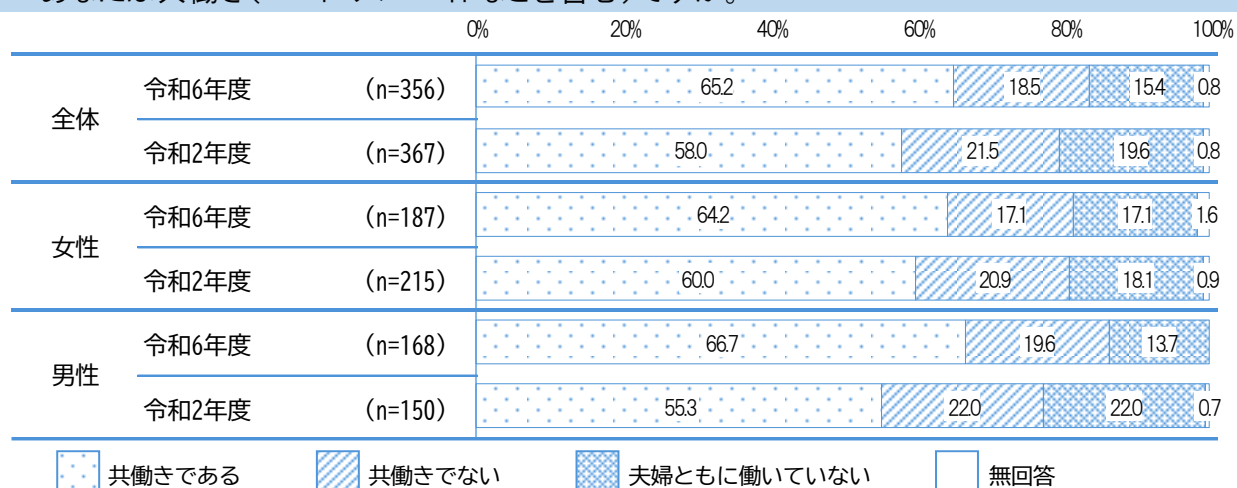
性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、男性では「結婚していない」が5.3ポイント減少しています。

問5 【問4で「1. 結婚している」を選んだ方におうかがいします。】

あなたは共働き(パート・アルバイトを含む)ですか。



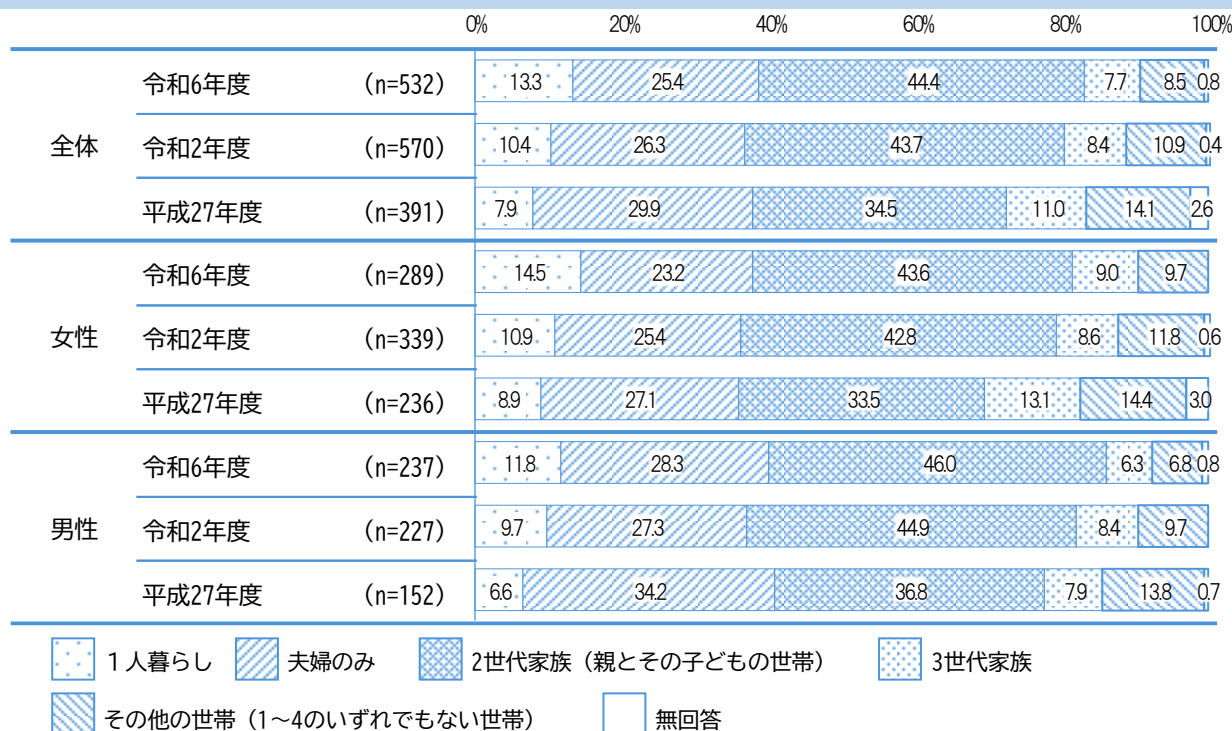
全体でみると、「共働きである」が65.2%と最も高く、次いで「共働きでない」(18.5%)、「夫婦ともに働いていない」(15.4%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「共働きである」が7.2ポイント増加しています。

性別で比較すると、男性では「共働きである」が11.4ポイント増加しています。

問6 現在同居しているあなたの家族構成は、次のどれにあてはまりますか。



全体でみると、「2世代家族（親とその子どもの世帯）」が44.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ」（25.4%）、「1人暮らし」（13.3%）となっています。

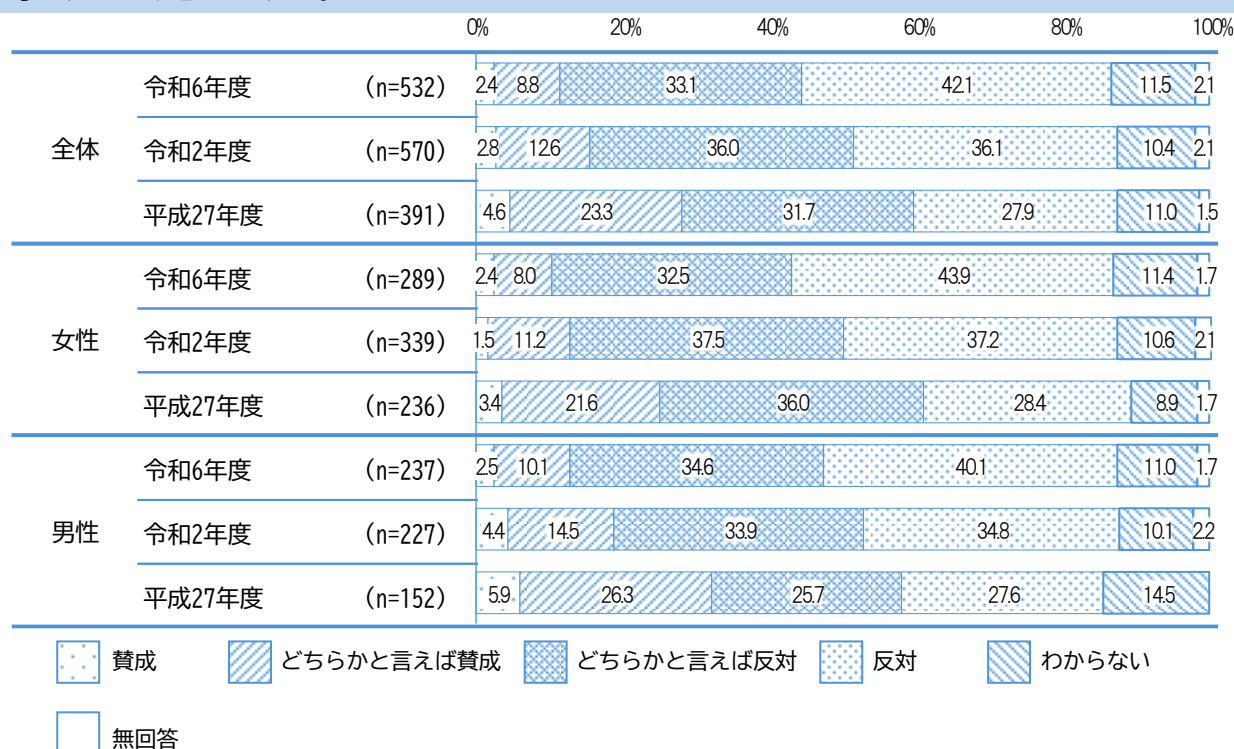
性別でみると、「夫婦のみ」では女性が23.2%、男性が28.3%と女性に比べ男性が5.1ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

[SA]

問7 「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。

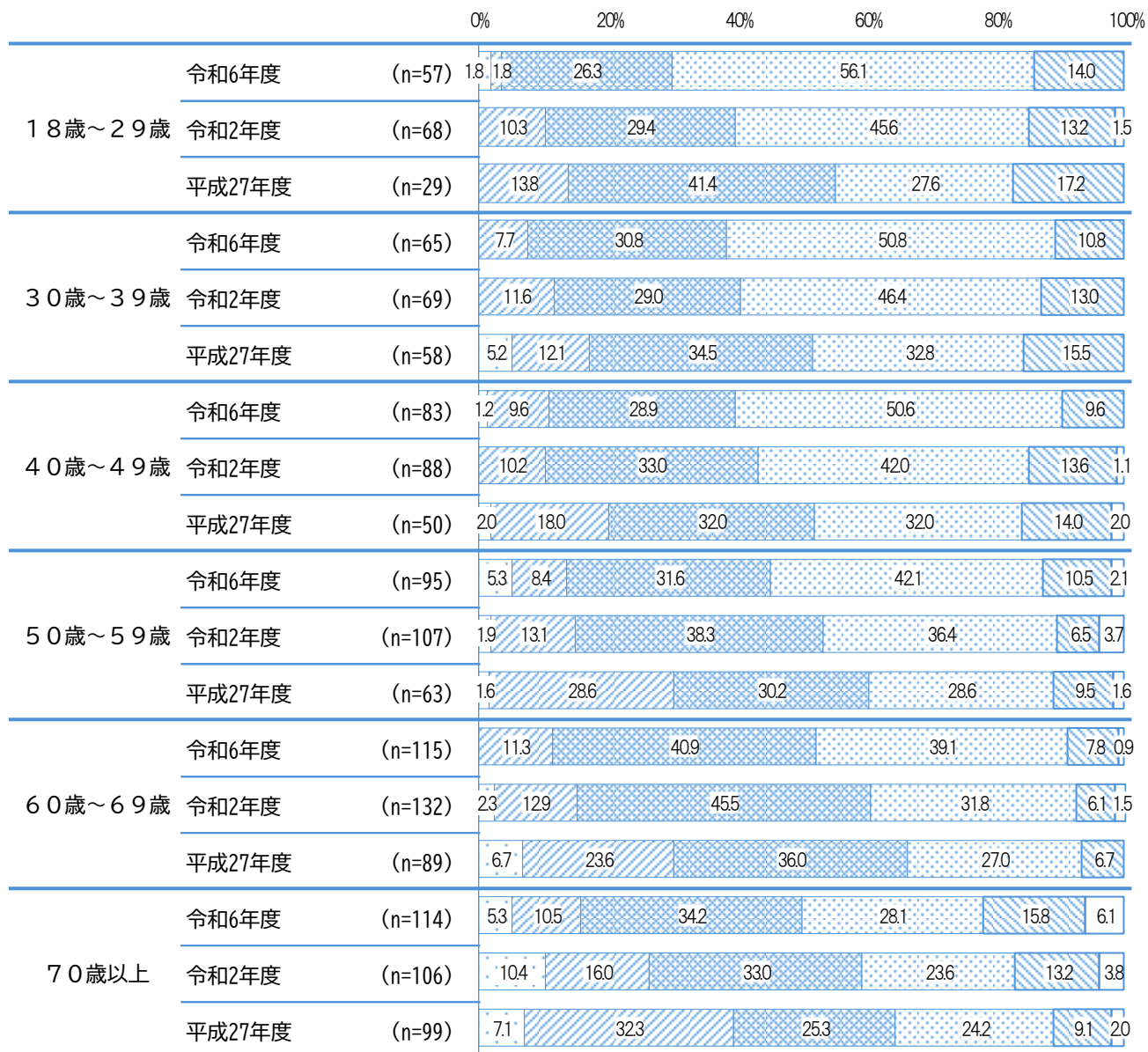


全体でみると、『賛成』（「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合）が11.2%、『反対』（「反対」と「どちらかと言えば反対」を合わせた割合）が75.2%となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、『反対』では男性が6.0ポイント増加しています。

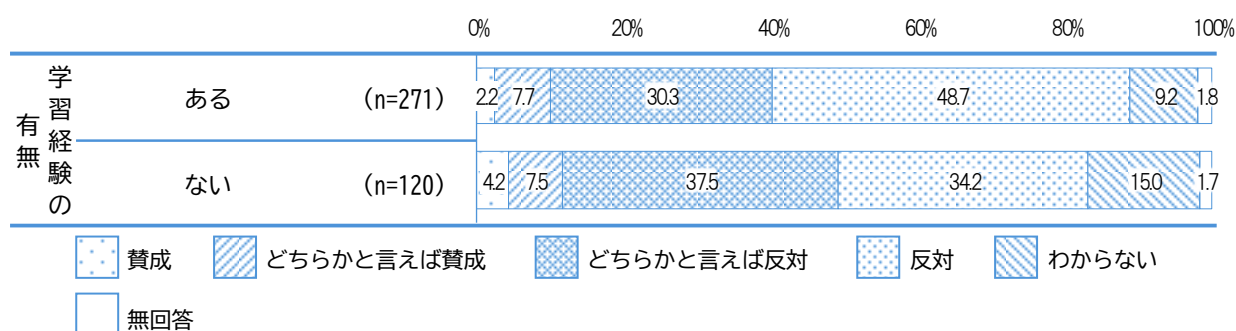


※平成27年度調査時は「20～29歳」として集計

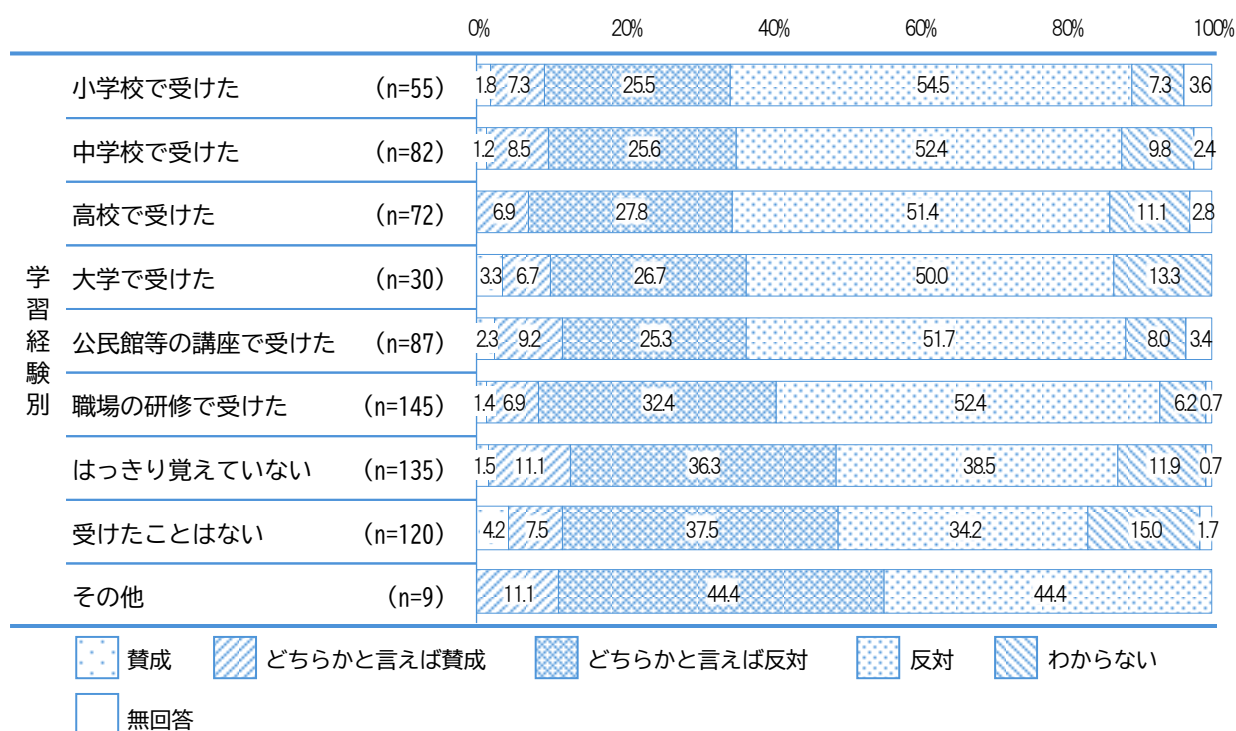
賛成
 どちらかと言えば賛成
 どちらかと言えば反対
 反対
 わからない
 無回答

年齢階級別でみると、「70歳以上」で『賛成』（「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合）が15.8%と最も高く、『反対』（「反対」と「どちらかと言えば反対」を合わせた割合）が62.3%と他の年代よりも11.4ポイント以上低くなっています。また、年齢が高くなるにつれ『賛成』の割合も高くなる傾向にあります。

前回調査と比較すると、ほとんどの年齢階級で『賛成』の割合が減少し、「反対」の割合が増加しています。



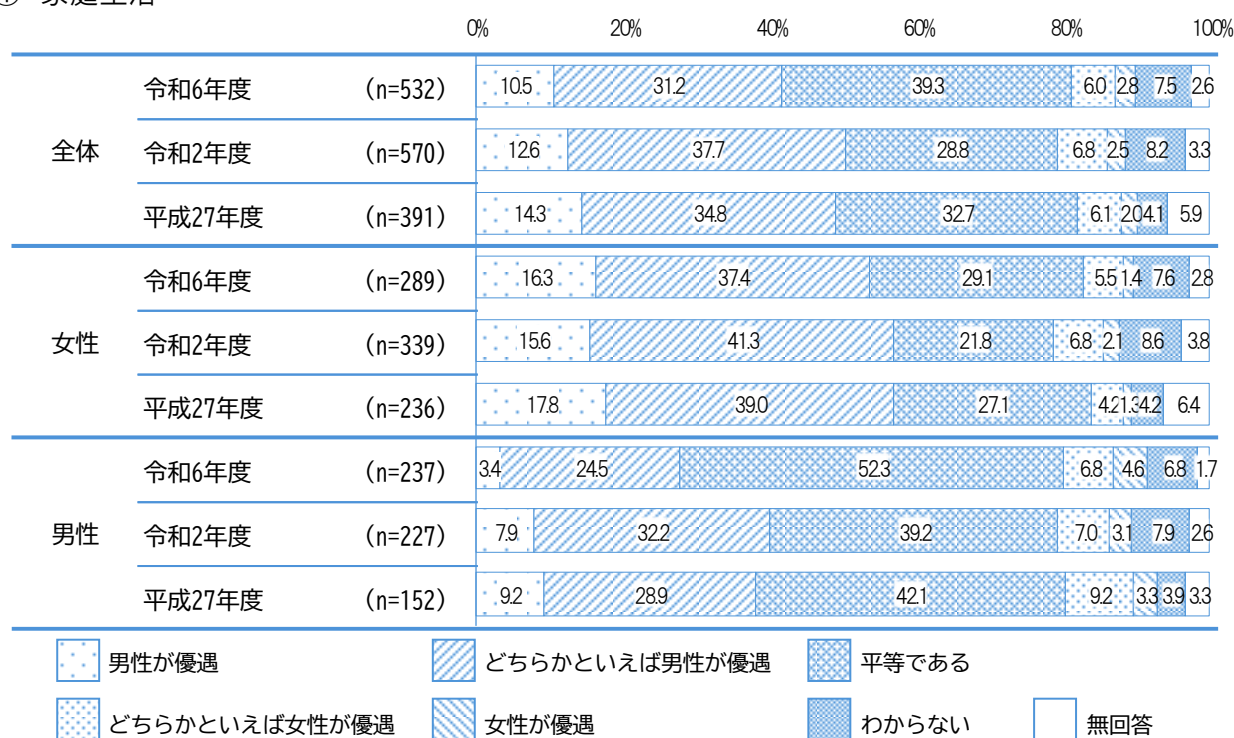
男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、『反対』(「反対」と「どちらかと言えば反対」を合わせた割合)ではある人が79.0%、ない人が71.7%とない人に比べある人が7.3ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「高校で受けた」で『賛成』(「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合)が6.9%と最も低く、「はっきり覚えていない」で『賛成』が12.6%と最も高くなっています。

問8 あなたは、次の①～⑧にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

① 家庭生活

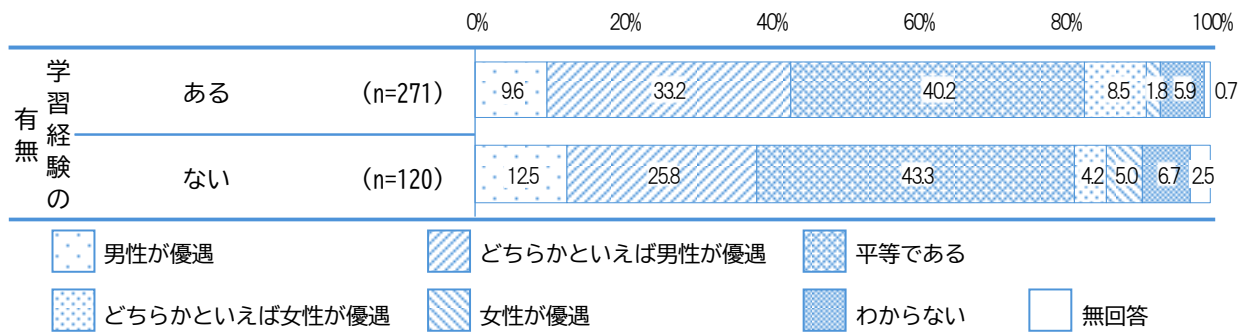


全体でみると、『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）が41.7%と最も高く、次いで「平等である」（39.3%）、『女性が優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」と「女性が優遇」を合わせた割合）（8.8%）となっています。

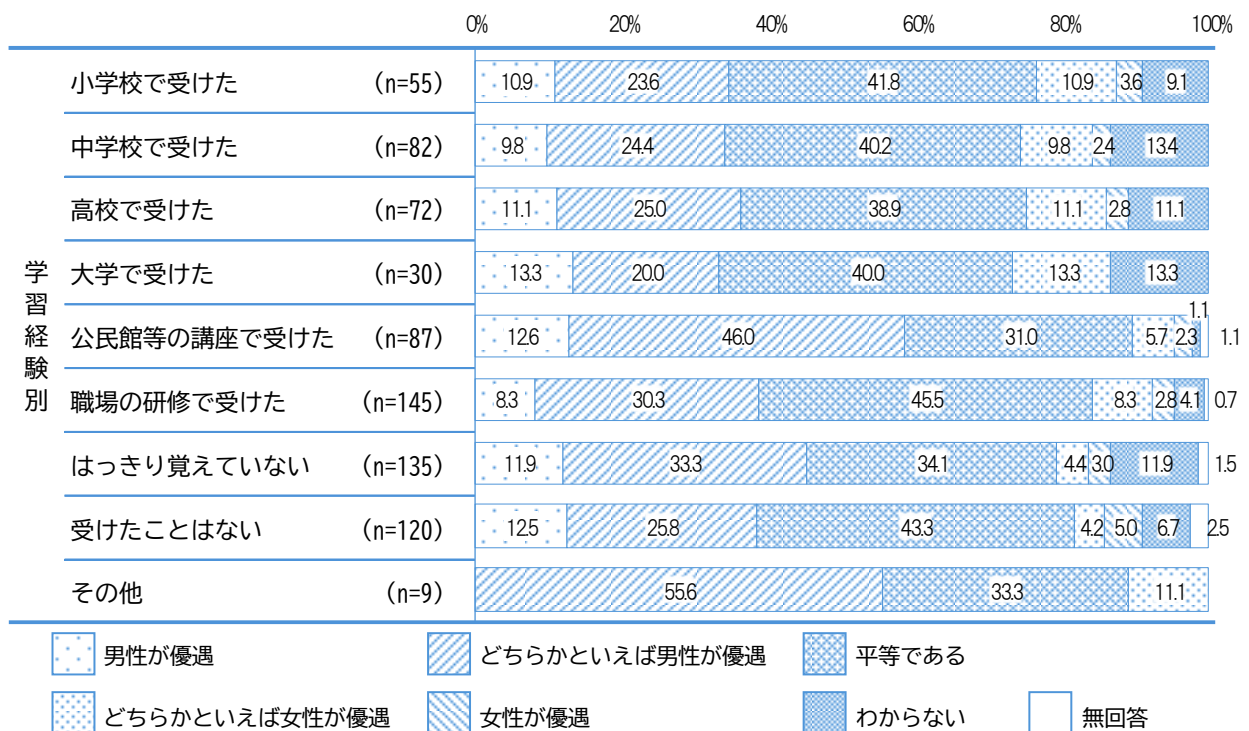
性別でみると、『男性が優遇』では女性が53.7%、男性が27.9%と男性に比べ女性が25.8ポイント高くなっています。「平等である」では女性が29.1%、男性が52.3%と女性に比べ男性が23.2ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、『男性が優遇』が8.6ポイント減少しています。

性別で比較すると、「平等である」では女性が7.3ポイント、男性が13.1ポイント増加しています。

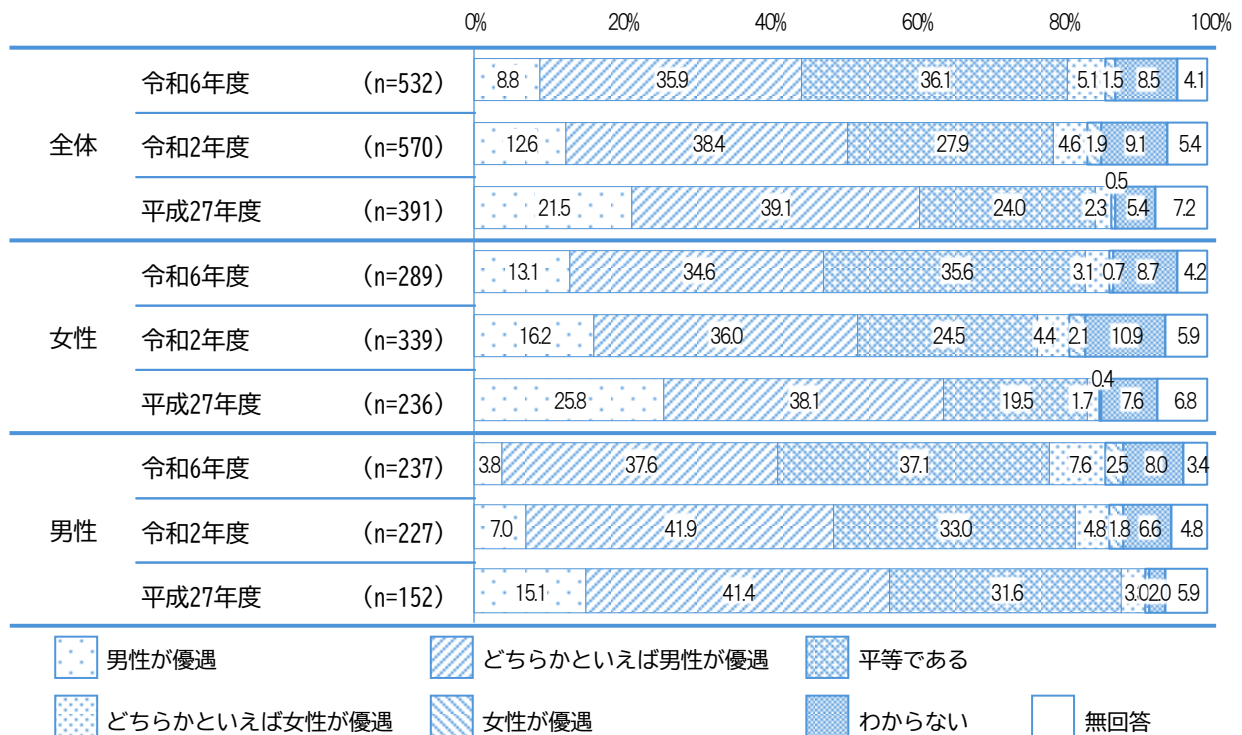


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）ではある人が42.8%、ない人が38.3%とない人に比べある人が4.5ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「公民館等の講座で受けた」で『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）が58.6%と最も高く、「小学校で受けた」で『女性が優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」と「女性が優遇」を合わせた割合）が14.5%と最も高くなっています。

② 職場

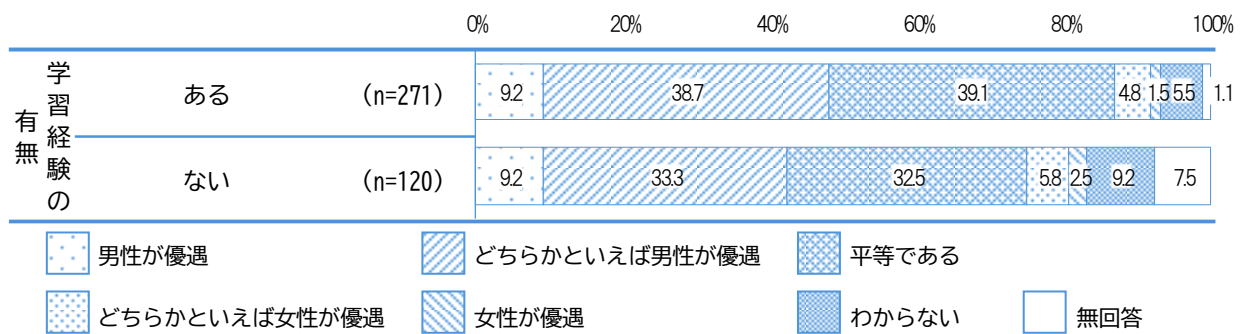


全体でみると、『男性が優遇』(「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合)が44.7%と最も高く、次いで「平等である」(36.1%)、『女性が優遇』(「どちらかといえば女性が優遇」と「女性が優遇」を合わせた割合)(6.6%)となっています。

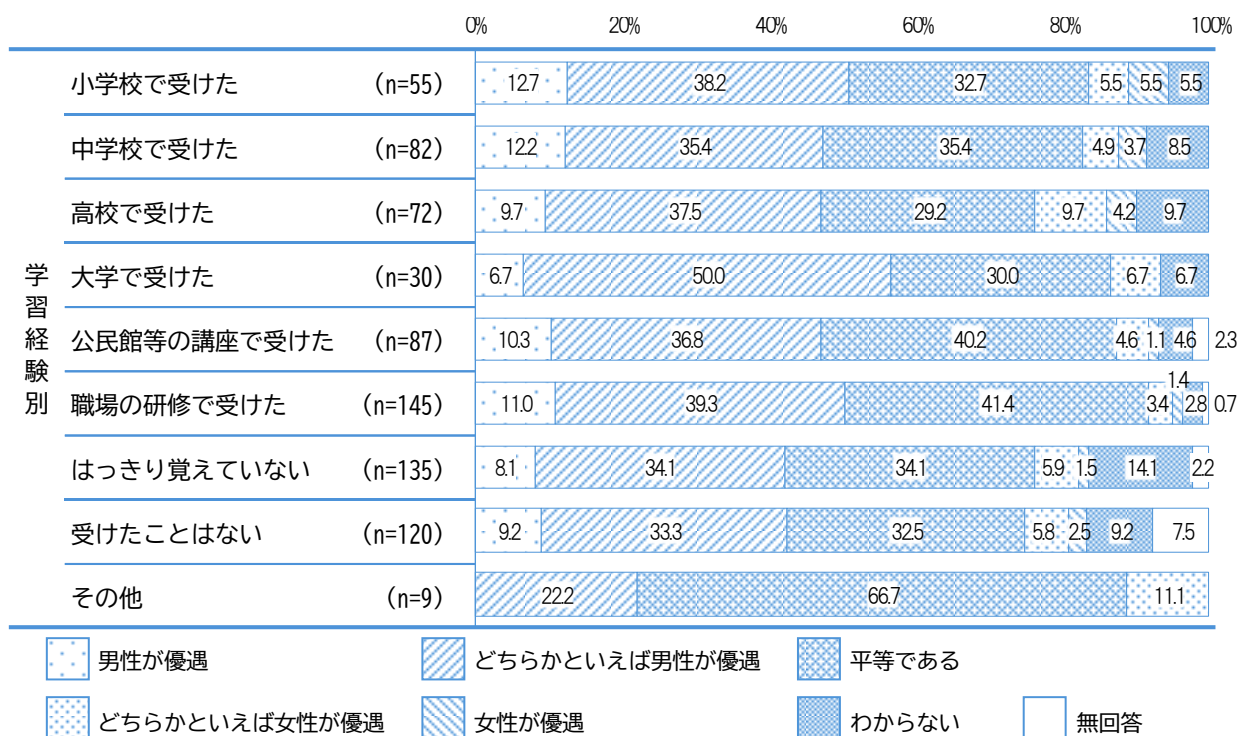
性別でみると、『男性が優遇』では女性が47.7%、男性が41.4%と男性に比べ女性が6.3ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「平等である」が8.2ポイント増加しています。

性別で比較すると、『男性が優遇』では男性が7.5ポイント減少し、「平等である」では女性が11.1ポイント増加しています。

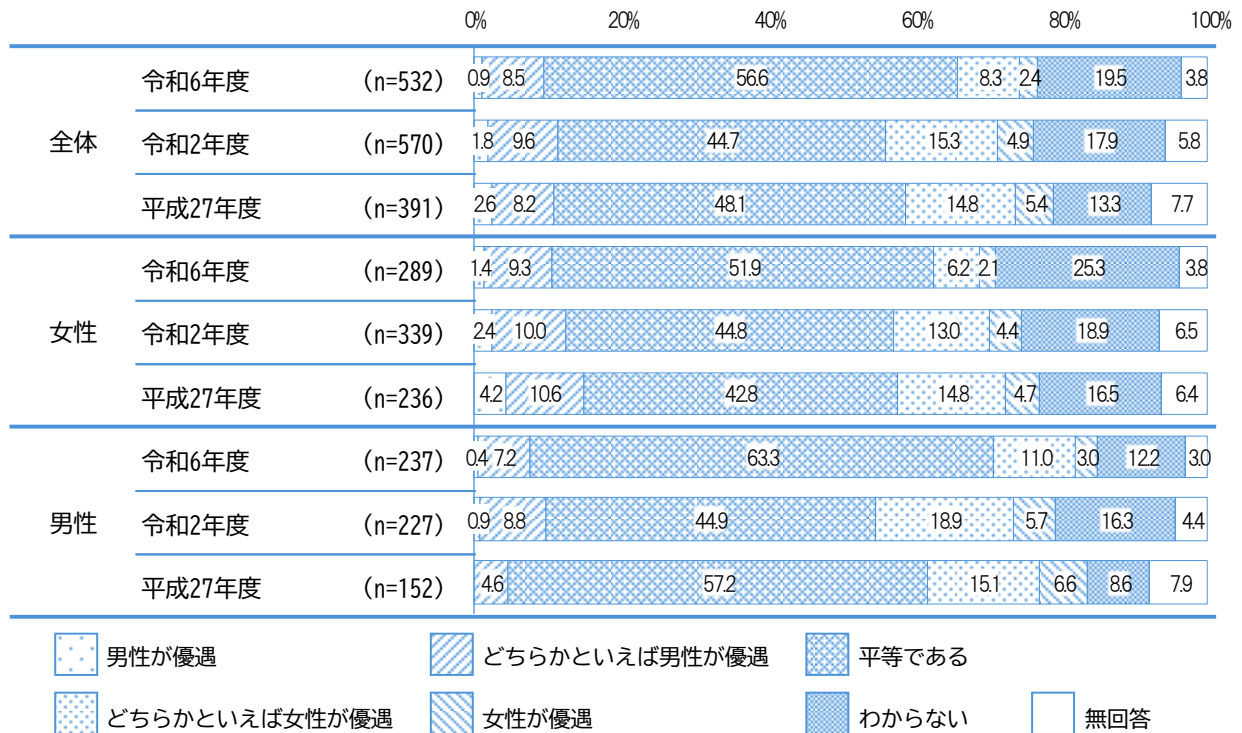


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）ではある人が 47.9%、ない人が 42.5%とない人に比べある人が 5.4 ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「大学で受けた」で『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）が 56.7%と最も高く、「高校で受けた」で『女性が優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」と「女性が優遇」を合わせた割合）が 13.9%と最も高くなっています。

③ 子どもの教育の場



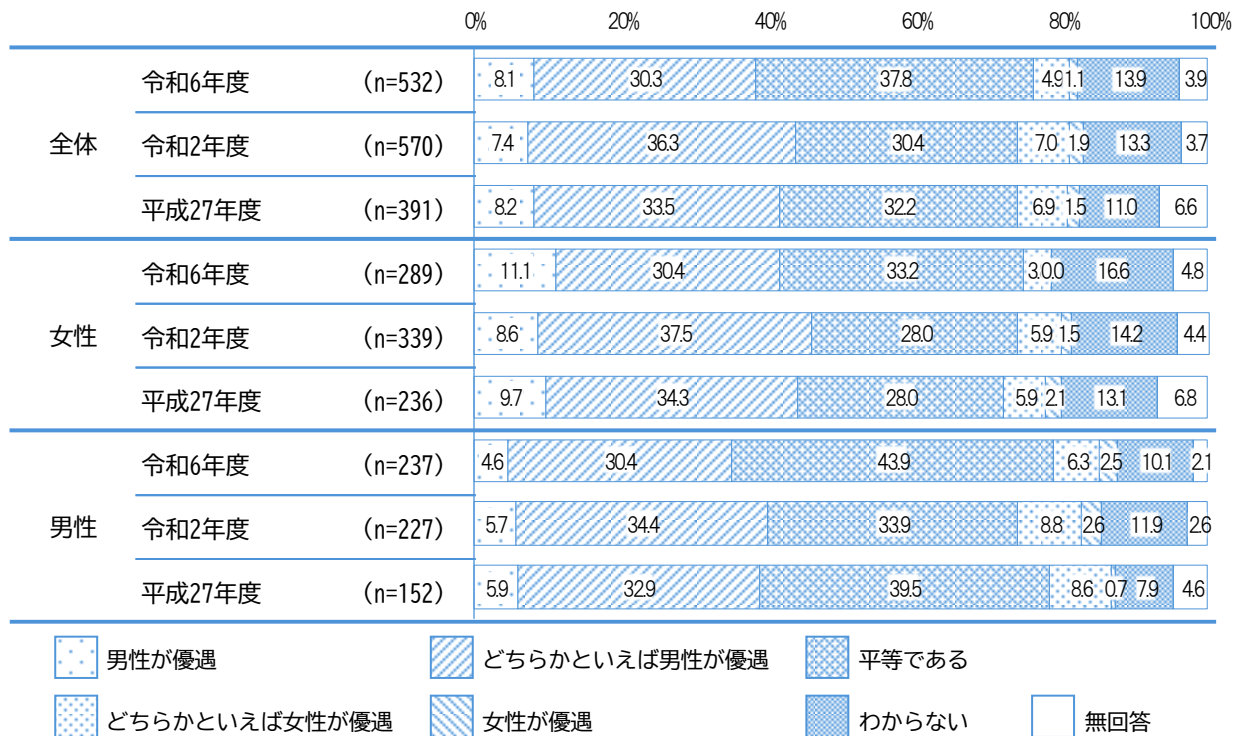
全体でみると、「平等である」が56.6%と最も高く、次いで「わからない」(19.5%)、『女性が優遇』(「どちらかといえば女性が優遇」と「女性が優遇」を合わせた割合)(10.7%)となっています。

性別でみると、「平等である」では女性が51.9%、男性が63.3%と女性に比べ男性が11.4ポイント高くなっています。

前回調査と全体と比較すると、「平等である」が11.9ポイント増加し、『女性が優遇』が9.5ポイント減少しています。

性別で比較すると、「平等である」では女性が7.1ポイント、男性が18.4ポイント増加しています。

④ 地域活動や社会活動

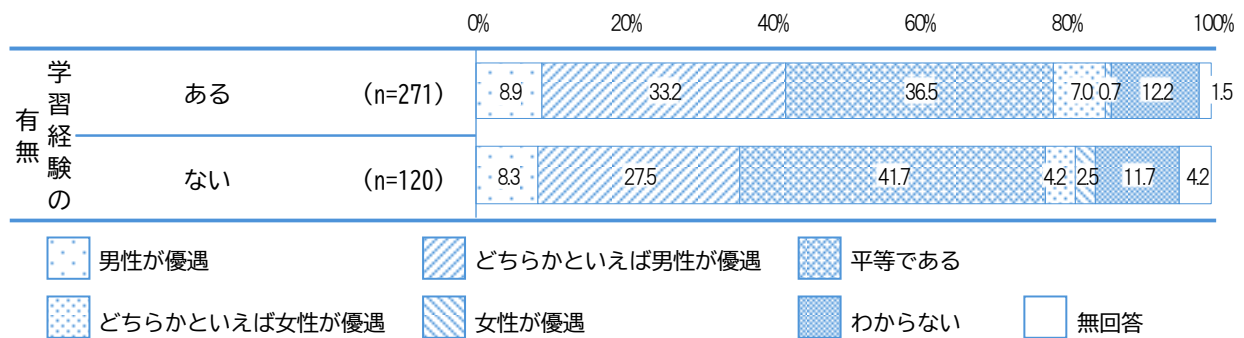


全体でみると、『男性が優遇』(「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合)が 38.4%と最も高く、次いで「平等である」(37.8%)、「わからない」(13.9%)となっています。

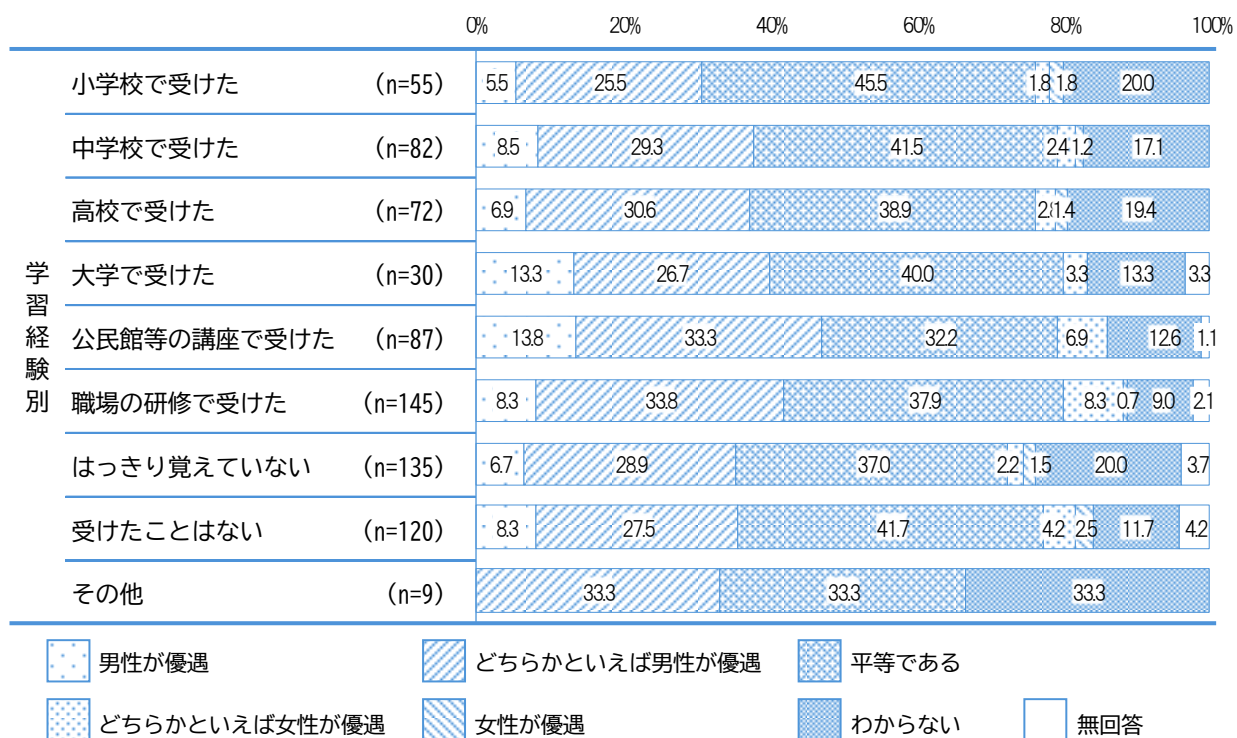
性別でみると、「平等である」では女性が 33.2%、男性が 43.9%と女性に比べ男性が 10.7 ポイント高くなっています。『男性が優遇』では女性が 41.5%、男性が 35.0%と男性に比べ女性が 6.5 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「平等である」が 7.4 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「平等である」では女性が 5.2 ポイント、男性が 10.0 ポイント増加しています。

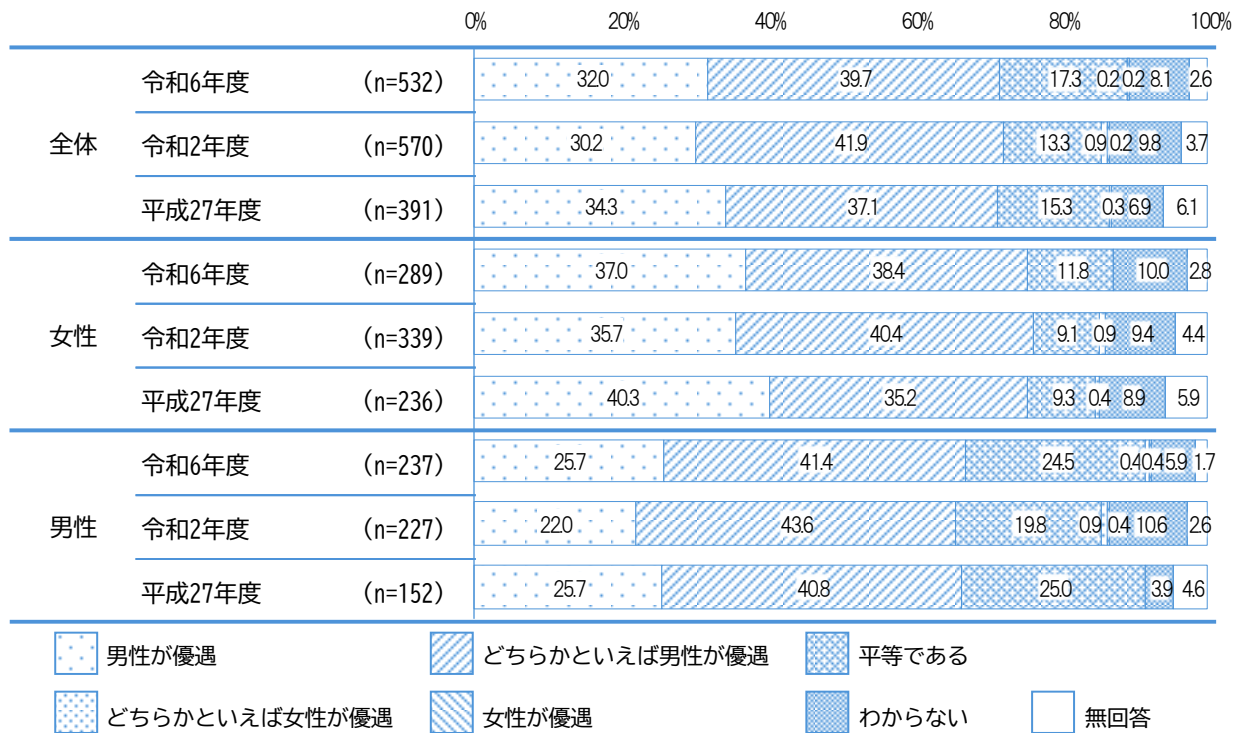


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）ではある人が42.1%、ない人が35.8%とない人に比べある人が6.3ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「公民館等の講座で受けた」で『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）が47.1%と最も高く、「職場の研修で受けた」で『女性が優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」と「女性が優遇」を合わせた割合）が9.0%と最も高くなっています。

⑤ 政治の場



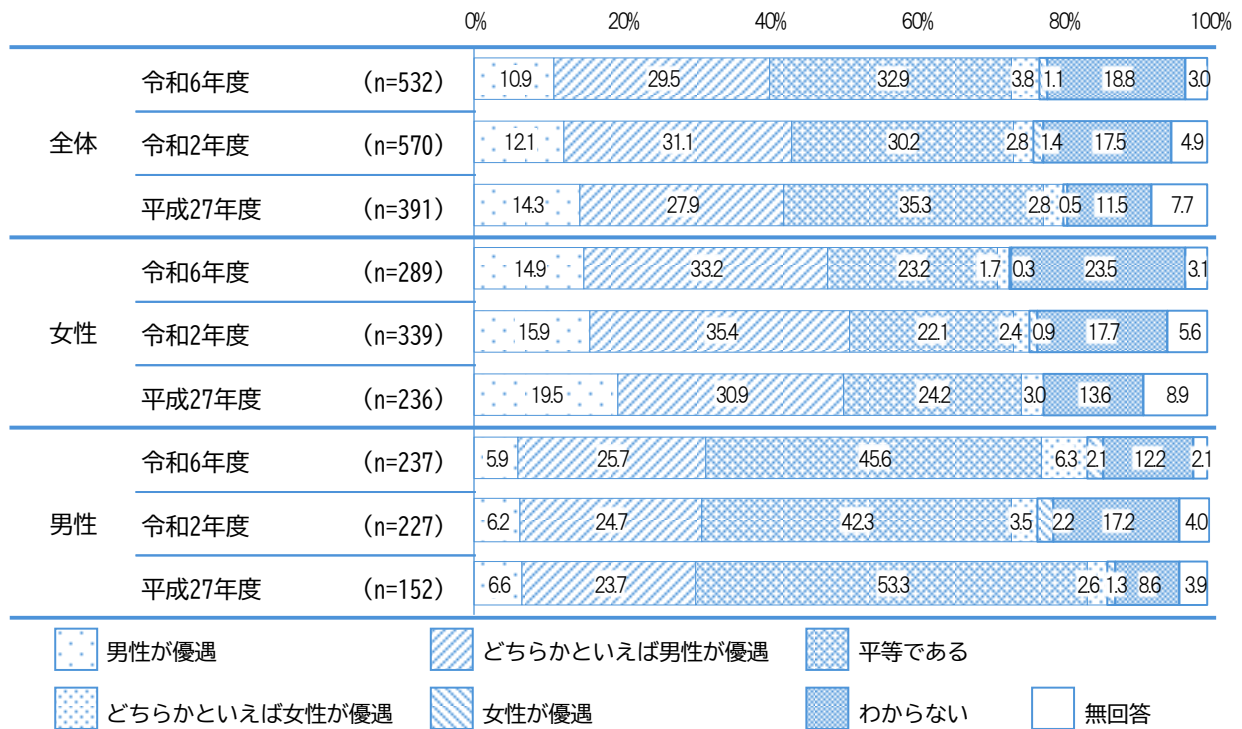
全体でみると、『男性が優遇』(「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合)が71.7%と最も高く、次いで「平等である」(17.3%)、「わからない」(8.1%)となっています。

性別でみると、『男性が優遇』では、女性が75.4%、男性が67.1%と男性に比べ女性が8.3ポイント高くなっています。「平等である」では女性が11.8%、男性が24.5%と女性に比べ男性が12.7ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

⑥ 法律や制度の上



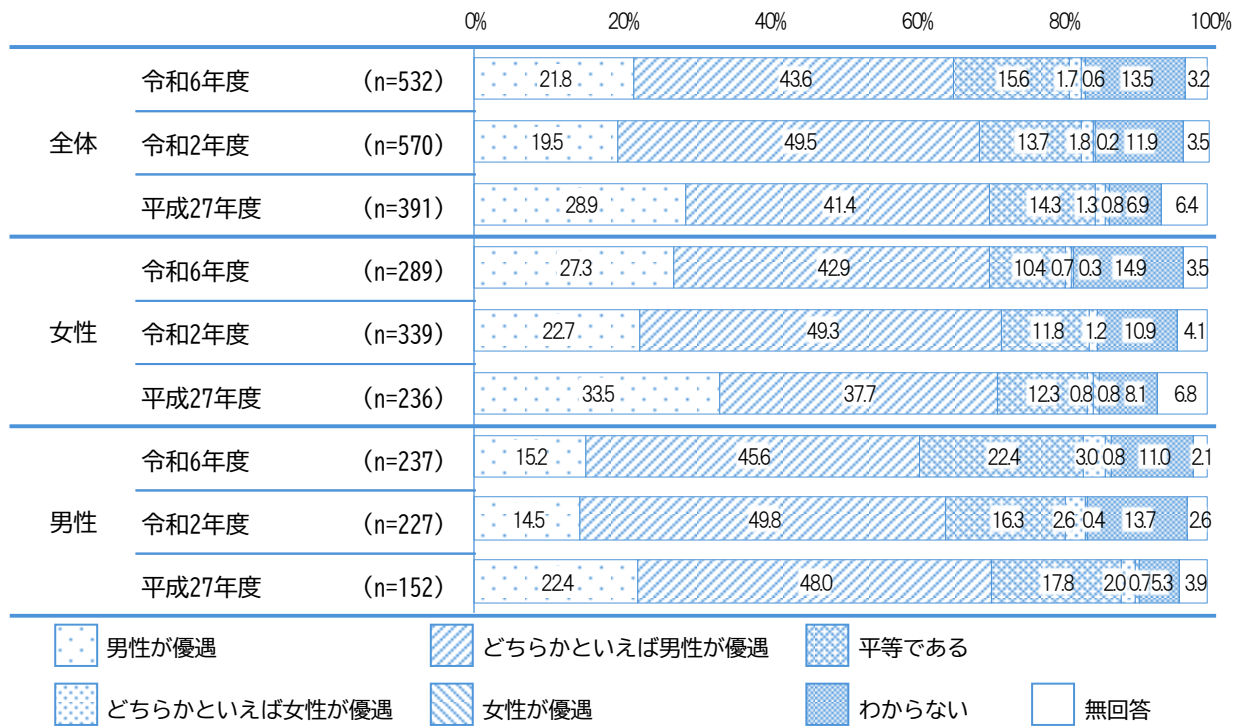
全体でみると、『男性が優遇』(「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合)が40.4%と最も高く、次いで「平等である」(32.9%)、「わからない」(18.8%)となっています。

性別でみると、『男性が優遇』では女性が48.1%、男性が31.6%と男性に比べ女性が16.5ポイント高くなっています。「平等である」では女性が23.2%、男性が45.6%と女性に比べ男性が22.4ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、「わからない」では女性が5.8ポイント増加し、男性が5.0ポイント減少しています。

⑦ 地域社会の通念・慣習・しきたり



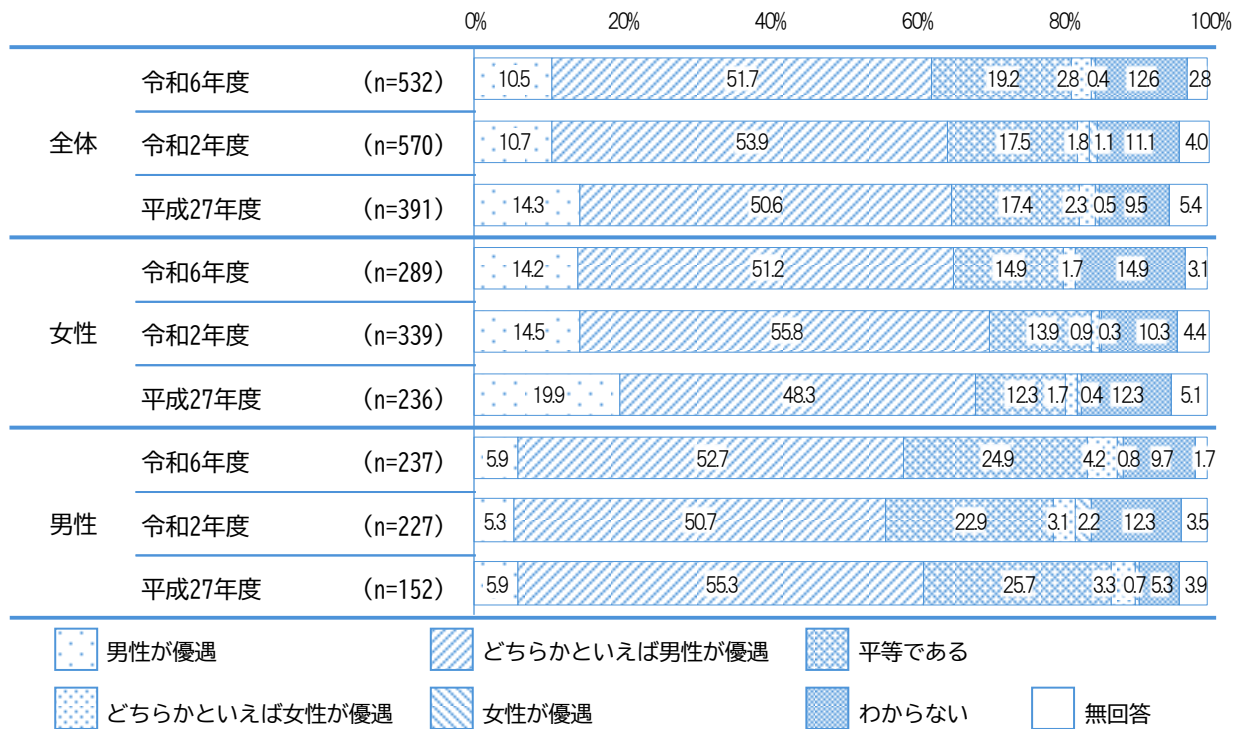
全体でみると、『男性が優遇』（「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合）が 65.4%と最も高く、「平等である」（15.6%）、「わからない」（13.5%）となっています。

性別でみると、『男性が優遇』では女性が 70.2%、男性が 60.8%と男性に比べ女性が 9.4 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、「平等である」では男性が 6.1 ポイント増加しています。

⑧ 社会全体



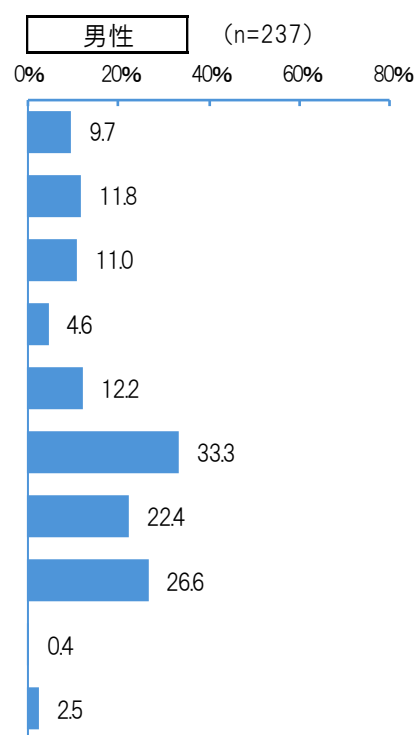
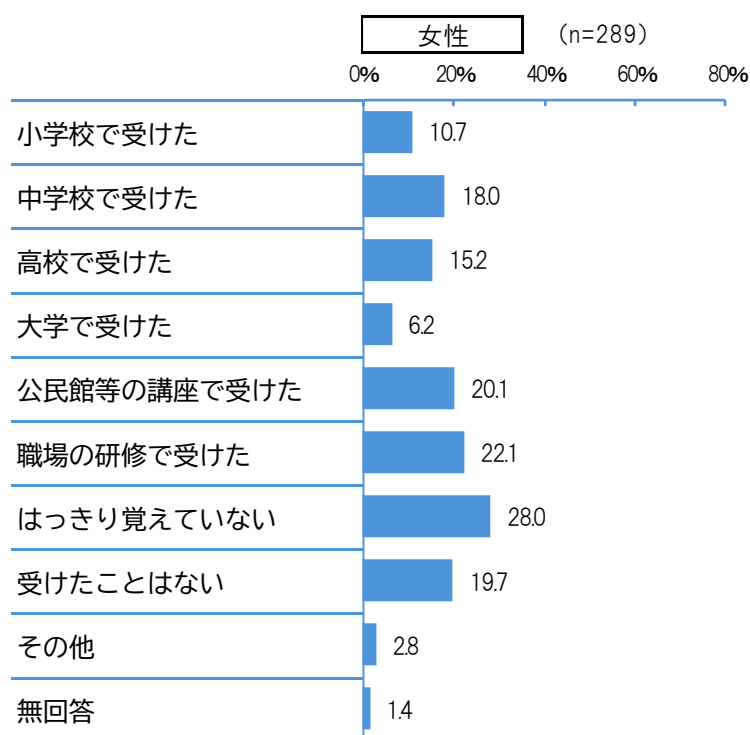
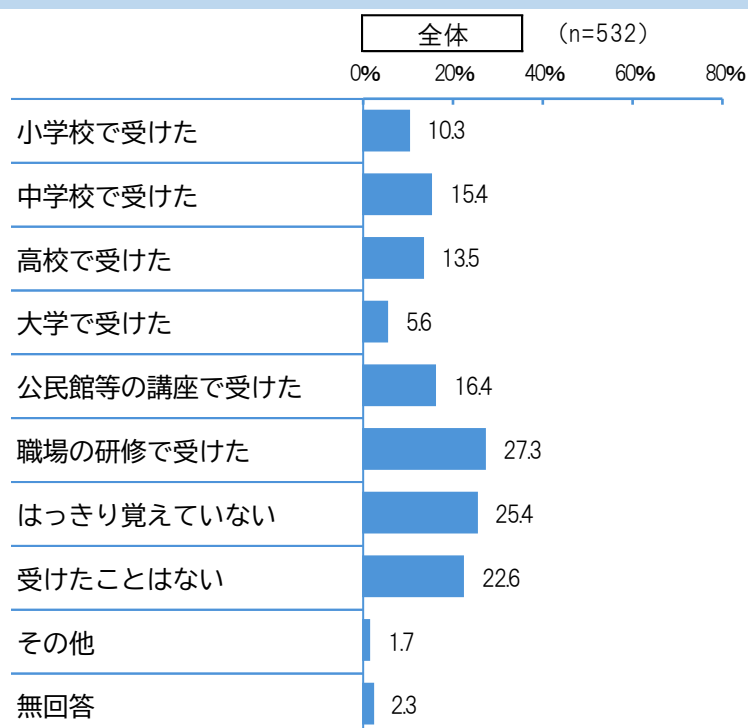
全体でみると、『男性が優遇』(「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合)が62.2%と最も高く、次いで「平等である」(19.2%)、「わからない」(12.6%)となっています。

性別でみると、『男性が優遇』では女性が65.4%、男性が58.6%と男性に比べ女性が6.8ポイント高くなっており、「平等である」では女性が14.9%、男性が24.9%と女性に比べ男性が10.0ポイント高くなっています。

前回調査と全体と比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

問9 あなたは、これまでに学校・職場・地域などで、男女共同参画についての学習を受けたことがありますか。(例)男女平等、ワーク・ライフ・バランス、性の多様性などの学習。

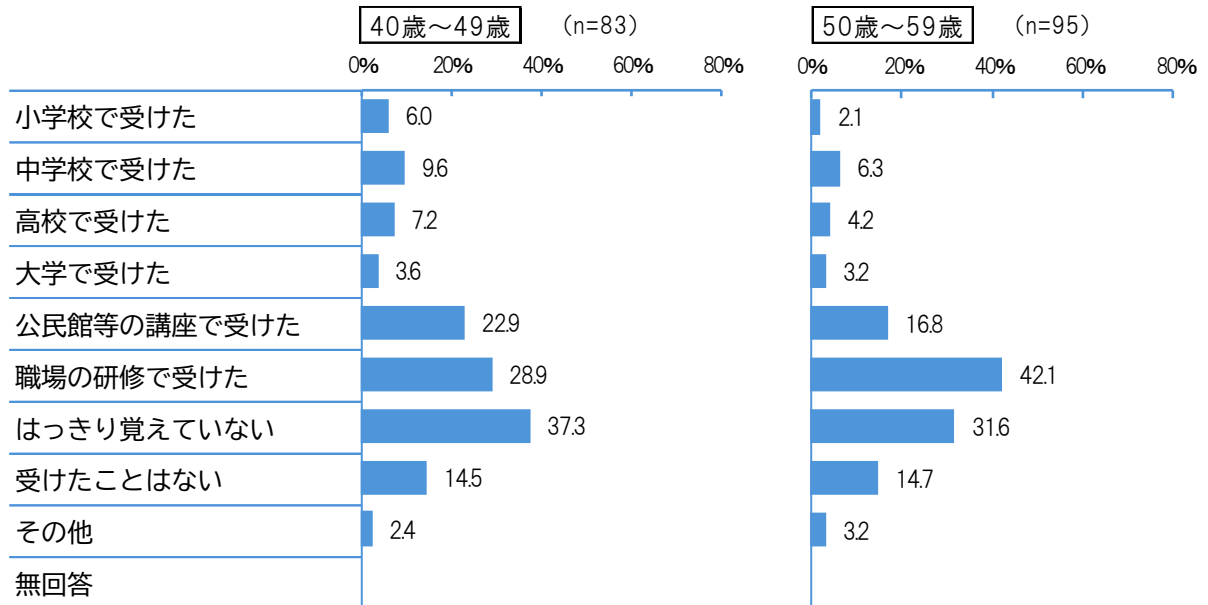
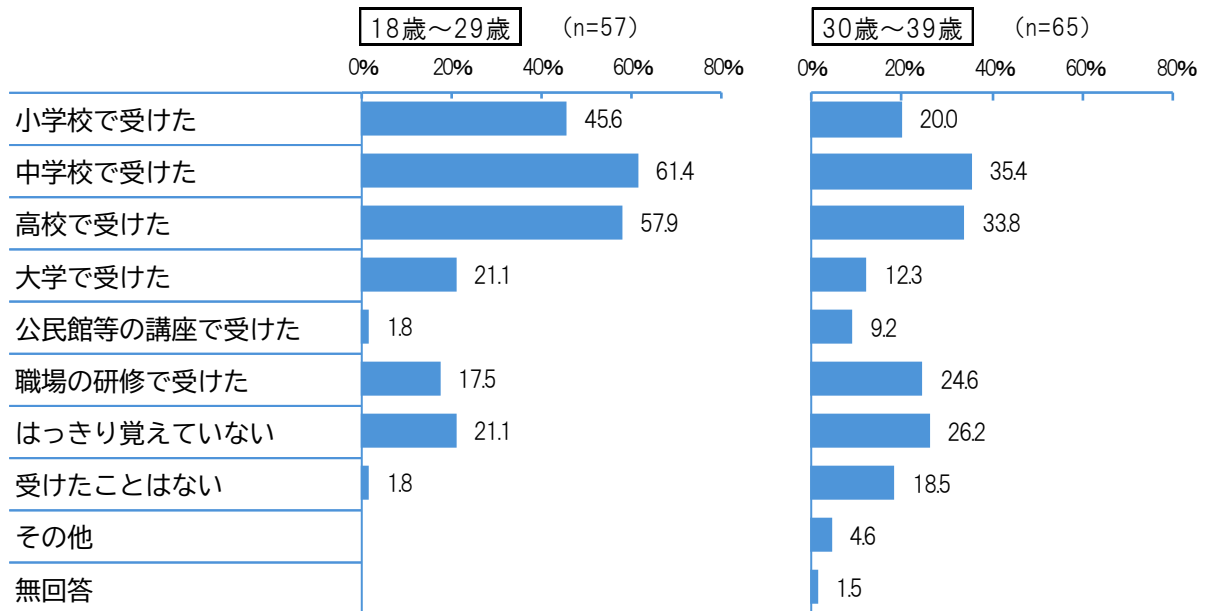


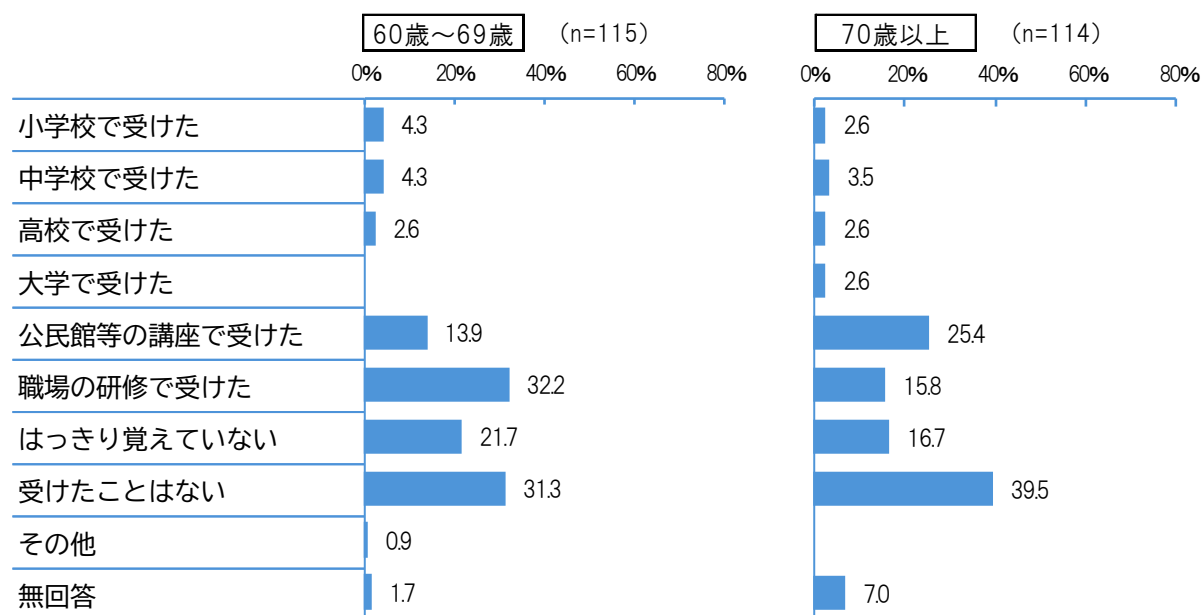
全体でみると、「職場の研修で受けた」が 27.3%と最も高く、次いで「はっきり覚えていない」(25.4%)、「受けたことはない」(22.6%)となっています。

性別でみると、「職場の研修で受けた」では女性が 22.1%、男性が 33.3%と女性に比べ男性が 11.2 ポイント高くなっています。

■その他意見

地域の婦人会など。
私が 20 代の頃、男女平等が言われたし初の女性大臣などが誕生したが「ゆとり教育」で男女平等から世界平等に飛び越えてしまったので更に深刻化した。
子どもの学校。
テレビ。
PTA 活動。
授業参観で(子供の授業)。
組合(労働)。
講演会に参加。
保育園の保護者が参加する講習。
友人に誘われたワークイベントに参加した。

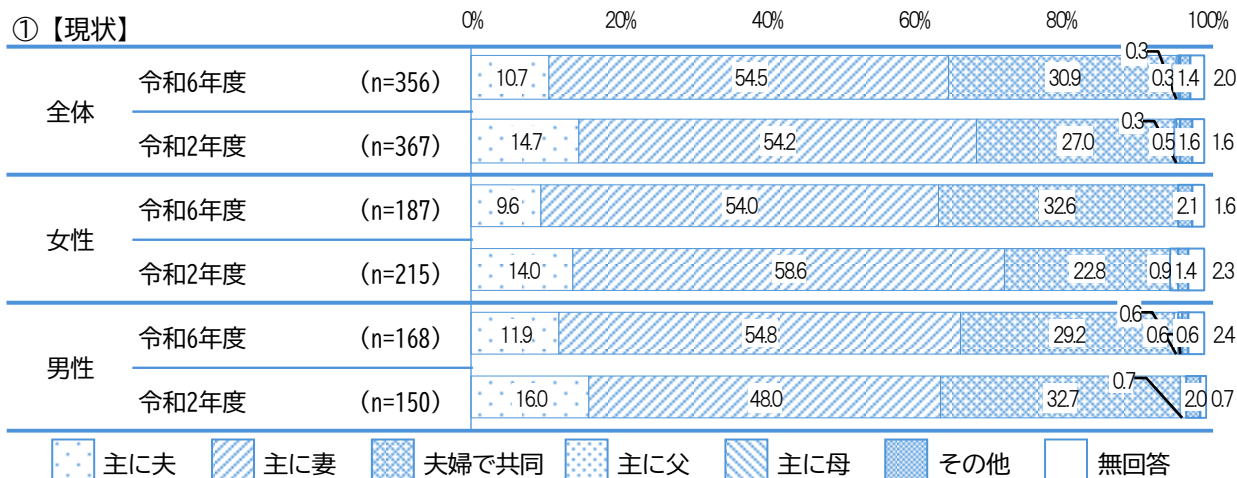




年代別でみると、「受けたことはない」が70歳以上で39.5%と最も高く、次いで60歳代(31.3%)、30歳代(18.5%)となっています。

問10 【結婚している方におうかがいします。】あなたの家庭では、次の①～⑪の家庭内の役割を主に誰がしていますか。(1)【現状】と右側の(2)【理想】を、それぞれお答えください。

(1)家計の管理

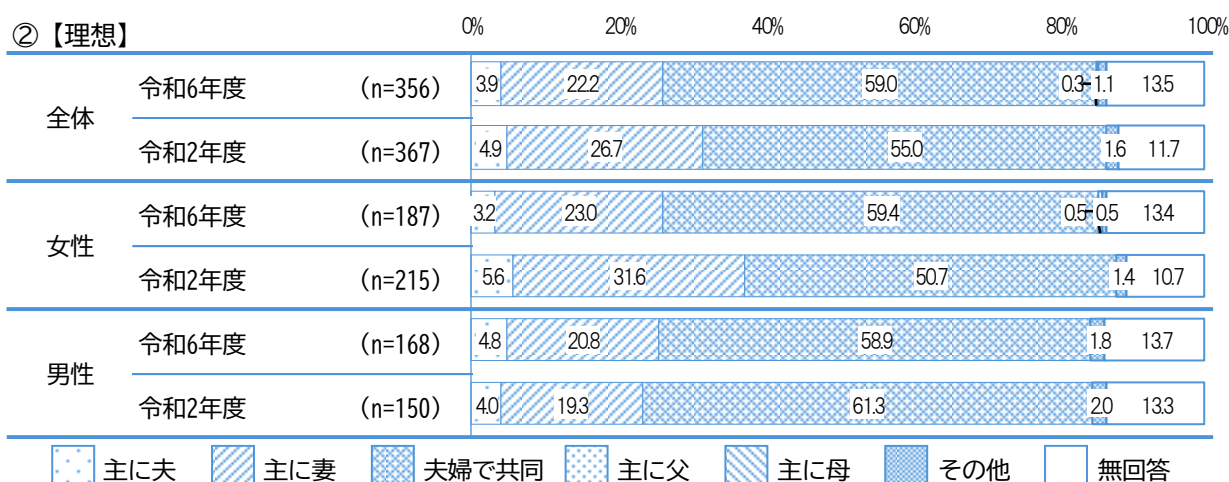


全体でみると、「主に妻」が54.5%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(30.9%)、「主に夫」(10.7%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、女性では「夫婦で共同」が9.8ポイント増加し、男性では「主に妻」が6.8ポイント増加しています。

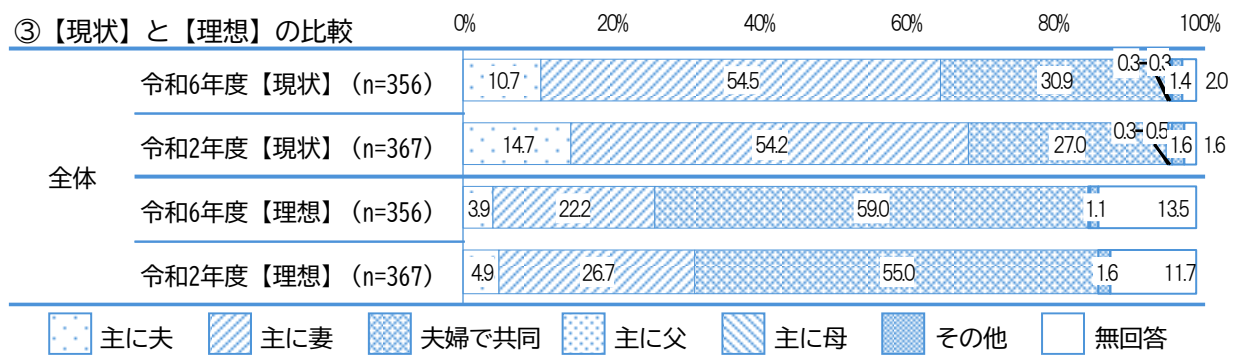


全体でみると、「夫婦で共同」が59.0%と最も高く、次いで「主に妻」(22.2%)、「主に夫」(3.9%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

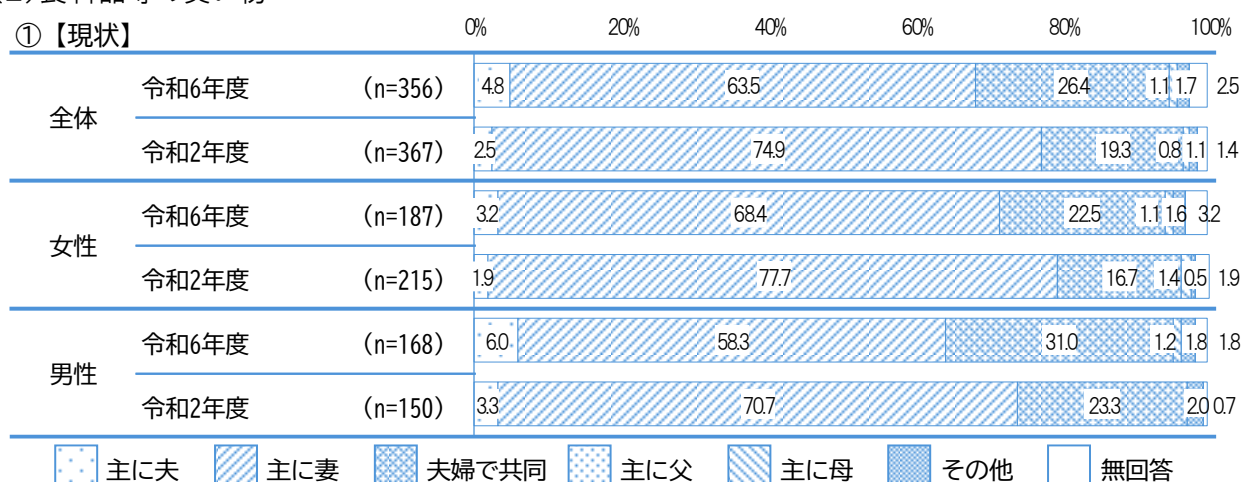
性別で比較すると、女性では「主に妻」が8.6ポイント減少し、「夫婦で共同」が8.7ポイント増加しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が 59.0%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が 54.5%と最も高く、「夫婦で共同」は 30.9%と【理想】とは 28.1 ポイントの差があります。

(2)食料品等の買い物

①【現状】



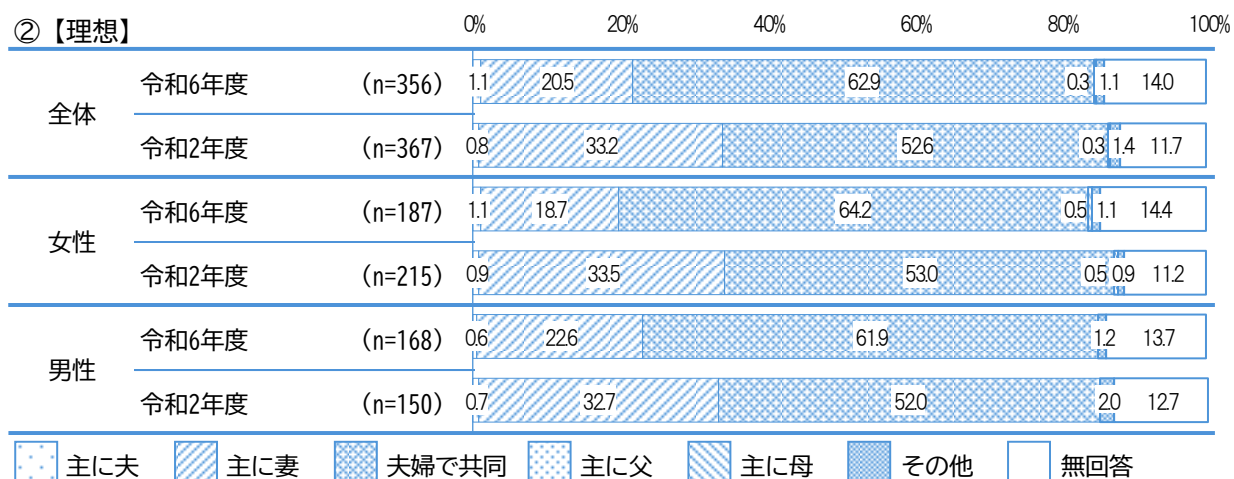
全体でみると、「主に妻」が63.5%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(26.4%)、「主に夫」(4.8%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が68.4%、男性が58.3%と女性に比べ女性が10.1ポイント高く、「夫婦で共同」では女性が22.5%、男性が31.0%と女性に比べ男性が8.5ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が11.4ポイント減少しています。

性別で比較すると、「主に妻」では女性が9.3ポイント、男性が12.4ポイント減少しています。

②【理想】

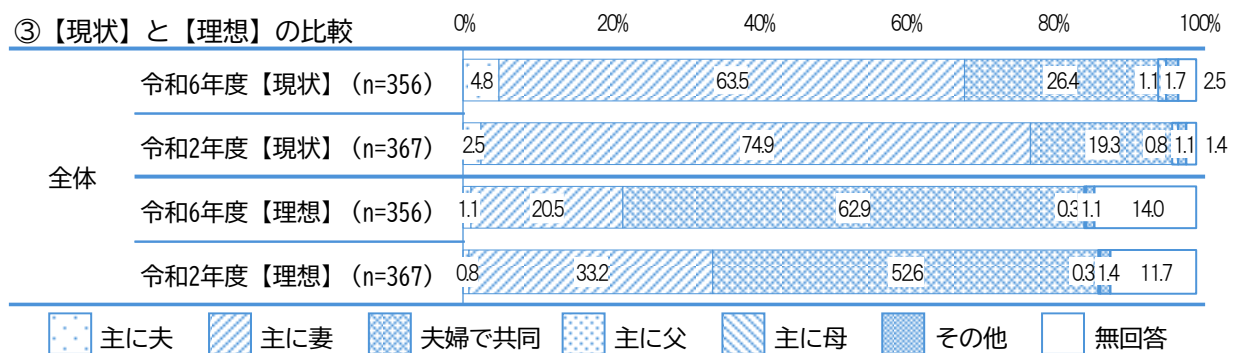


全体でみると、「夫婦で共同」が62.9%と最も高く、次いで「主に妻」(20.5%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が12.7ポイント減少し、「夫婦で共同」が10.3ポイント増加しています。

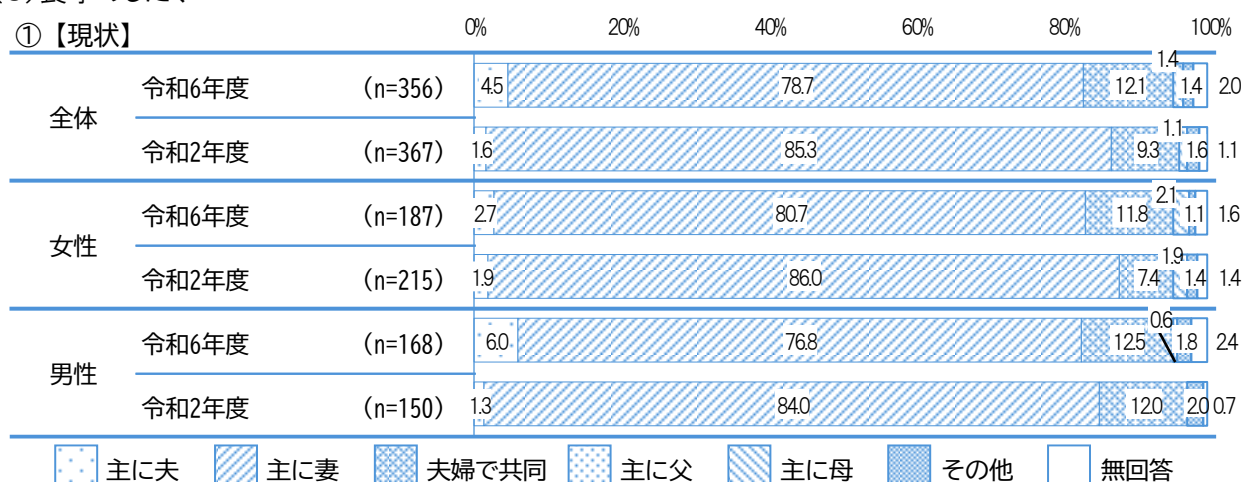
性別で比較すると、「主に妻」では女性が14.8ポイント、男性が10.1ポイント減少しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が 62.9%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が 63.5%と最も高く、「夫婦で共同」は 26.4%と【理想】とは 36.5 ポイントの差があります。

(3) 食事のしたく

①【現状】



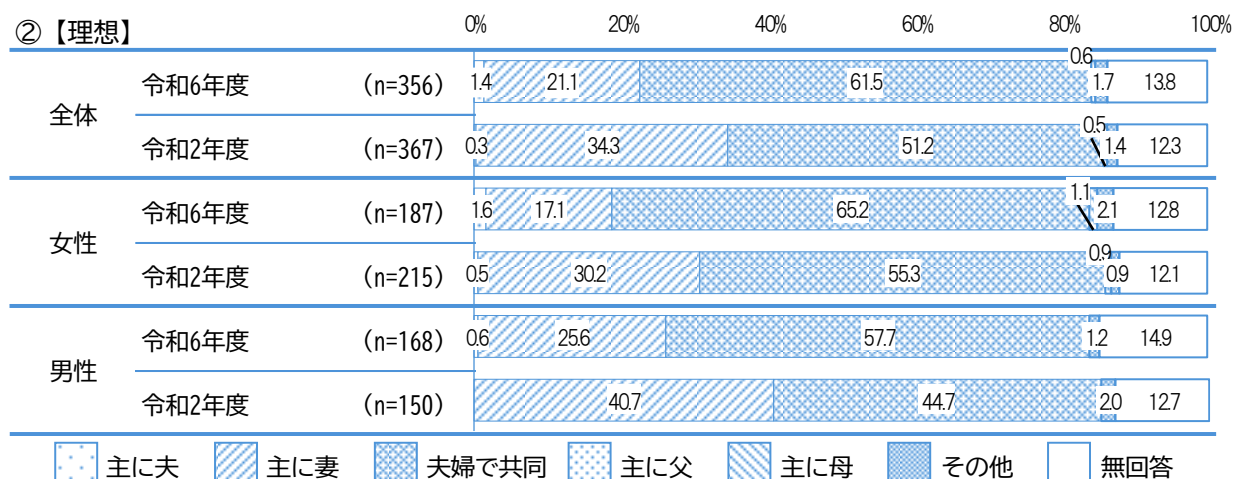
全体でみると、「主に妻」が 78.7%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(12.1%)、「主に夫」(4.5%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が 6.6 ポイント減少しています。

性別で比較すると、「主に妻」では女性が 5.3 ポイント、男性が 7.2 ポイント減少しています。

②【理想】

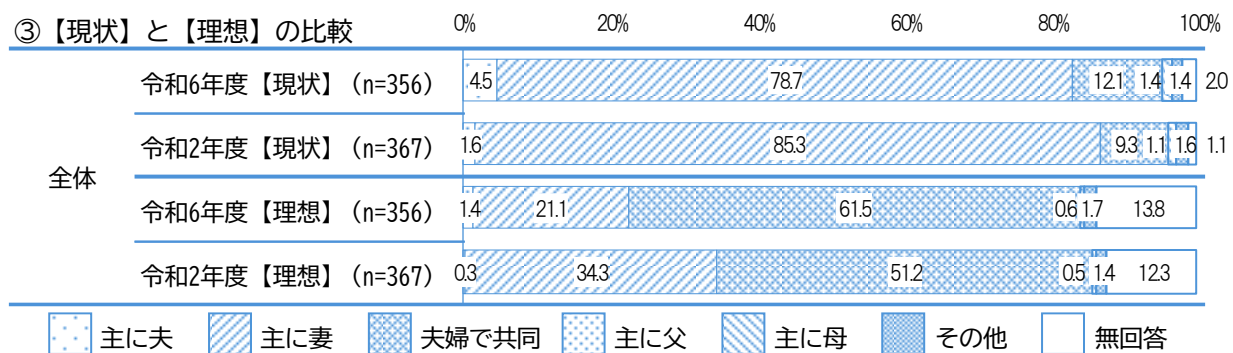


全体でみると、「夫婦で共同」が 61.5%と最も高く、次いで「主に妻」(21.1%)、「その他」(1.7%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が 17.1%、男性が 25.6%と女性に比べ男性が 8.5 ポイント高く、「夫婦で共同」では女性が 65.2%、男性が 57.7%と男性に比べ女性が 7.5 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が 13.2 ポイント減少し、「夫婦で共同」が 10.3 ポイント増加しています。

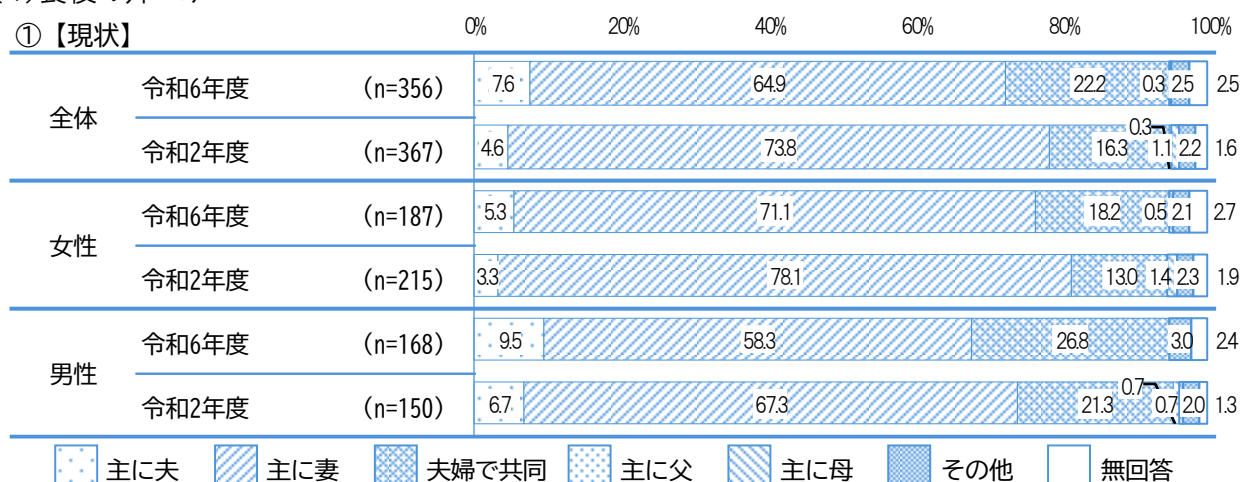
性別で比較すると、「主に妻」では女性が 13.1 ポイント、男性が 15.1 ポイント減少しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が 61.5%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が 78.7%と最も高く、「夫婦で共同」は 12.1%と【理想】とは 49.4 ポイントの差があります。

(4)食後の片づけ

①【現状】



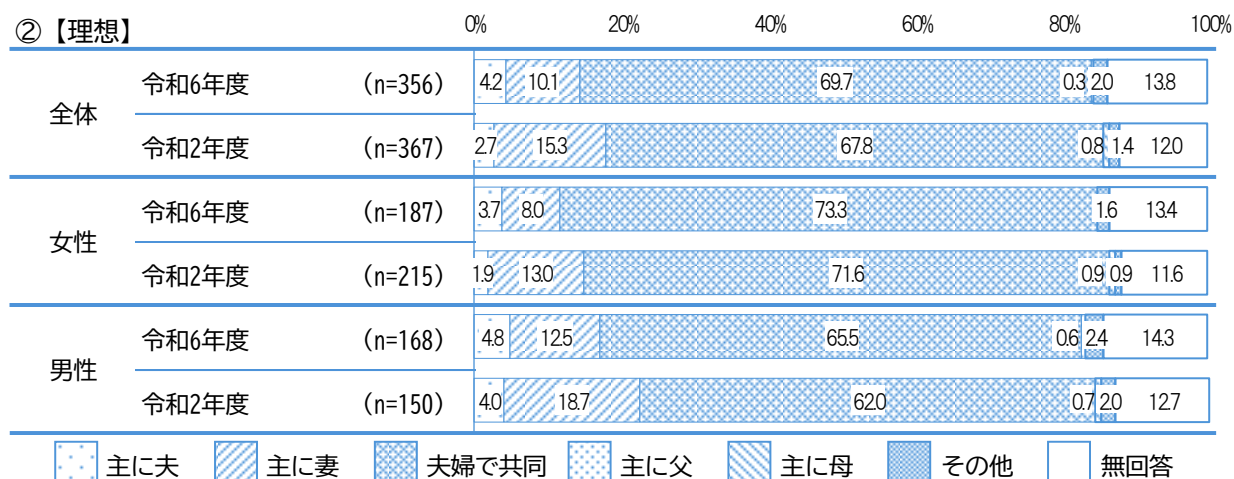
全体でみると、「主に妻」が64.9%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(22.2%)、「主に夫」(7.6%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が71.1%、男性が58.3%と女性に比べ女性が12.8ポイント高く、「夫婦で共同」では女性が18.2%、男性が26.8%と女性に比べ男性が8.6ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が8.9ポイント減少しています。

性別で比較すると、「主に妻」では女性が7.0ポイント、男性が9.0ポイント減少しています。

②【理想】

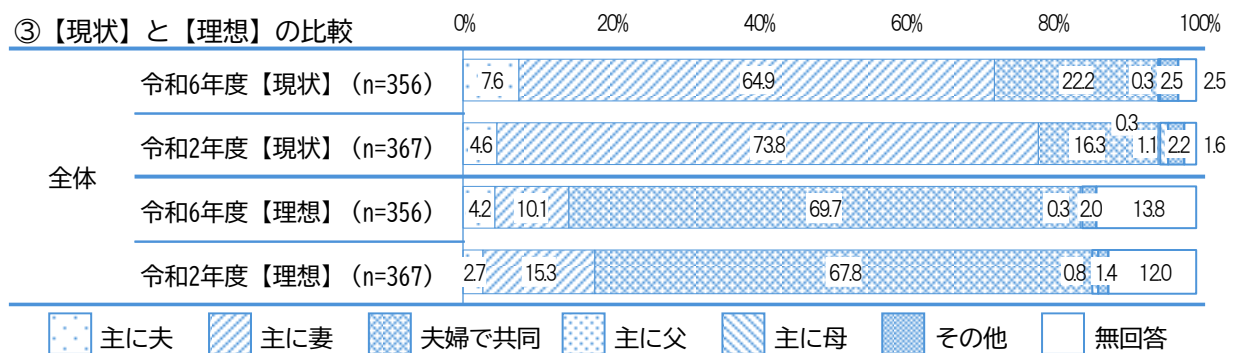


全体でみると、「夫婦で共同」が69.7%と最も高く、次いで「主に妻」(10.1%)、「主に夫」(4.2%)となっています。

性別でみると、「夫婦で共同」では女性が73.3%、男性が65.5%と女性に比べ女性が7.8ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が5.2ポイント減少しています。

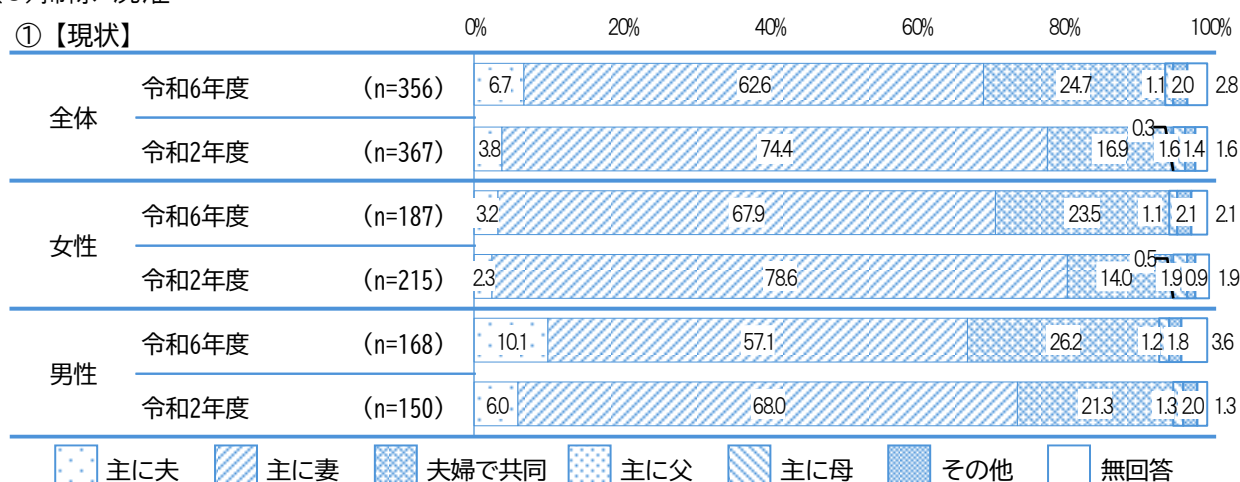
性別で比較すると、「主に妻」では女性が5.0ポイント、男性が6.2ポイント減少しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が 69.7%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が 64.9%と最も高く、「夫婦で共同」は 22.2%と【理想】とは 47.5 ポイントの差があります。

(5) 掃除・洗濯

①【現状】

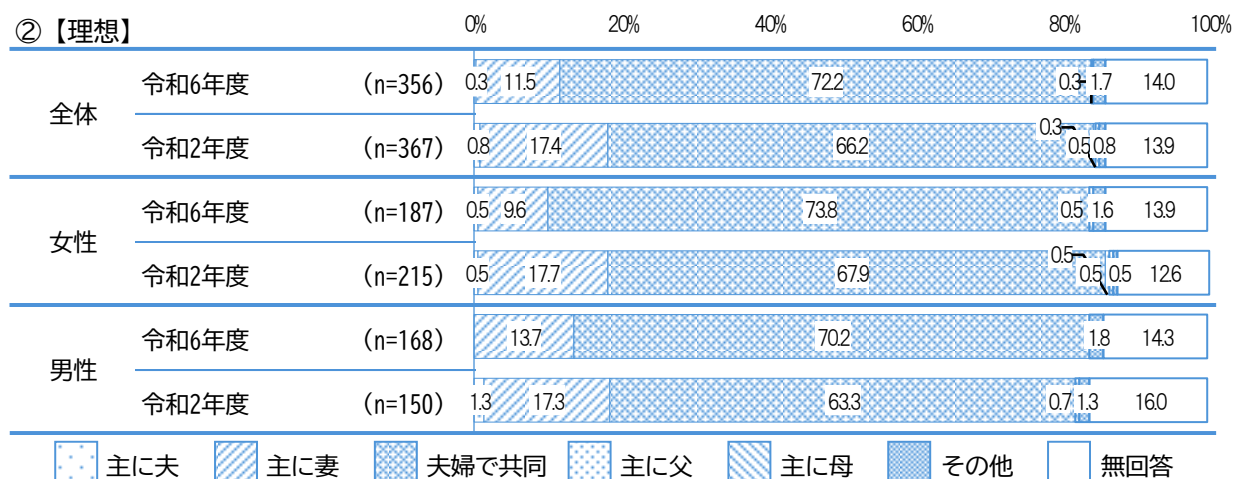


全体でみると、「主に妻」が62.6%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(24.7%)、「主に夫」(6.7%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が67.9%、男性が57.1%と男性に比べ女性が10.8ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が11.8ポイント減少し、「夫婦で共同」が7.8ポイント増加しています。性別で比較すると、「主に妻」では女性が10.7ポイント、男性が10.9ポイント減少しています。

②【理想】

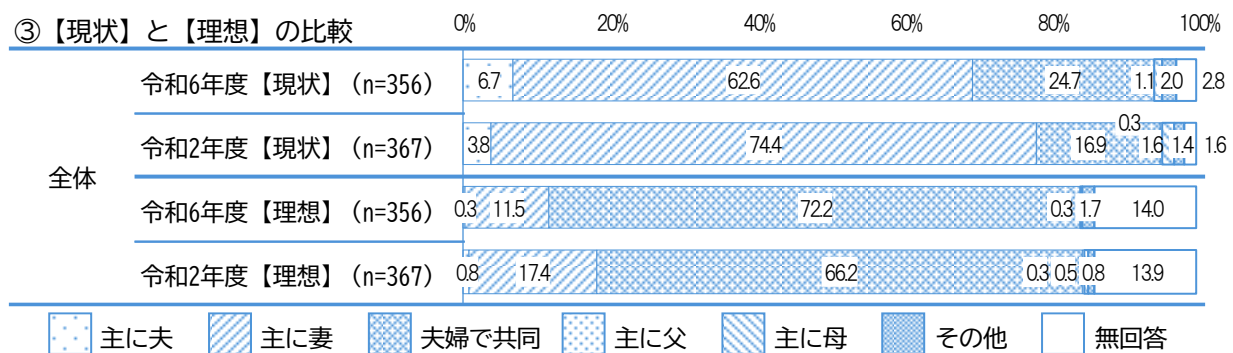


全体でみると、「夫婦で共同」が72.2%と最も高く、次いで「主に妻」(11.5%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「主に妻」が5.9ポイント減少し、「夫婦で共同」が6.0ポイント増加しています。

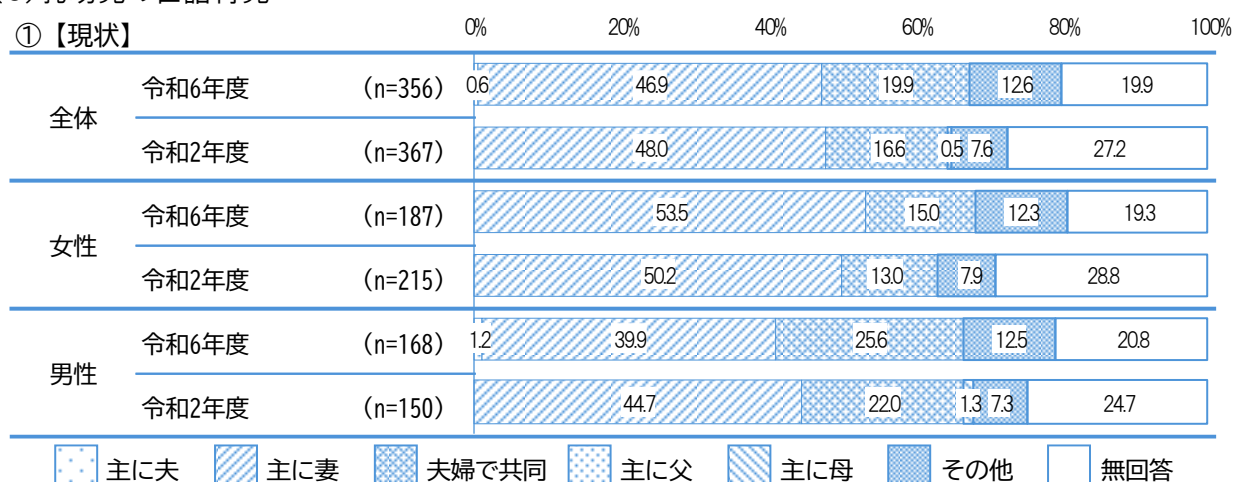
性別で比較すると、女性では「主に妻」が8.1ポイント減少しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が 72.2%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が 62.6%と最も高く、「夫婦で共同」は 24.7%と【理想】とは 47.5 ポイントの差があります。

(6)乳幼児の世話育児

①【現状】



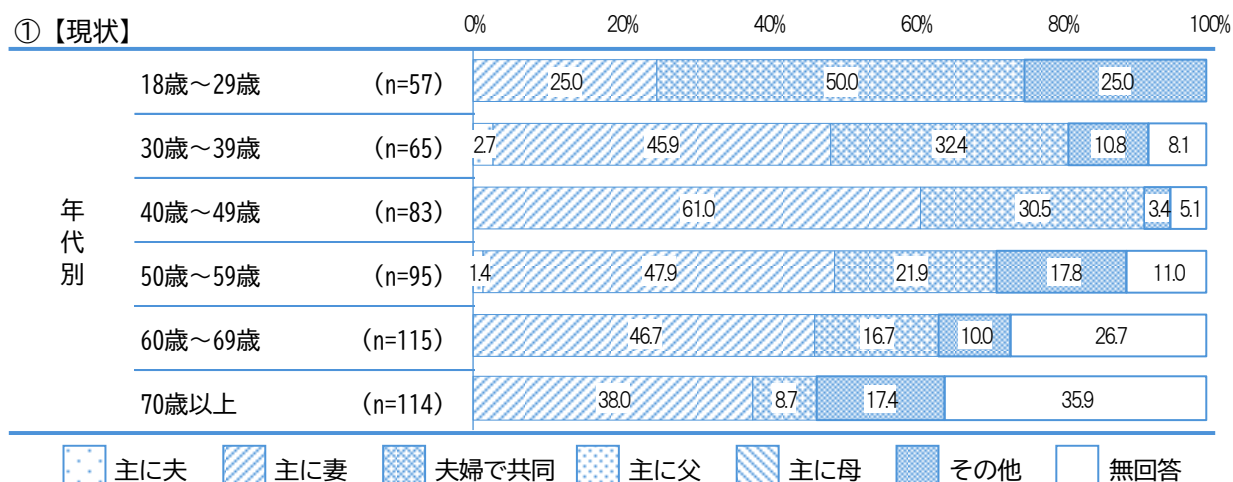
全体でみると、「主に妻」が46.9%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(19.9%)、「その他」(12.6%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が53.5%、男性が39.9%と女性に比べ女性が13.6ポイント高く、「夫婦で共同」では女性が15.0%、男性が25.6%と女性に比べ男性が10.6ポイント高くなっています。

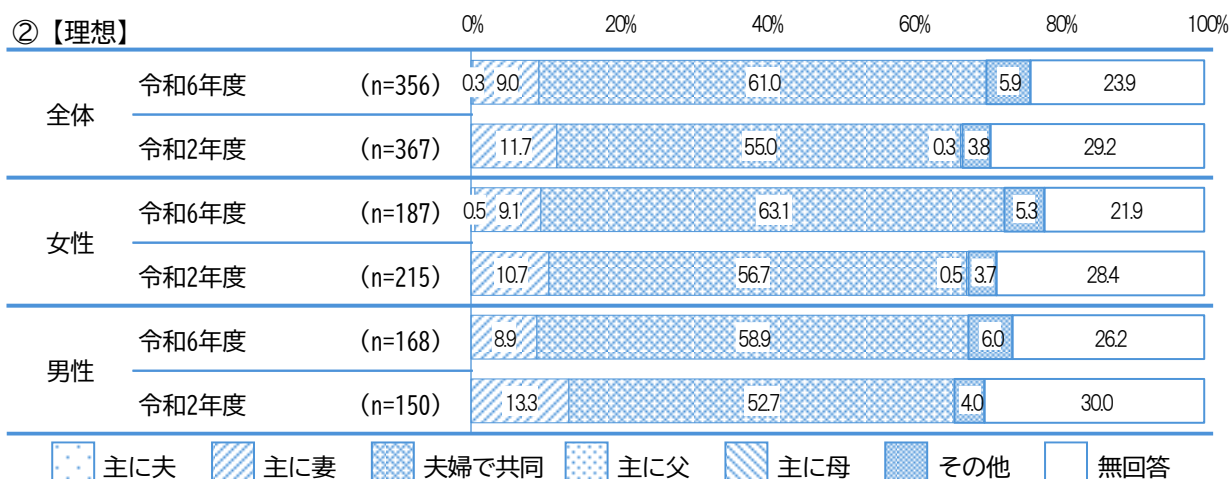
前回調査と全体で比較すると、「その他」が5.0ポイント増加しています。

性別で比較すると、男性では「その他」が5.2ポイント増加しています。

①【現状】



年代別でみると、「夫婦で共同」が18歳～29歳で50.0%と最も高く、次いで30歳代(32.4%)、40歳代(30.5%)と、年代が高くなるにつれ、減少傾向にあります。

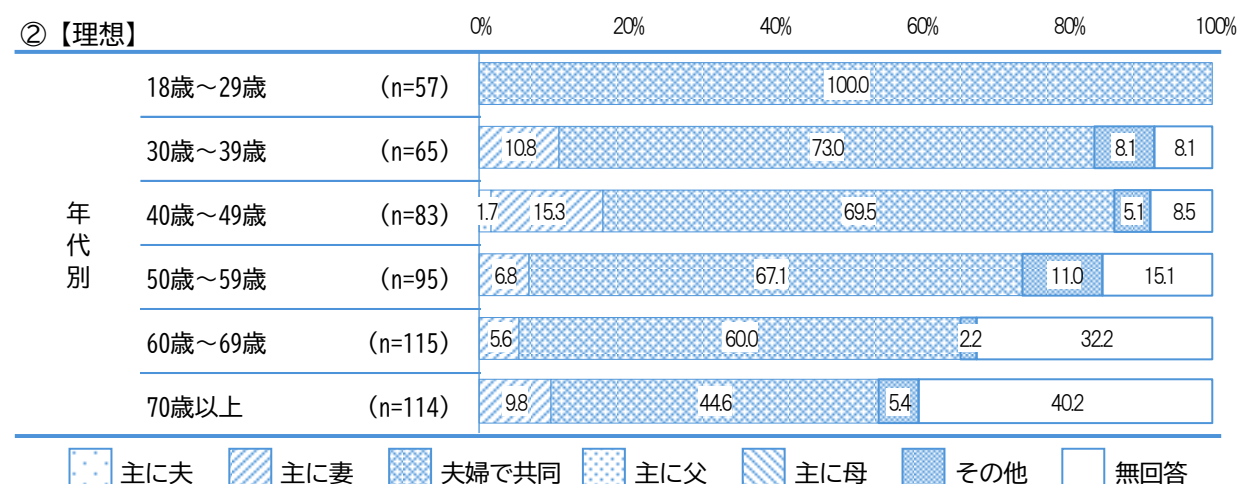


全体でみると、「夫婦で共同」が61.0%と最も高く、次いで「主に妻」(9.0%)、「その他」(5.9%)となっています。

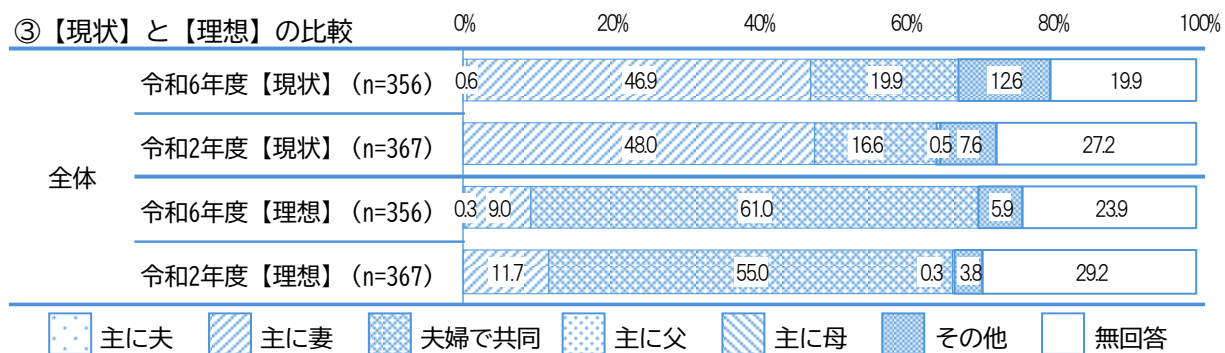
性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「夫婦で共同」が6.0ポイント増加しています。

性別で比較すると、「夫婦で共同」では女性が6.4ポイント、男性が6.2ポイント増加しています。



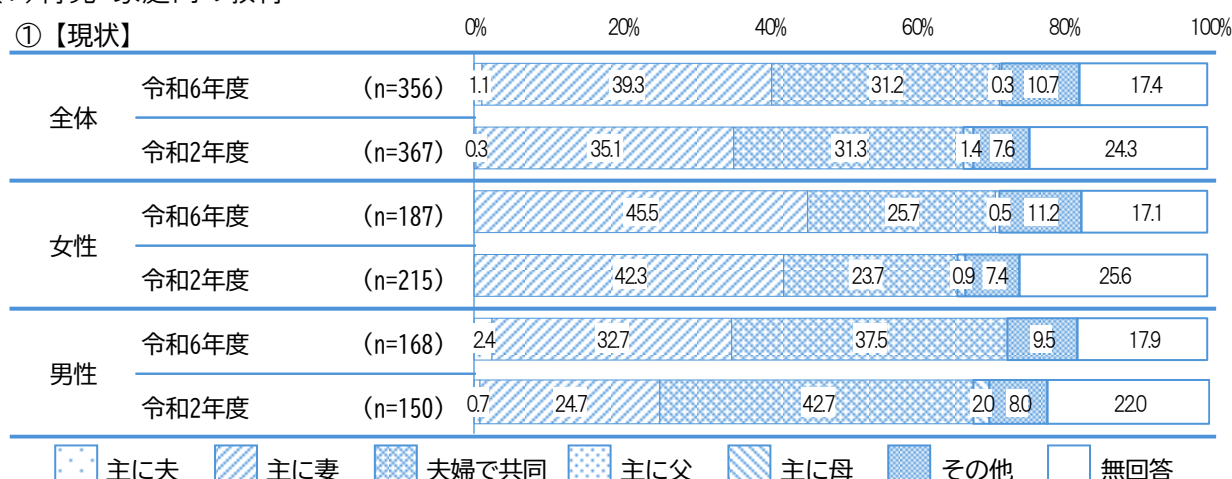
年代別でみると、「夫婦で共同」が18歳～29歳で100.0%と最も高く、次いで30歳代(73.0%)、40歳代(69.5%)と、年代が高くなるにつれ、減少傾向にあります。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が61.0%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が46.9%と最も高く、「夫婦で共同」は19.9%と【理想】とは41.1ポイントの差があります。

(7) 育児・家庭内の教育

①【現状】



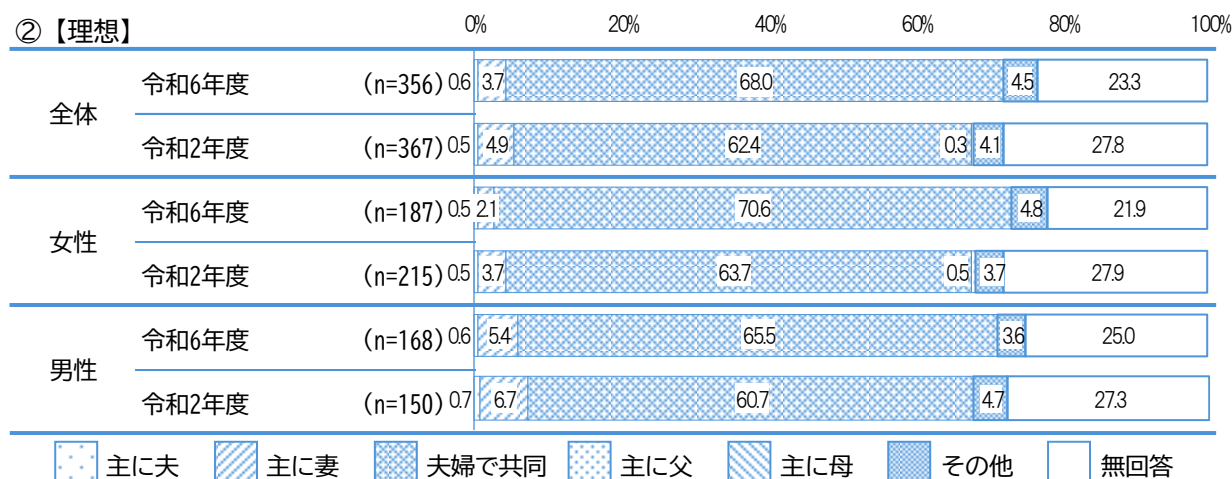
全体でみると、「主に妻」が 39.3%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(31.2%)、「その他」(10.7%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が 45.5%、男性が 32.7%と女性に比べ女性が 12.8 ポイント高く、「夫婦で共同」では女性が 25.7%、男性が 37.5%と女性に比べ男性が 11.8 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、男性では「主に妻」が 8.0 ポイント増加し、「夫婦で共同」が 5.2 ポイント減少しています。

②【理想】

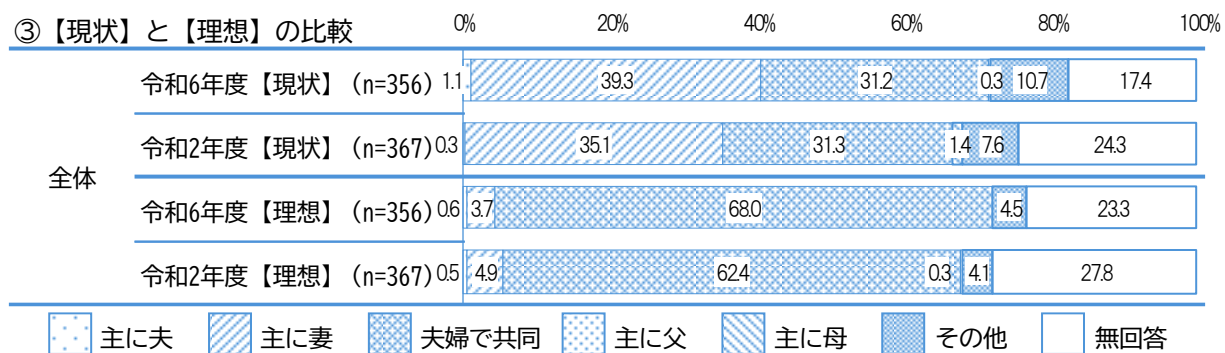


全体でみると、「夫婦で共同」が 68.0%と最も高く、次いで「その他」(4.5%)、「主に妻」(3.7%)となっています。

性別でみると、「夫婦で共同」では女性が 70.6%、男性が 65.5%と女性に比べ女性が 5.1 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「夫婦で共同」が 5.6 ポイント増加しています。

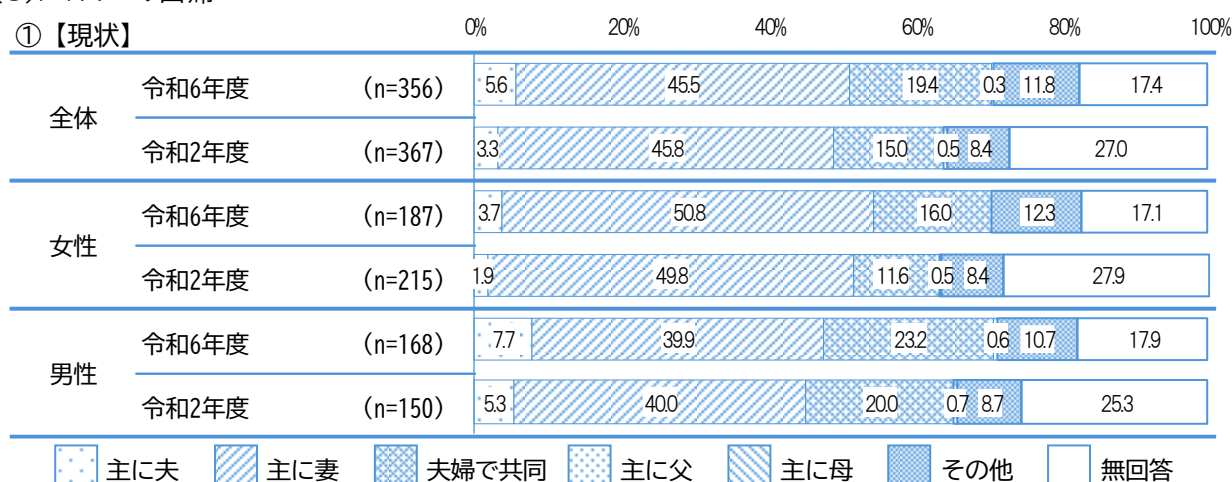
性別で比較すると、女性では「夫婦で共同」が 6.9 ポイント増加しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が68.0%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が39.3%と最も高く、「夫婦で共同」は31.2%と【理想】とは36.8ポイントの差があります。

(8)PTAへの出席

①【現状】



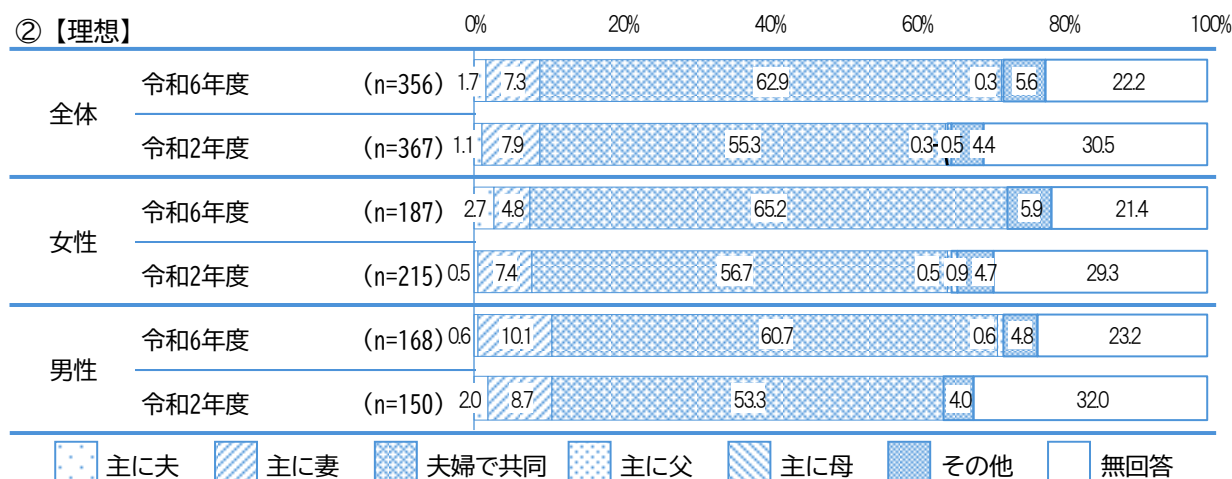
全体でみると、「主に妻」が45.5%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(19.4%)、「その他」(11.8%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が50.8%、男性が39.9%と女性に比べ女性が10.9ポイント高く、「夫婦で共同」では女性が16.0%、男性が23.2%と女性に比べ男性が7.2ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

②【理想】

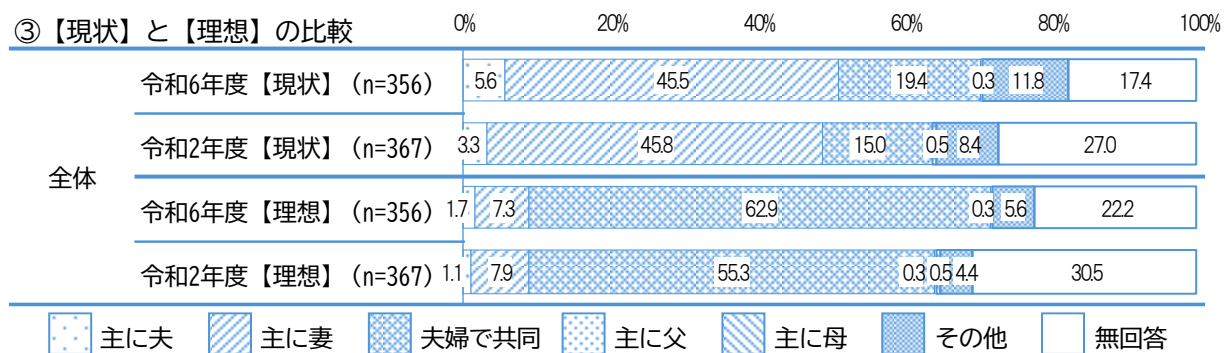


全体でみると、「夫婦で共同」が62.9%と最も高く、次いで「主に妻」(7.3%)、「その他」(5.6%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が4.8%、男性が10.1%と女性に比べ男性が5.3ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「夫婦で共同」が7.6ポイント増加しています。

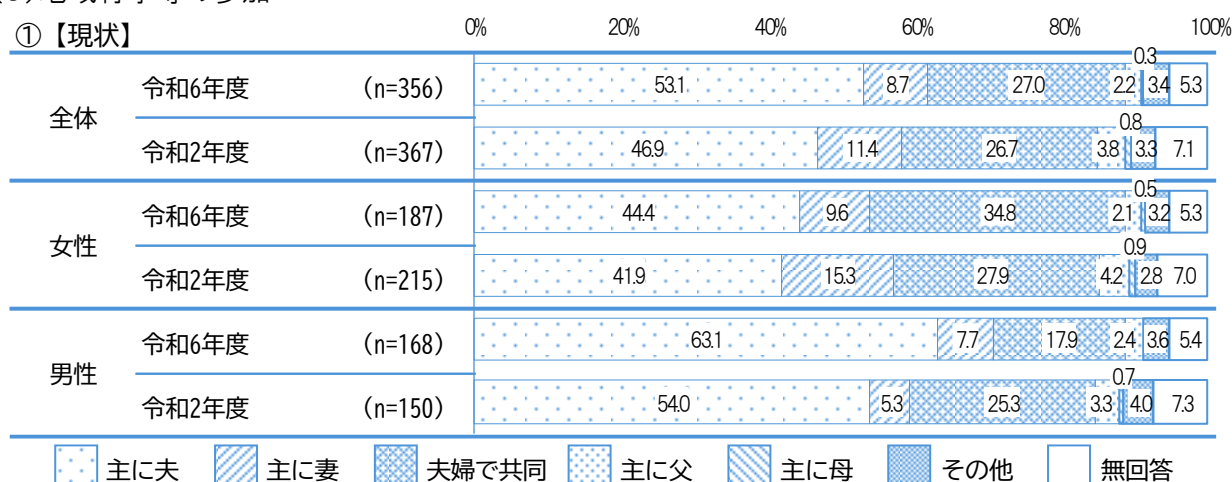
性別で比較すると、「夫婦で共同」では女性が8.5ポイント、男性が7.4ポイント増加しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が62.9%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が45.5%と最も高く、「夫婦で共同」は19.4%と【理想】とは43.5ポイントの差があります。

(9)地域行事等の参加

①【現状】



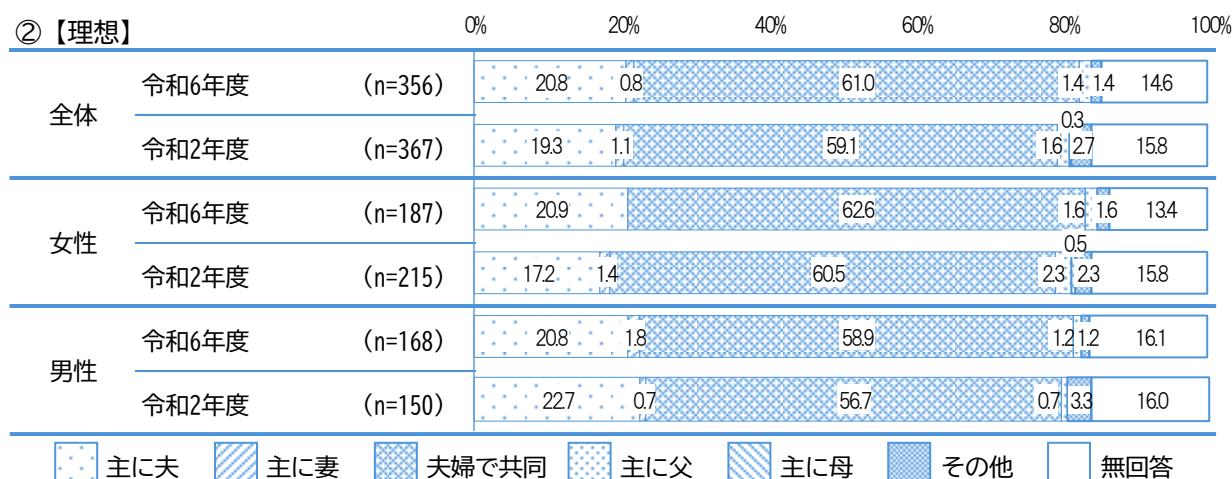
全体でみると、「主に夫」が 53.1%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(27.0%)、「主に妻」(8.7%)となっています。

性別でみると、「主に夫」では女性が 44.4%、男性が 63.1%と女性に比べ男性が 18.7 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「主に夫」が 6.2 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「夫婦で共同」では女性が 6.9 ポイント増加し、男性が 7.4 ポイント減少しています。

②【理想】

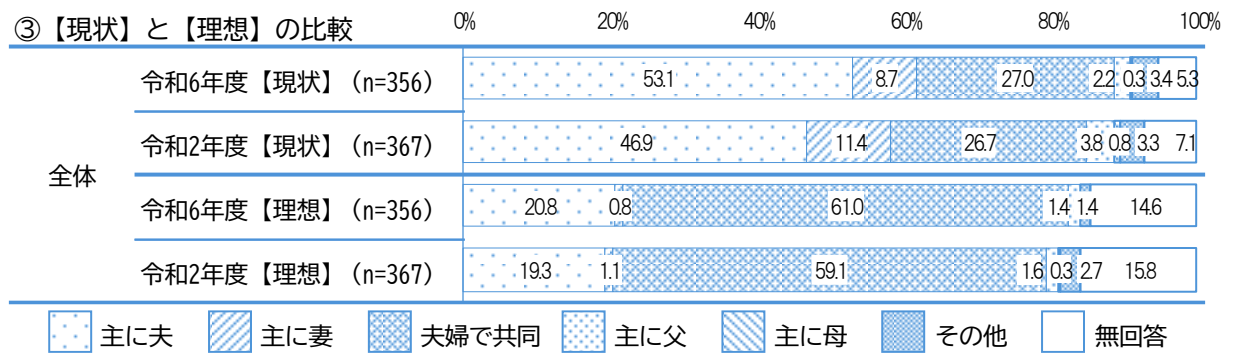


全体でみると、「夫婦で共同」が 61.0%と最も高く、次いで「主に夫」(20.8%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

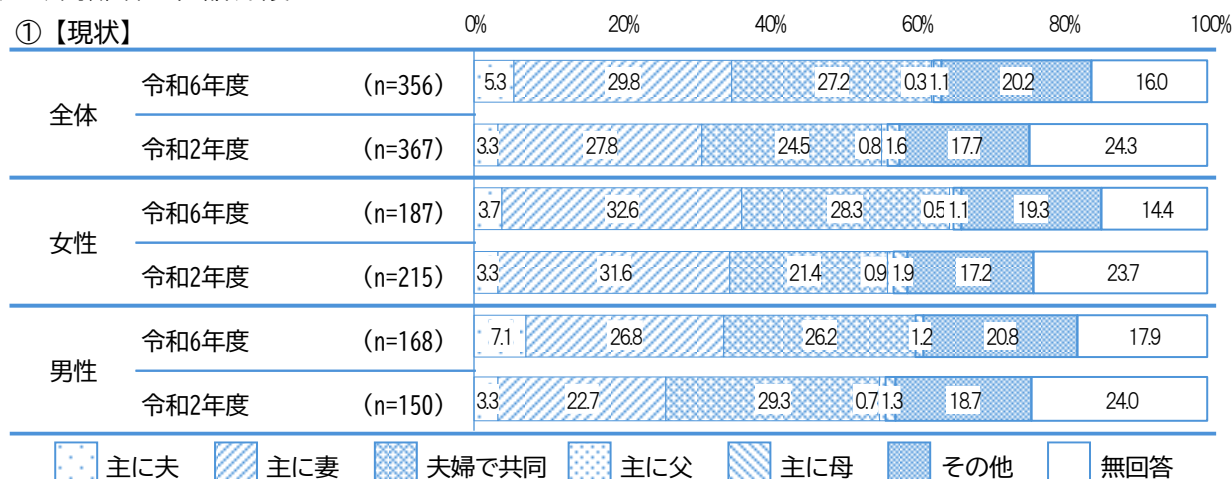
性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が61.0%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に夫」が53.1%と最も高く、「夫婦で共同」は27.0%と【理想】とは34.0ポイントの差があります。

(10)高齢者の世話介護

①【現状】



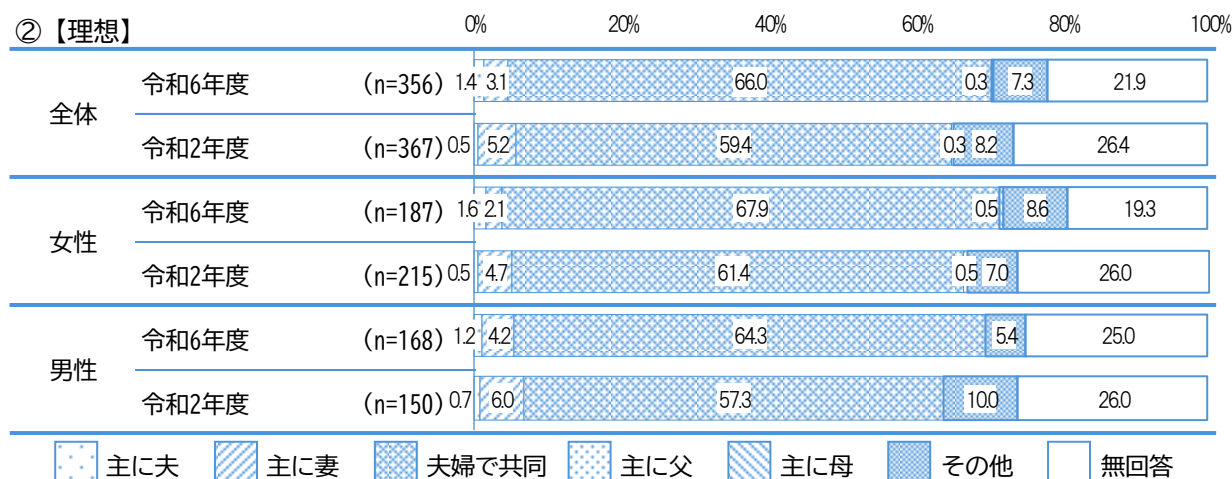
全体でみると、「主に妻」が 29.8%と最も高く、次いで「夫婦で共同」(27.2%)、「その他」(20.2%)となっています。

性別でみると、「主に妻」では女性が 32.6%、男性が 26.8%と男性に比べ女性が 5.8 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、女性では「夫婦で共同」が 6.9 ポイント増加しています。

②【理想】

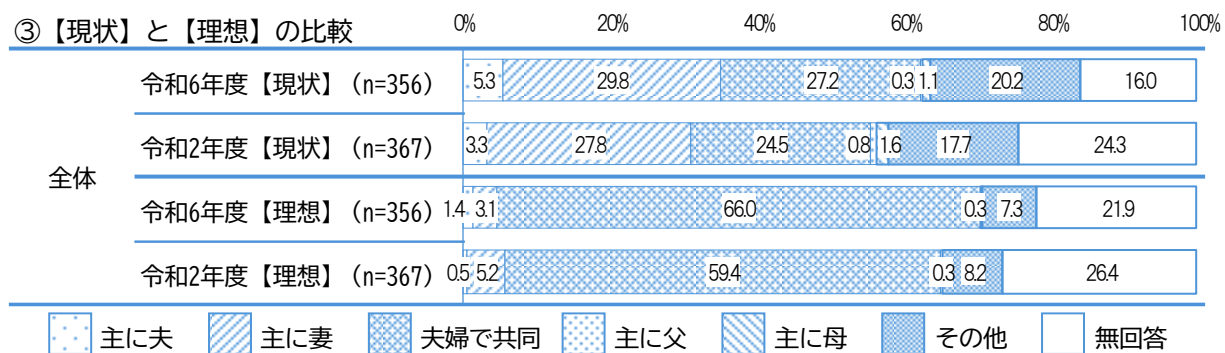


全体でみると、「夫婦で共同」が 66.0%と最も高く、次いで「その他」(7.3%)、「主に妻」(3.1%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

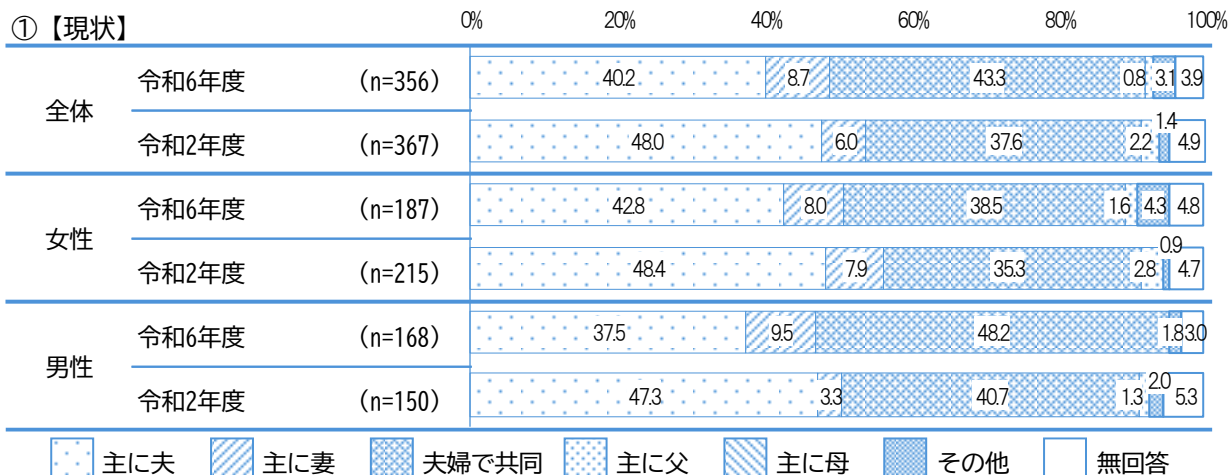
前回調査と全体で比較すると、「夫婦で共同」が 6.6 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「夫婦で共同」では女性が 6.5 ポイント、男性が 7.0 ポイント増加しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が 66.0%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に妻」が 29.8%と最も高く、「夫婦で共同」は 27.2%と【理想】とは 38.8 ポイントの差があります。

(11) 家庭の問題における最終的な決定

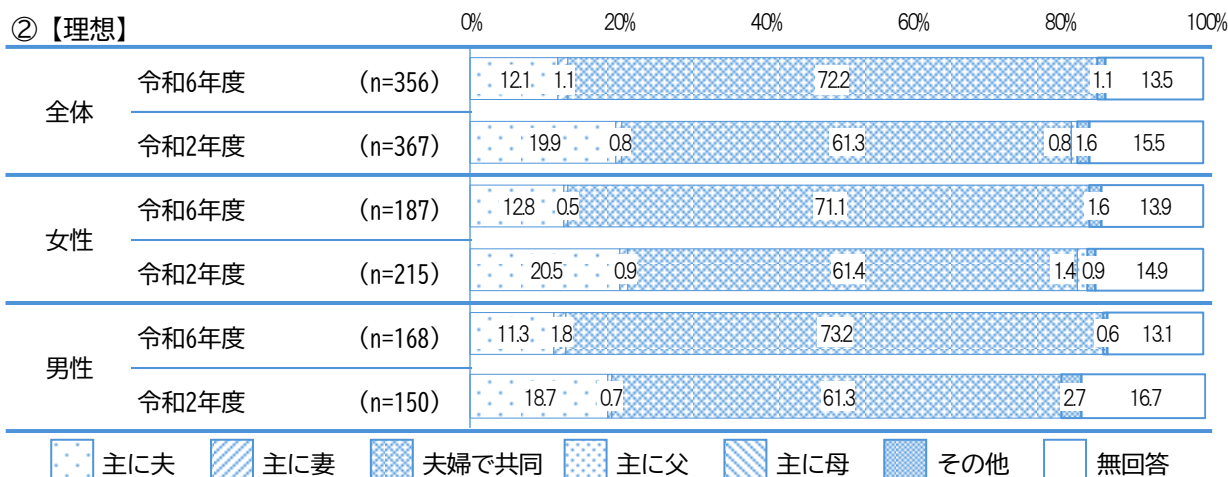


全体でみると、「夫婦で共同」が43.3%と最も高く、次いで「主に夫」(40.2%)、「主に妻」(8.7%)となっています。

性別でみると、「夫婦で共同」では女性が38.5%、男性が48.2%と女性に比べ男性が9.7ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「主に夫」が7.8ポイント減少しています。

性別で比較すると、男性では「主に夫」が9.8ポイント減少し、「夫婦で共同」が7.5ポイント増加しています。

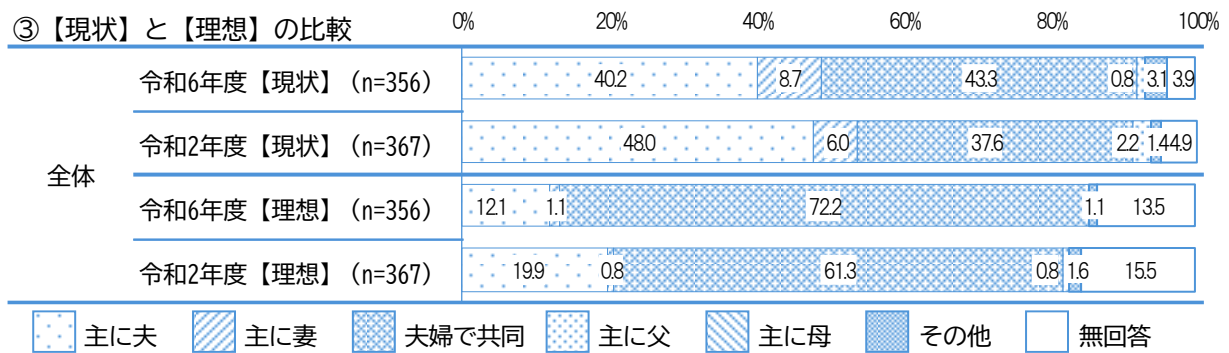


全体でみると、「夫婦で共同」が72.2%と最も高く、次いで「主に夫」(12.1%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

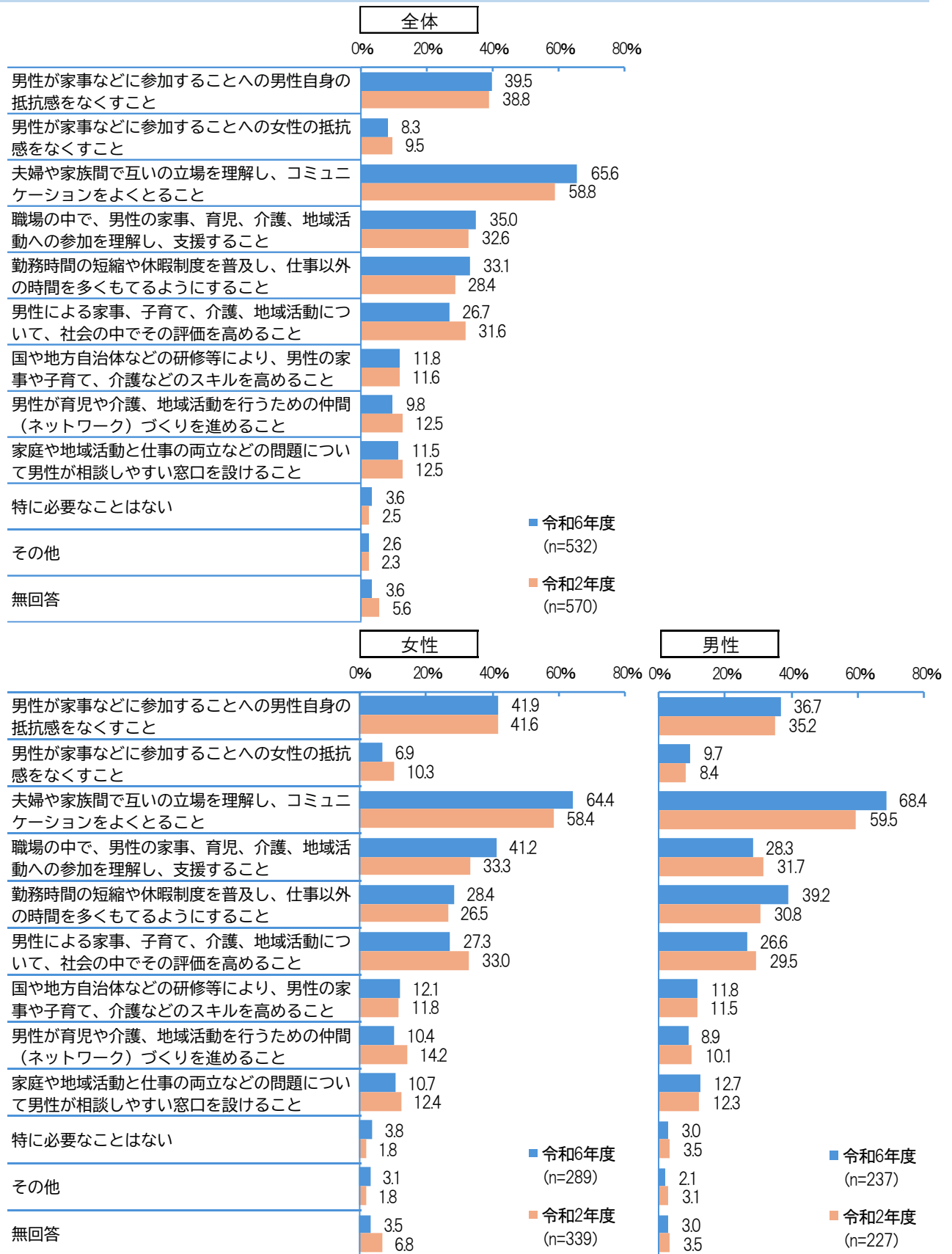
前回調査と全体で比較すると、「夫婦で共同」が10.9ポイント増加しています。

性別で比較すると、「夫婦で共同」では女性が9.7ポイント、男性が11.9ポイント増加しています。



全体の【現状】と【理想】を比較すると、【理想】では「夫婦で共同」が 72.2%と最も高くなっていますが、【現状】では「主に夫」が 40.2%と最も高く、「夫婦で共同」は 43.3%と【理想】とは 28.9 ポイントの差があります。

問11 今後、男性と女性がともに家庭生活(家事、育児、介護)や地域活動へ参加をしていくために必要なことは何だと思いますか。



全体でみると、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」が 65.6%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」(39.5%)、「職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動について理解し、支援すること」(35.0%)となっています。

性別でみると、「職場の中で、男性の家事、育児、介護、地域活動への参加を理解し、支援すること」では女性が 41.2%、男性が 28.3%と男性に比べ女性が 12.9 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくとること」が 6.8 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくとること」では女性が 6.0 ポイント、男性が 8.9 ポイント増加しています。

■その他意見

性格による。いくら言っても理解できない人がある。お互い「してあげた」ではダメ。「いつもありがとう」、ときどきでいい、感謝を言葉にしましょう。
--

その人による。

法律で決めてしまえばよいこと。男性も必ず育休を取るなど、今の社会では個人でどうこうするような仕組みはない。

男性本人の意識改革(面倒な事と思いがち)。

男性、女性関係なく上記選択肢を行う。

共働きの場合は家事、育児、介護の負担を折半するべきという当たり前の認識を広めていく。
--

子どもの頃から今自分が出来る社会参加を考え、周りの人と話し合い、その範囲を広げていけるようにゆっくりゆっくり教えていく。
--

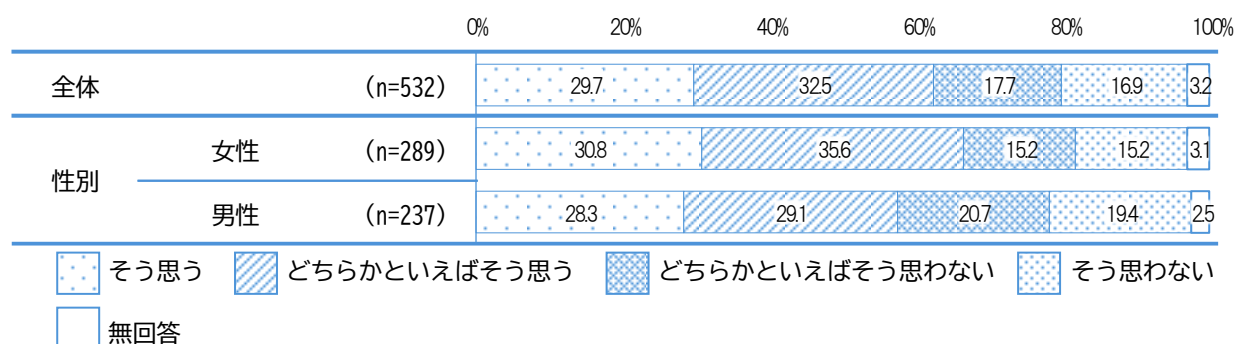
男性、女性というより世代間の意識の違いをなくすこと。

社会全体が男女の家庭生活や地域社会への参加がでやすくなる法やシステムを整備すること。
--

男女間の所得格差をなくすこと。

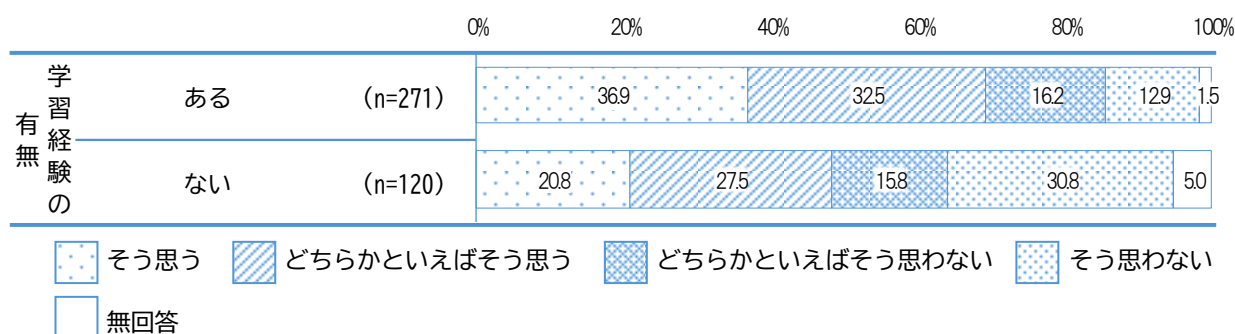
議員の整理。

問12 夫婦が希望すれば結婚後もそれぞれの姓を名乗れる「選択的夫婦別姓制度」を認めるべきだと思いますか。

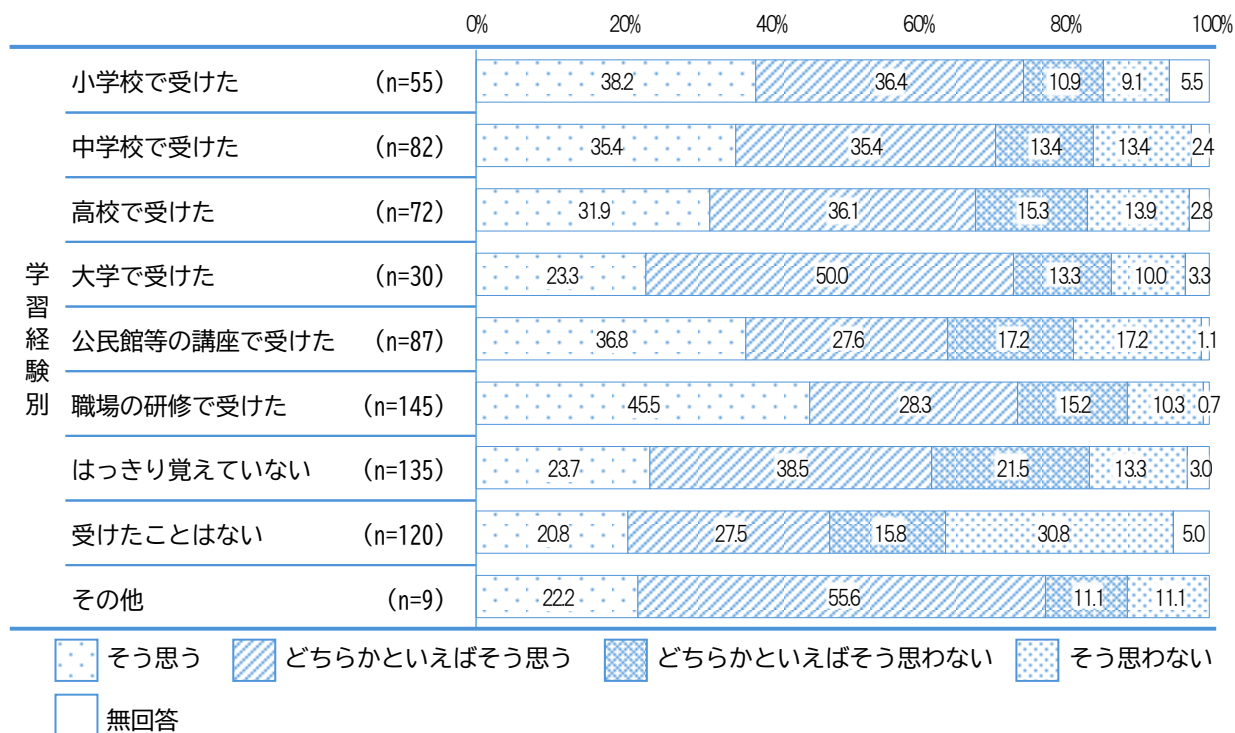


全体でみると、『思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)が 62.2%、『思わない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合)が 34.6%となっています。

性別でみると、『思う』では女性が 66.4%、男性が 57.4%と男性に比べ女性が 9.0 ポイント高くなっています。



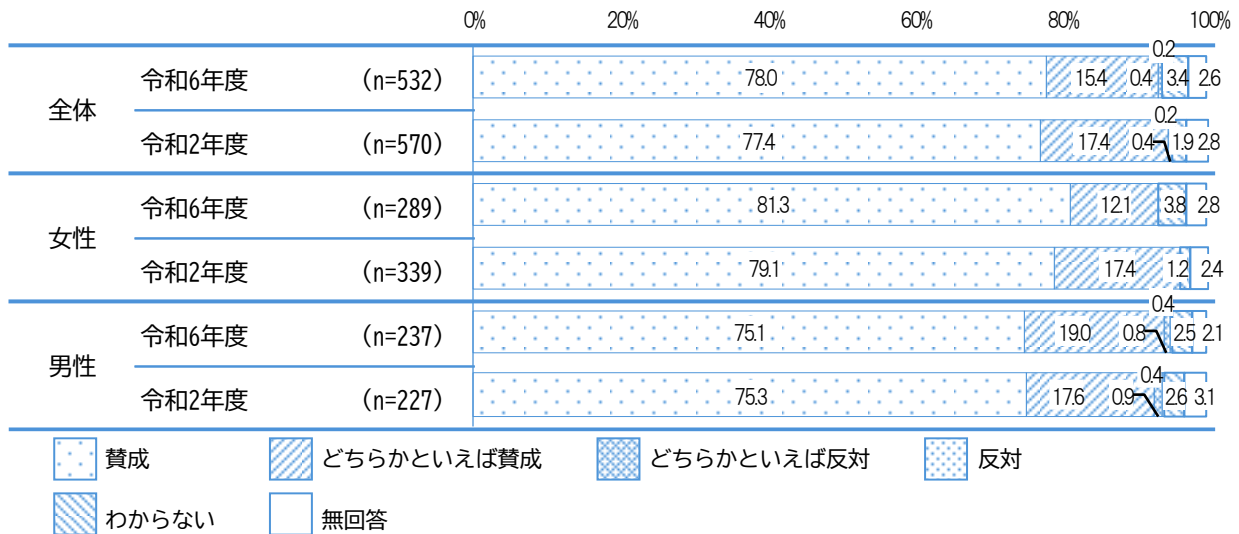
男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、『思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)ではある人が 69.4%、ない人が 48.3%とない人に比べある人が 21.1 ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「受けたことはない」で『思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）が 48.3%と、他の項目に比べ 13.9 ポイント以上低くなっています。

問13 子どもの育て方について、次の①～④ではどのような考え方をお持ちですか。

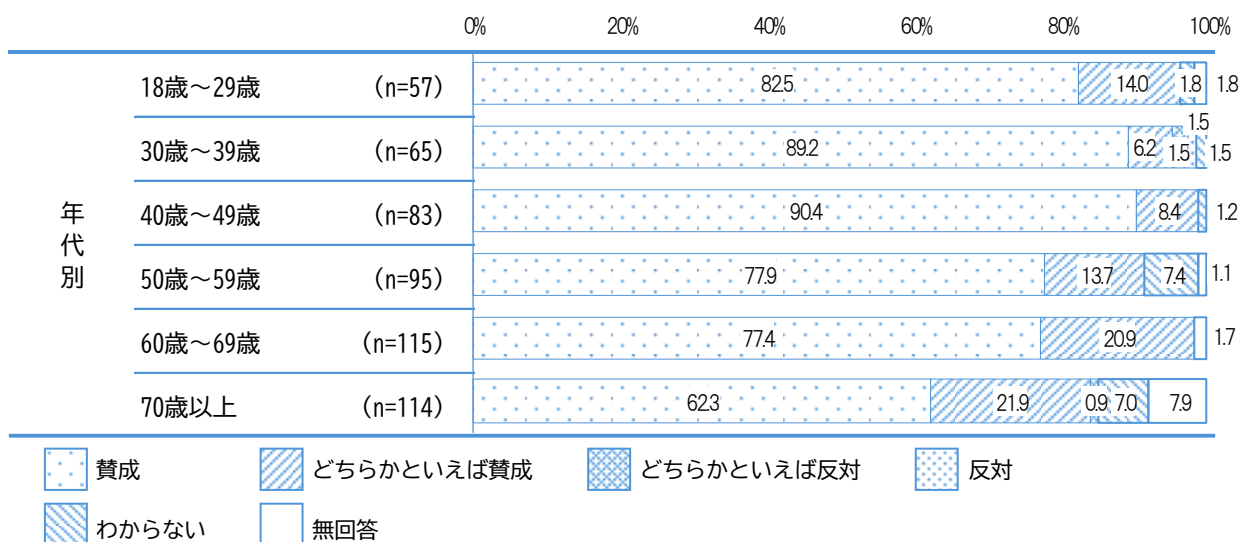
① 性別に関係なく経済的に自立できるように育てる方がよい



全体でみると、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合)が 93.4%、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合)が 0.6%となっています。

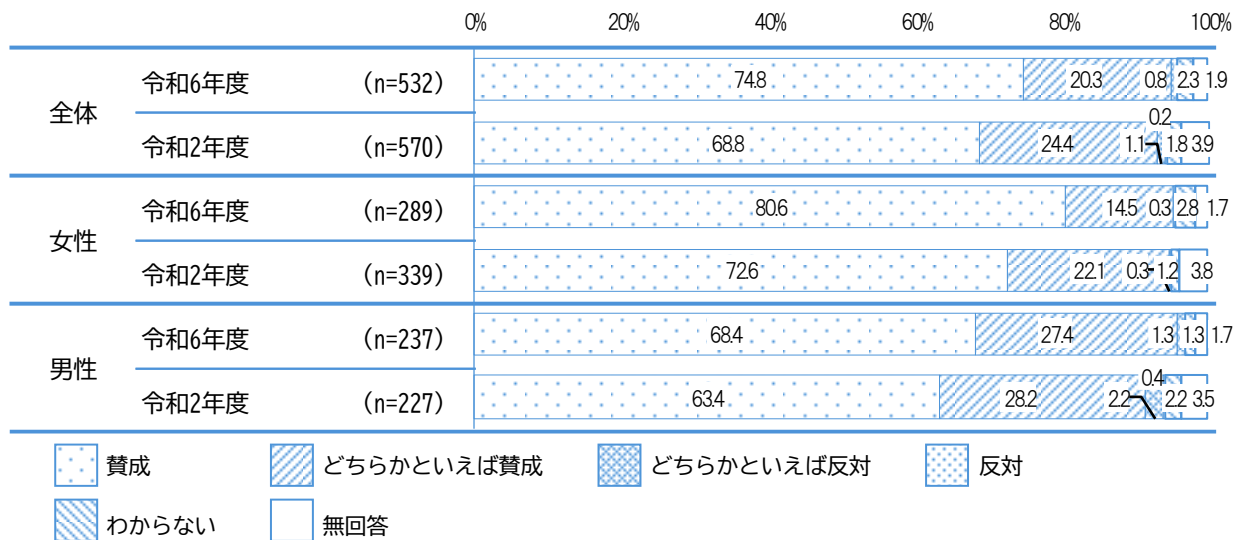
性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。



年代別でみると、40 歳代で『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合)が 98.8%と最も高く、70 歳以上で『賛成』が 84.2%と最も低くなっています。また、「賛成」では年代が高くなるにつれ、減少傾向にあります。

② 性別に関係なく料理・掃除・洗濯など、家庭に必要な技術を身につけさせる方がよい

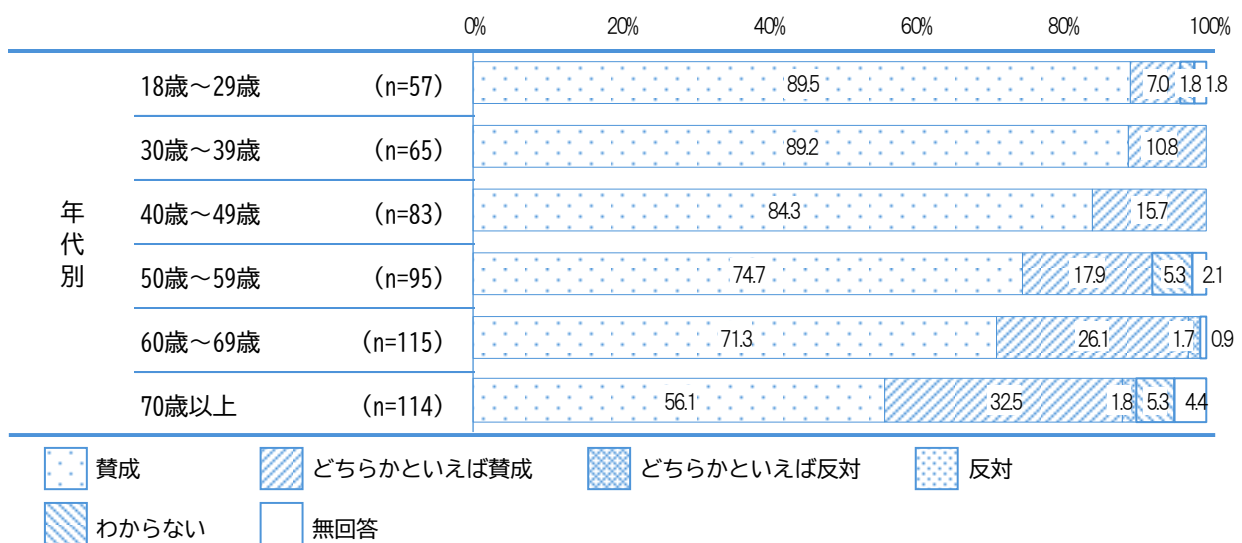


全体でみると、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合)が 95.1%、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合)が 0.8%となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

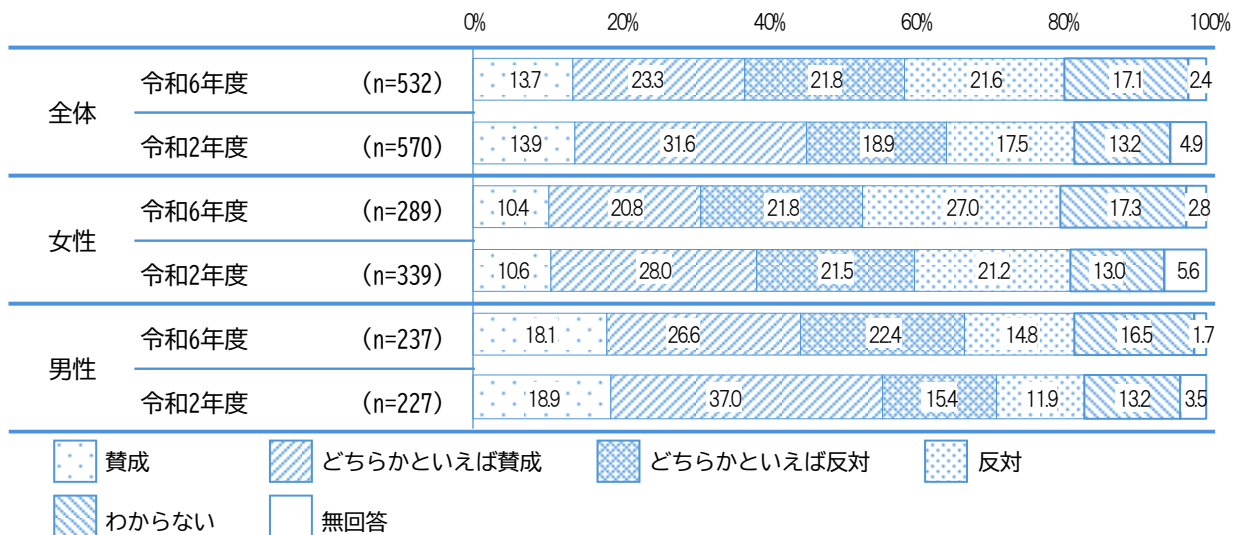
前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。



年代別でみると、30 歳代、40 歳代で『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合)が 100.0%と最も高く、70 歳以上で『賛成』が 88.6%と最も低くなっています。また、「賛成」では年代が高くなるにつれ、減少傾向にあります。

③ 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよい

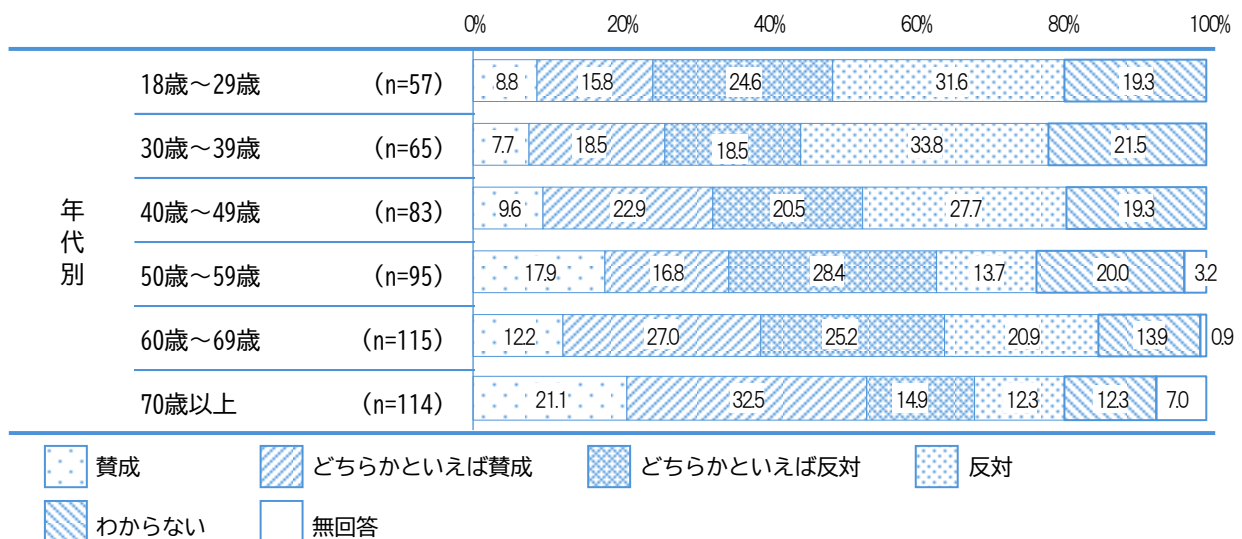


全体でみると、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合)が 37.0%、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合)が 43.4%となっています。

性別でみると、『賛成』では女性が 31.2%、男性が 44.7%と女性に比べ男性が 13.5 ポイント、『反対』では女性が 48.8%、男性が 37.2%と男性に比べ女性が 11.6 ポイント高くなっています。

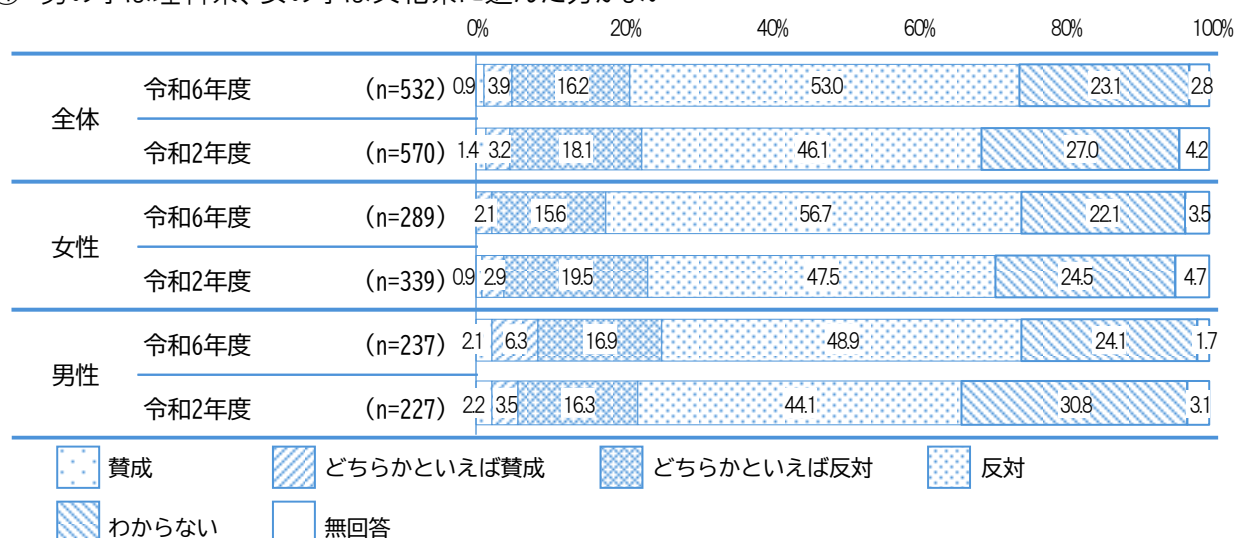
前回調査と全体で比較すると、『賛成』が 8.5 ポイント減少し、『反対』が 7.0 ポイント増加しています。

性別で比較すると、『賛成』では女性が 7.4 ポイント、男性が 11.2 ポイント減少しています。



年代別でみると、18 歳～29 歳で『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合)が 24.6%と最も低く、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合)が 56.1%と最も高くなっています。また、『賛成』は年代が高くなるにつれ増加傾向にあり、『反対』は年代が高くなるにつれ減少傾向にあります。

④ 男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい

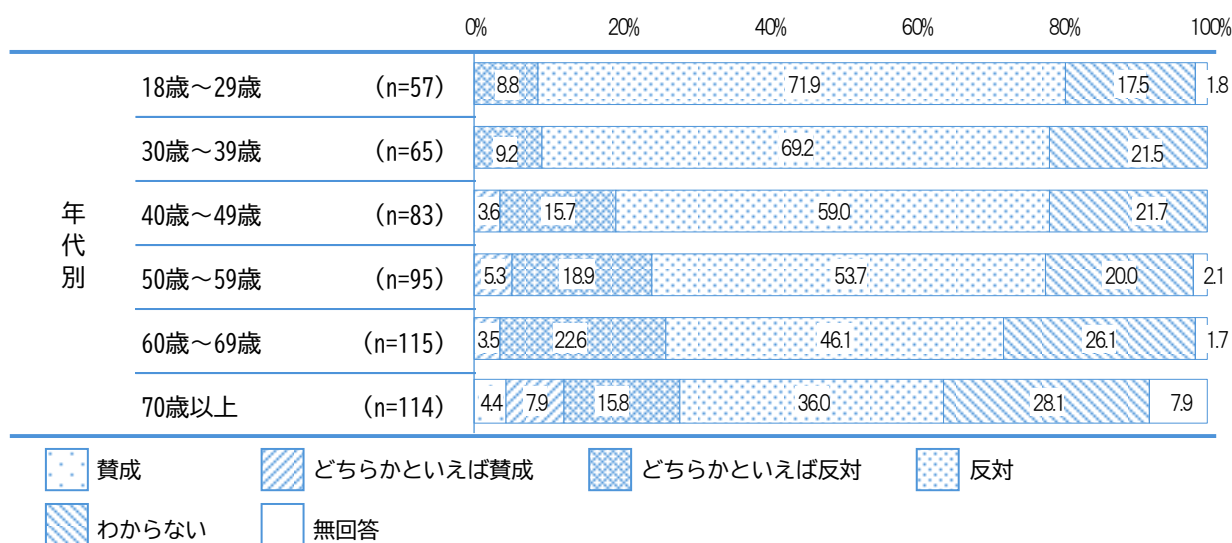


全体でみると、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）が 4.8%、『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合）が 69.2%となっています。

性別でみると、『反対』では、女性が 72.3%、男性が 65.8%と男性に比べ女性が 6.5 ポイント高くなっています。

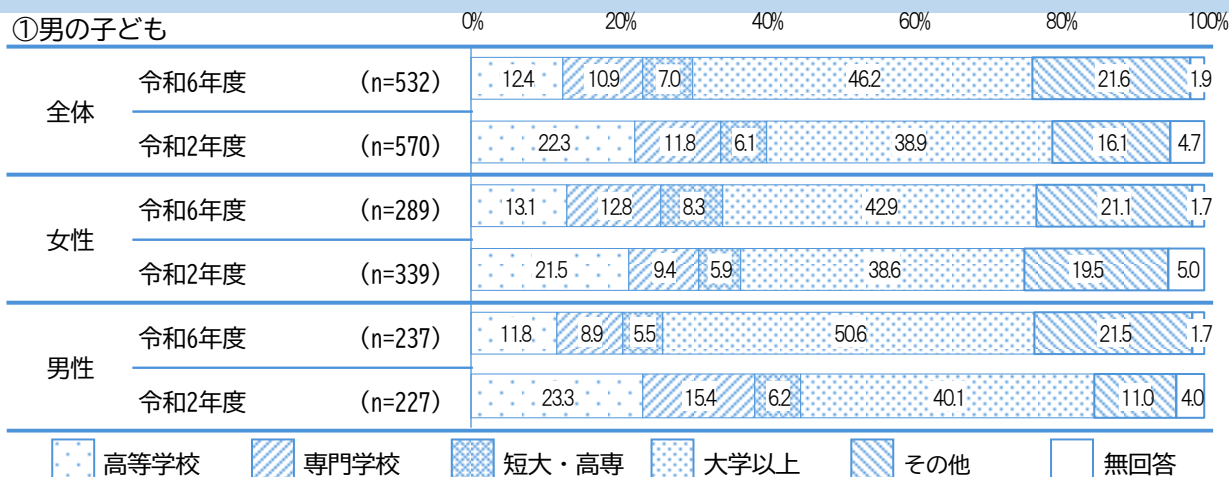
前回調査と全体で比較すると、『反対』が 5.0 ポイント増加しています。

性別で比較すると、女性では『反対』が 5.3 ポイント増加しています。



年代別でみると、18 歳～29 歳で『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合）が 80.7%と最も高く、年代が高くなるにつれ減少傾向にあり、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）は年代が高くなるにつれ増加傾向にあります。

問14 子どもの教育を、次の①と②についてどこまで希望しますか。

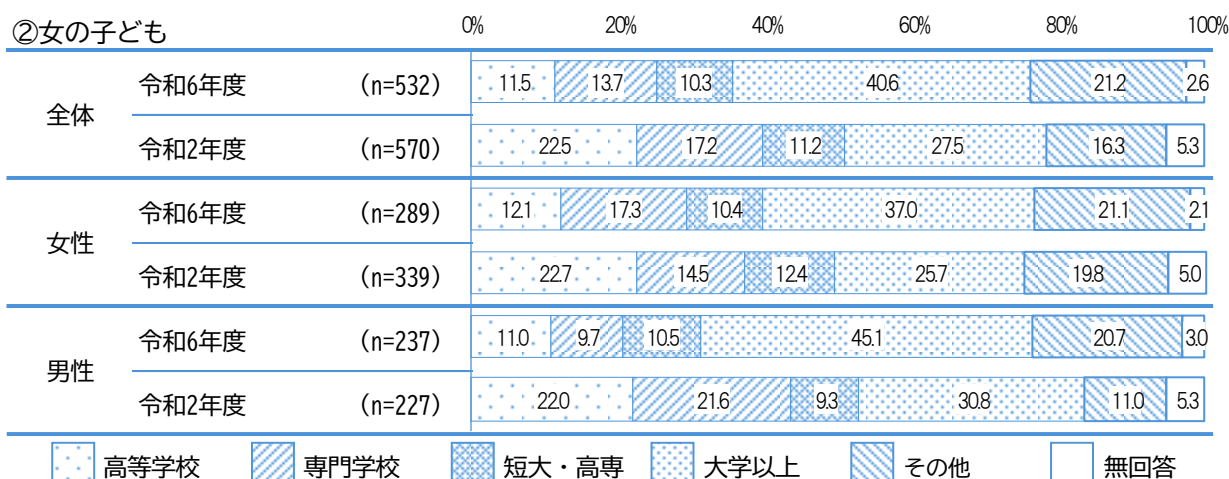


全体でみると、「大学以上」が46.2%と最も高く、次いで「その他」(21.6%)、「高等学校」(12.4%)となっています。

性別でみると、「大学以上」では女性が42.9%、男性が50.6%と女性に比べ男性が7.7ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「高等学校」が9.9ポイント減少し、「大学以上」が7.3ポイント増加しています。

性別で比較すると、「高等学校」では女性が8.4ポイント、男性が11.5ポイント減少しています。

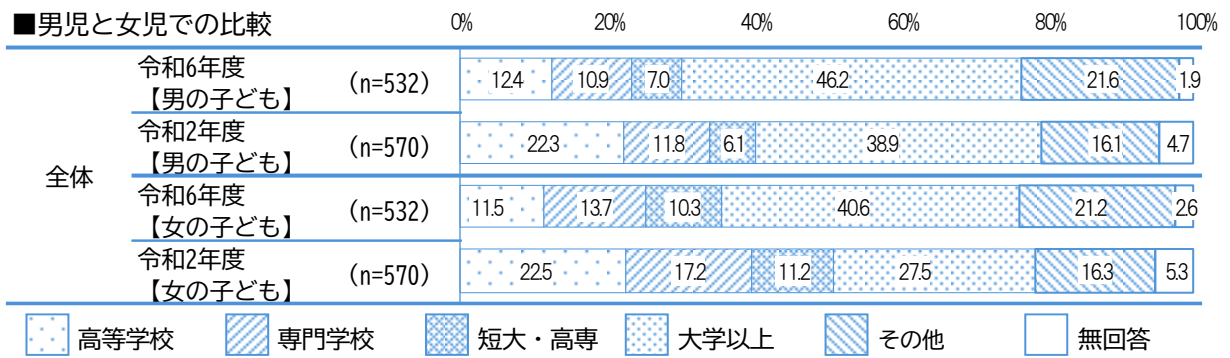


全体でみると、「大学以上」が40.6%と最も高く、次いで「その他」(21.2%)、「専門学校」(13.7%)となっています。

性別でみると、「専門学校」では女性が17.3%、男性が9.7%と男性に比べ女性が7.6ポイント高く、「大学以上」では女性が37.0%、男性が45.1%と女性に比べ男性が8.1ポイント高くなっています。

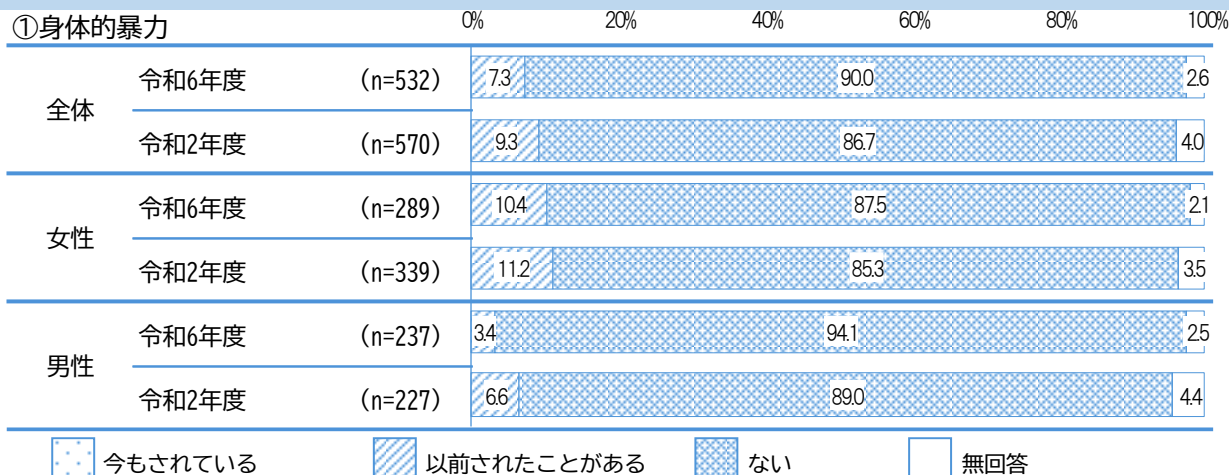
前回調査と全体で比較すると、「高等学校」が11.0ポイント減少し、「大学以上」が13.1ポイント増加しています。

性別で比較すると、「高等学校」では女性が10.6ポイント、男性が11.0ポイント減少しています。



男女の子ども別でみると、「大学以上」では女の子どもに比べ男の子どもが 5.6 ポイント高くなっています。

問15 あなたは、これまでに配偶者や恋人など親しい関係にある人との間で、次の①～⑤のようなことを受けたことがありますか。

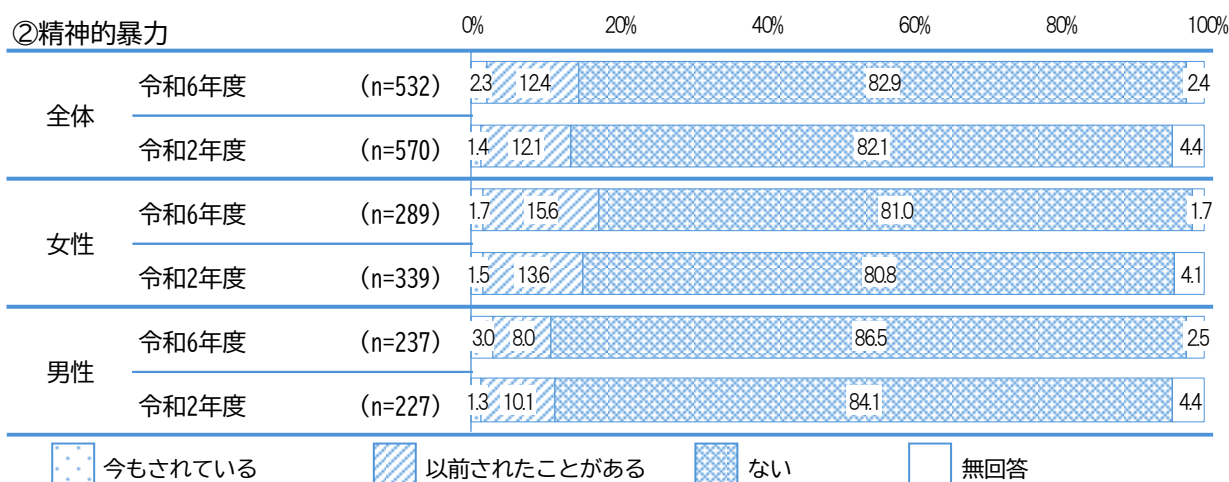


全体でみると、「ない」が90.0%と最も高く、次いで『されたことがある』(「今もされている」と「以前されたことがある」を合わせた割合)(7.3%)となっています。

性別でみると、『されたことがある』では女性が10.4%、男性が3.4%と男性に比べ女性が7.0ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

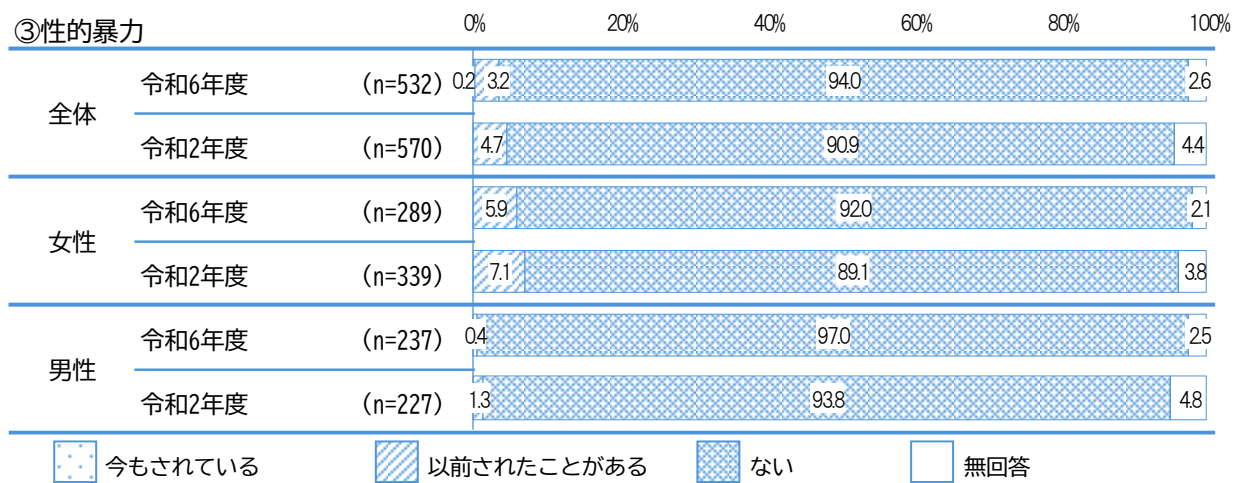


全体でみると、「ない」が82.9%と最も高く、次いで『されたことがある』(「今もされている」と「以前されたことがある」を合わせた割合)(14.7%)となっています。

性別でみると、『されたことがある』では女性が17.3%、男性が11.0%と男性に比べ女性が6.3ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

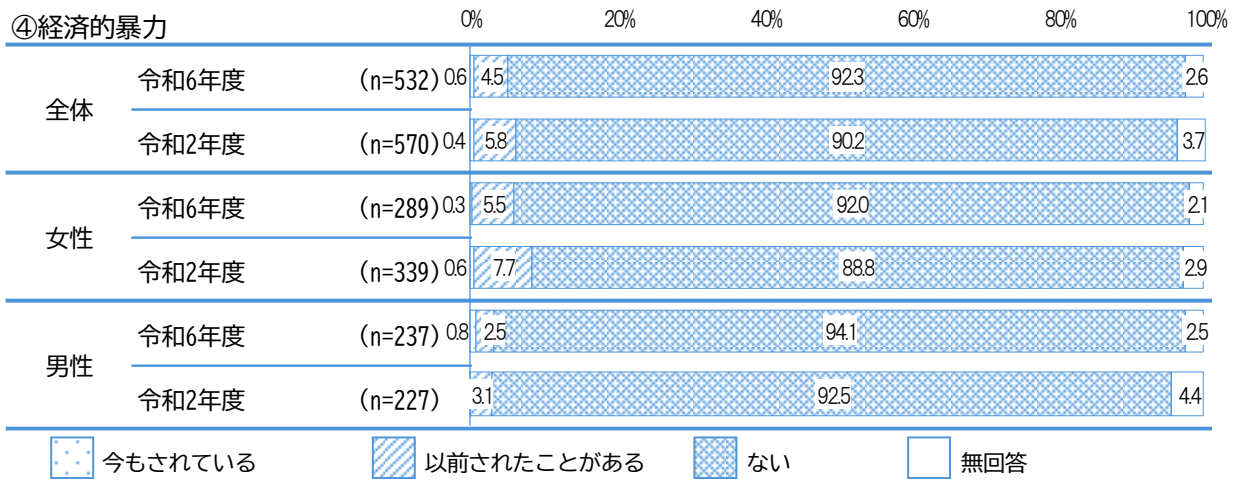


全体でみると、「ない」が94.0%と最も高く、次いで『されたことがある』（「今もされている」と「以前されたことがある」を合わせた割合）（3.4%）となっています。

性別でみると、『されたことがある』では女性が5.9%、男性が0.4%と男性に比べ女性が5.5ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

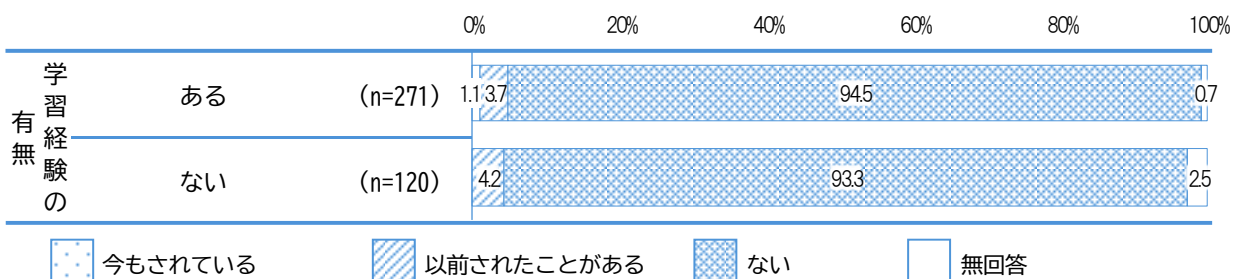


全体でみると、「ない」が92.3%と最も高く、次いで『されたことがある』（「今もされている」と「以前されたことがある」を合わせた割合）(5.1%)となっています。

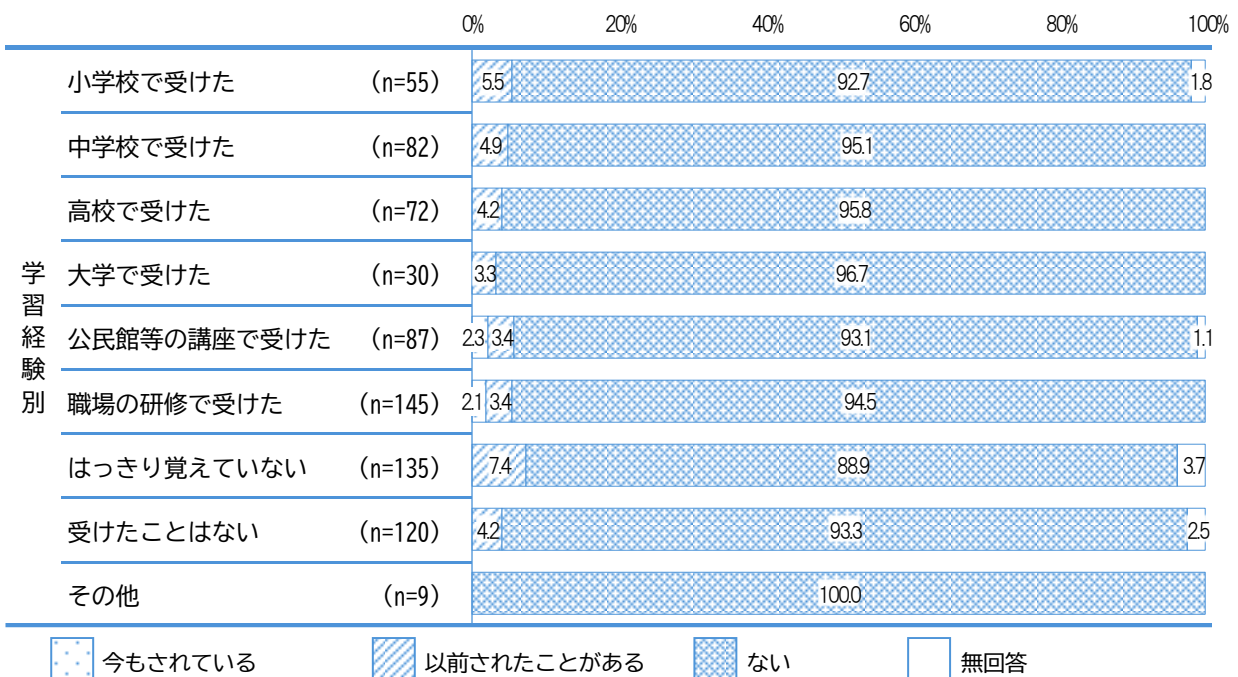
性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

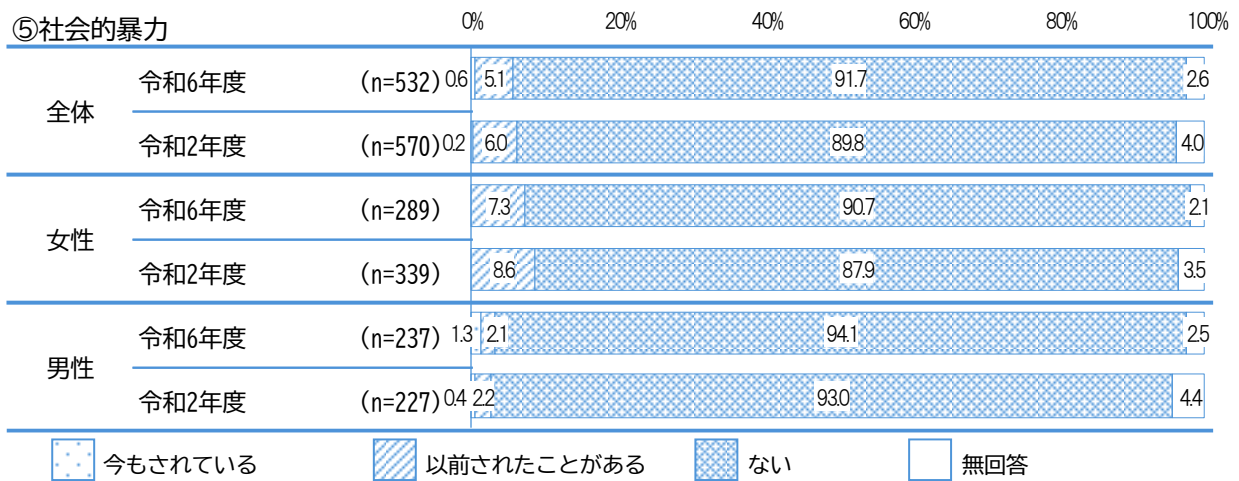
性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。



男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、すべての項目で大きな差はみられません。



男女共同参画についての学習経験別でみると、すべての項目で大きな差はみられません。



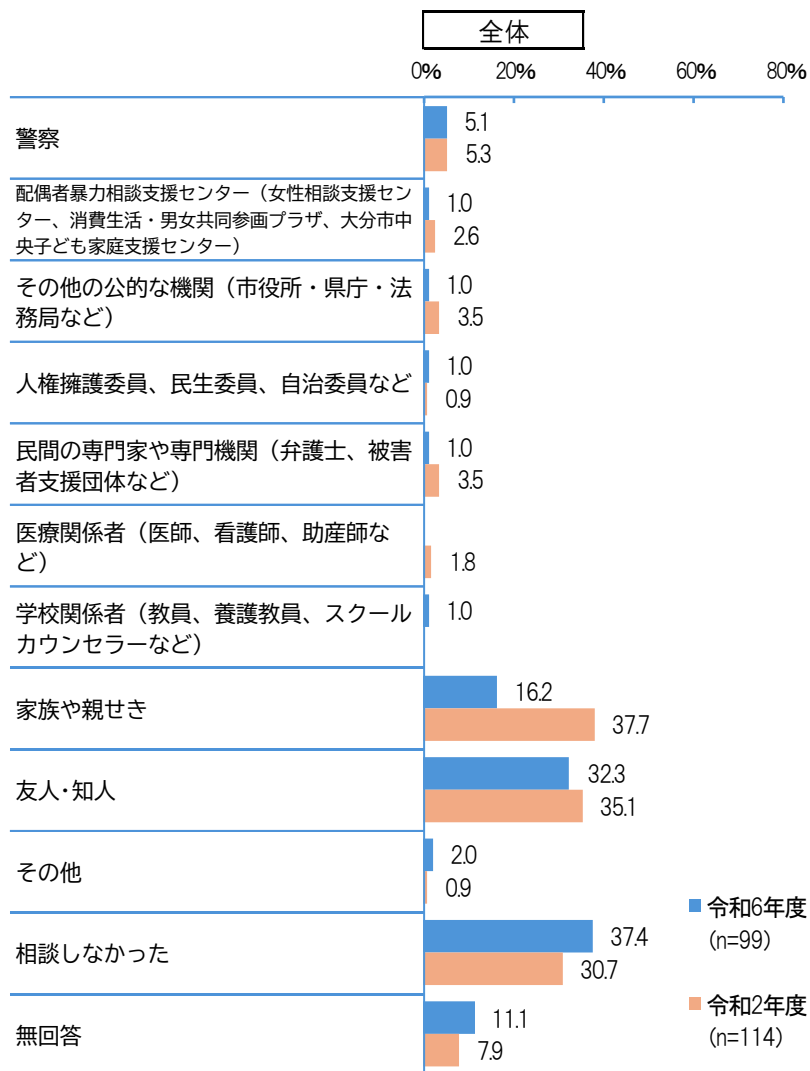
全体でみると、「ない」が91.7%と最も高く、次いで『されたことがある』（「現在されている」と「以前されたことがある」を合わせた割合）（5.7%）となっています。

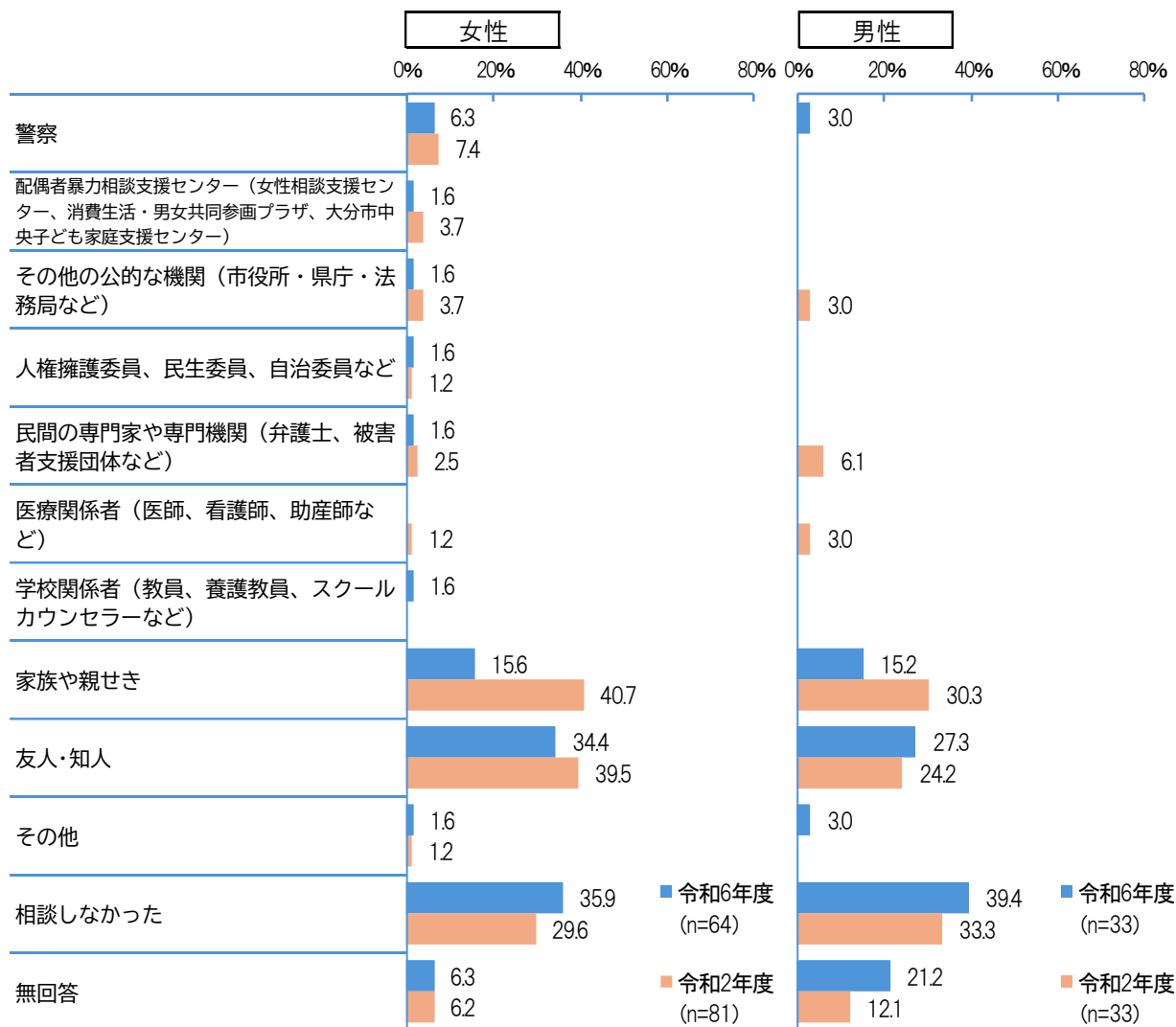
性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

問16 【問 15 で1つでも「受けたことがある」と答えた方におうかがいします。】誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(複数回答)





全体でみると、「相談しなかった」が 37.4%と最も高く、次いで「友人・知人」(32.3%)、「家族や親せき」(16.2%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

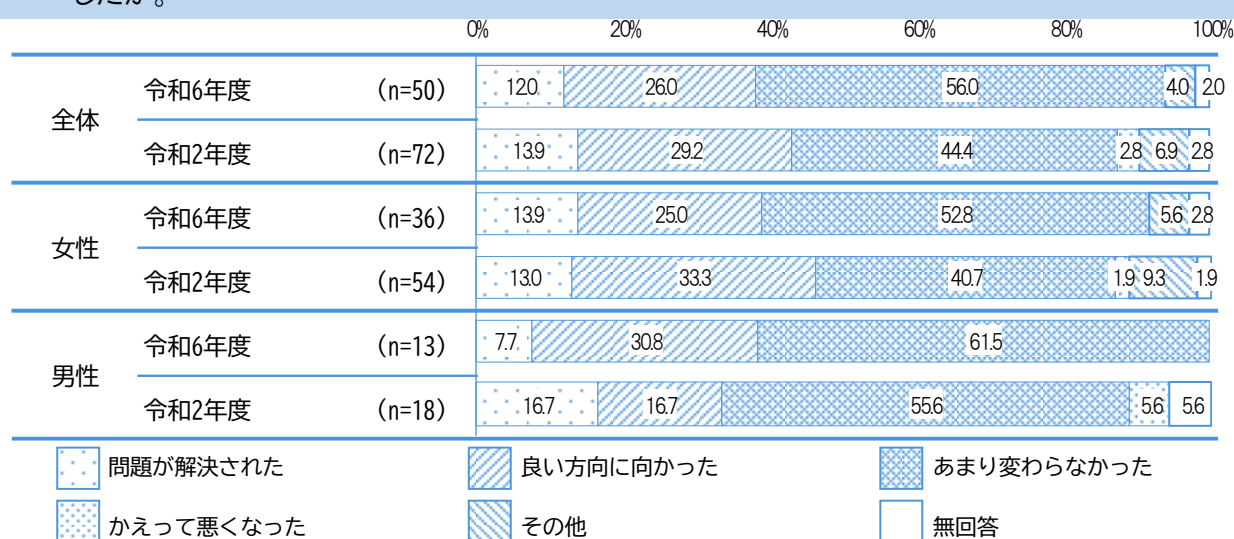
前回調査と全体で比較すると、「家族や親せき」が 21.5 ポイント減少し、「相談しなかった」が 6.7 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「家族や親せき」では女性が 25.1 ポイント、男性が 15.1 ポイント減少しています。

■「相談しなかった」理由

後々、恐かった。
勇気がなかった。
相談できる人がいない。
一時的なものだと感じたので。
言えなかった。
周囲に心配をかけたくなかったから。
ちょっとしたことで口をきかなかったことがあります(口喧嘩)。
本人と話して解決したから。
親子間のことだから。
諦めている。
自制内。性格か疾患かわからないので我慢している。
すぐに別れた。
相談しても解決しないから。
我慢する。
相手のプライドを考慮して言わなかったが、相談したらよかった。今では過去にされたことを友人に話している。
耳が遠くてよくわからない。
取るに足らない。
できないこともあった。
気にしてもしょうがないから。
本人に直接、話をする。
どこに相談していいかわからなかった。
小学校低学年の時だったから。
無駄だから。

問17 【問16で1つでも「相談した」と答えた方におうかがいします。】相談した結果、状況はどうになりましたか。



全体でみると、「あまり変わらなかった」が 56.0%と最も高く、次いで「良い方向に向かった」(26.0%)、「問題が解決された」(12.0%)となっています。

性別でみると、「良い方向に向かった」では女性が 25.0%、男性が 30.8%と女性に比べ男性が 5.8 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「あまり変わらなかった」が 11.6 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「良い方向に向かった」では女性が 8.3 ポイント減少し、男性が 14.1 ポイント増加しています。

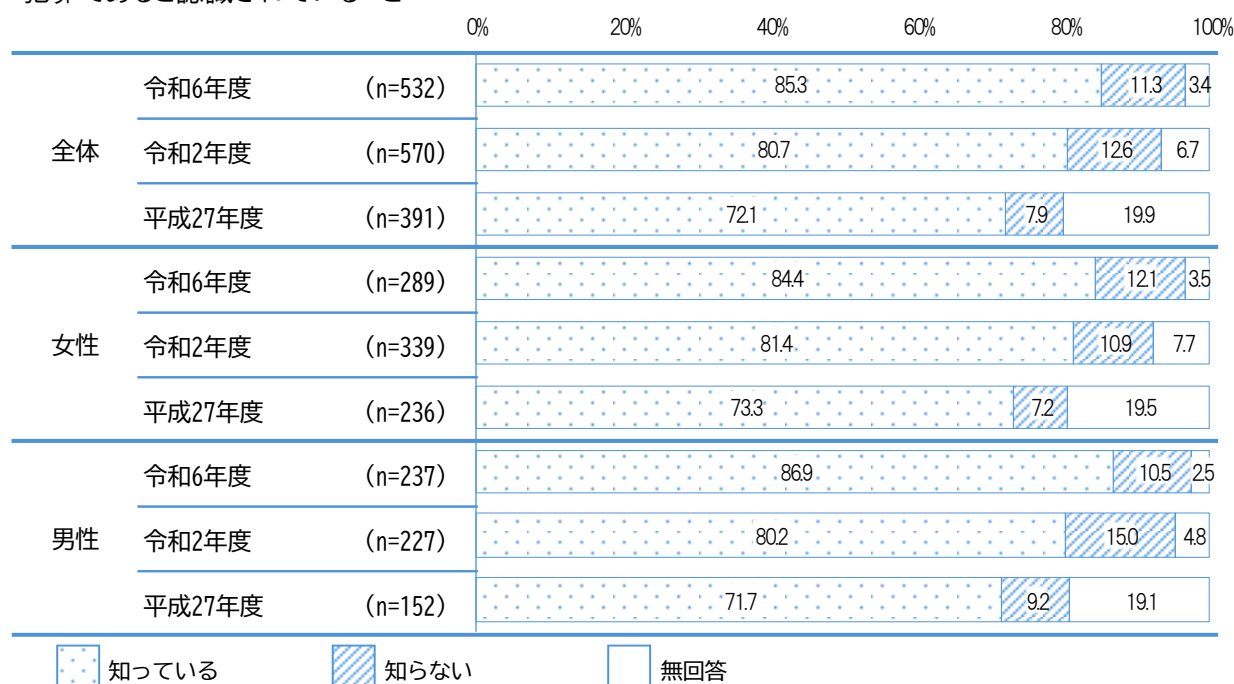
■その他意見

自分の方が無視した。

時間の経過とともに改善した

問18 あなたは次の①～③にあげることがらについて知っていますか。

①DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)が施行され、夫婦間の暴力は犯罪であると認識されていること



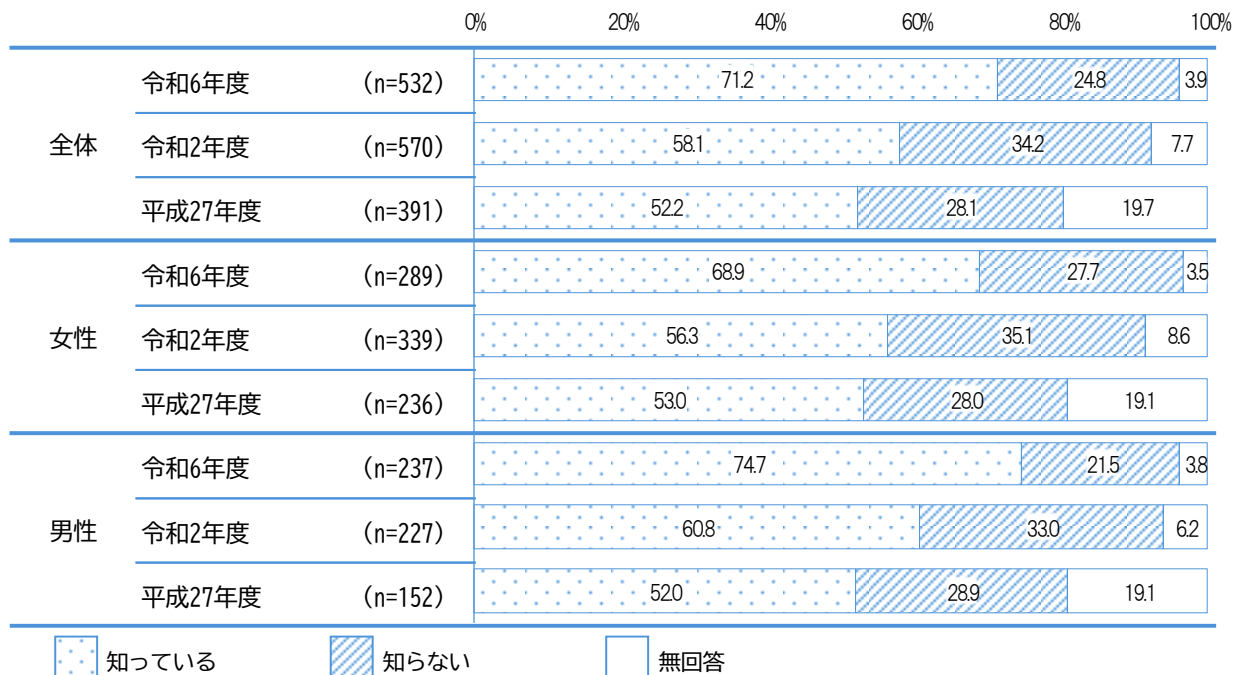
全体でみると、「知っている」が 85.3%、「知らない」が 11.3%となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体と比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、男性では「知っている」が 6.7 ポイント増加しています。

②被害者が裁判所に申請すれば「接近禁止命令」(加害者が1年間、被害者の付近を徘徊すること等を禁止する命令)や、「退去命令」(加害者に対し、2か月間住居から出て行く命令等を出す)などの「保護命令」を出すこと



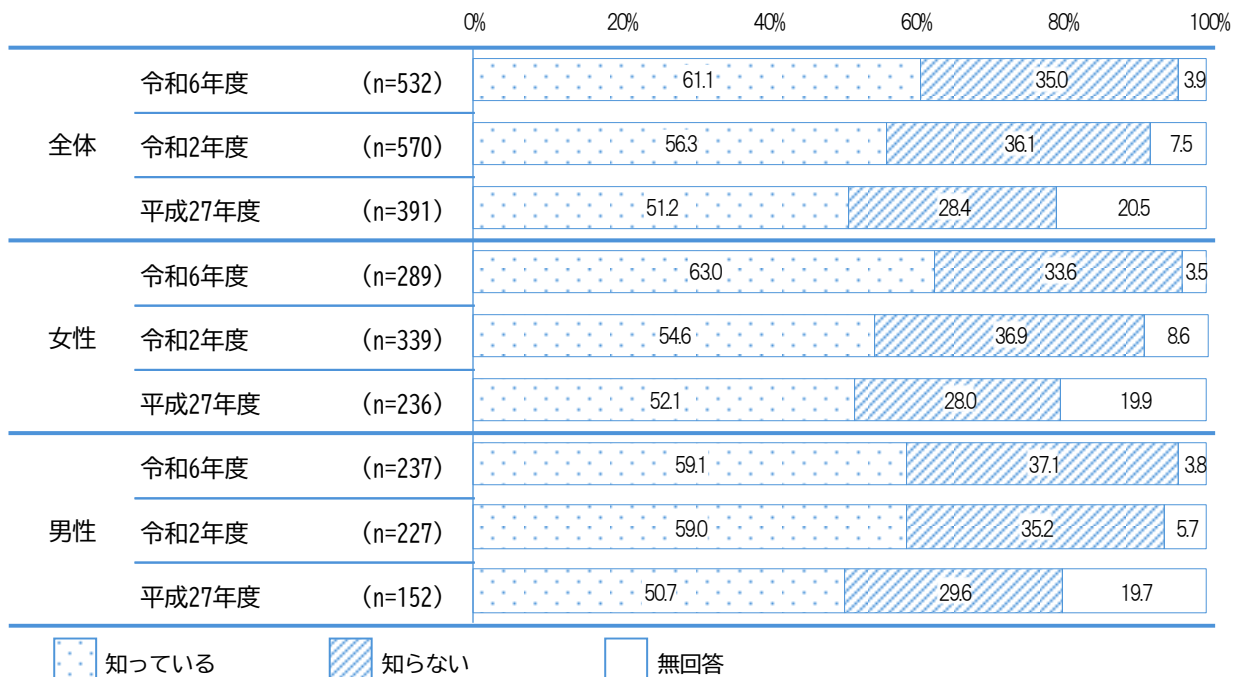
全体でみると、「知っている」が71.2%、「知らない」が24.8%となっています。

性別でみると、「知っている」では女性が68.9%、男性が74.7%と女性に比べ男性が5.8ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「知っている」が13.1ポイント増加し、「知らない」が9.4ポイント減少しています。

性別で比較すると、「知っている」が女性では12.6ポイント、男性では「知っている」が13.9ポイント増加しています。

③配偶者から暴力を受けている者を発見した人が、配偶者暴力相談支援センターや警察官に通報できること



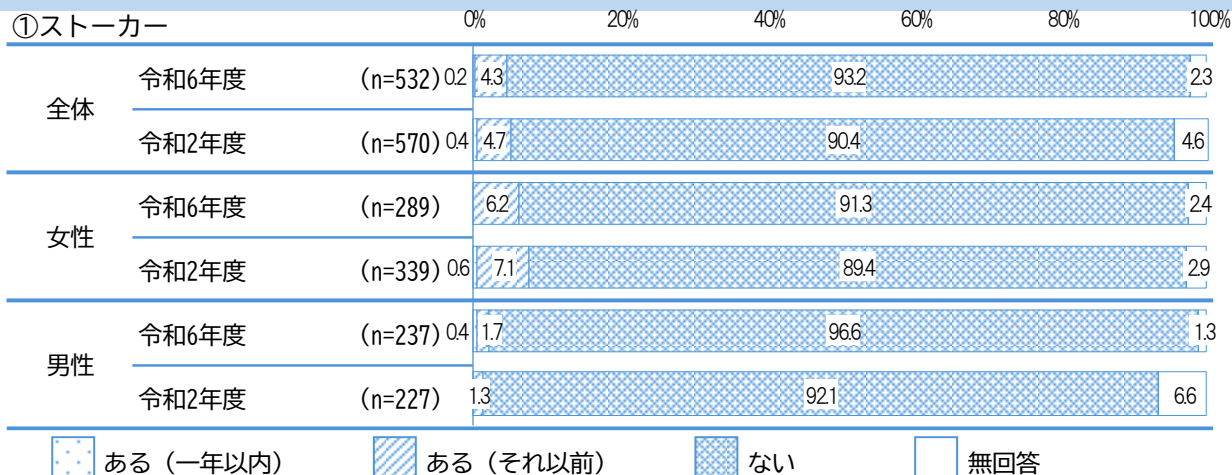
全体でみると、「知っている」が61.1%、「知らない」が35.0%となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、女性では「知っている」が8.4ポイント増加しています。

問19 あなたは、次の①～③のような行為を受けたことがありますか。

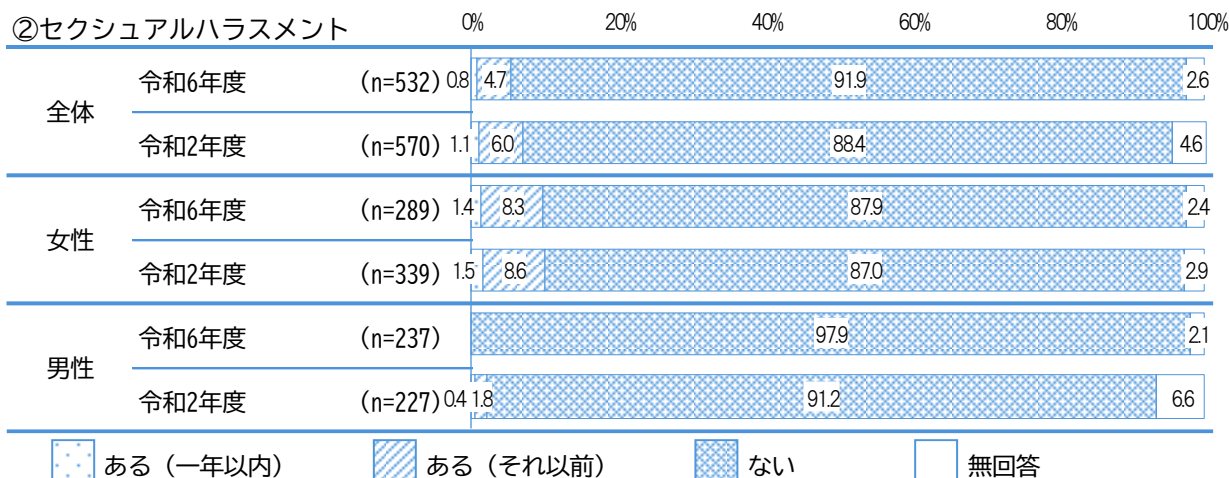


全体でみると、『ある』(「ある(一年以内)」と「ある(それ以前)」を合わせた割合)が 4.5%、「ない」が 93.2%となっています。

性別でみると、「ない」では女性が 91.3%、男性が 96.6%と女性に比べ男性が 5.3 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

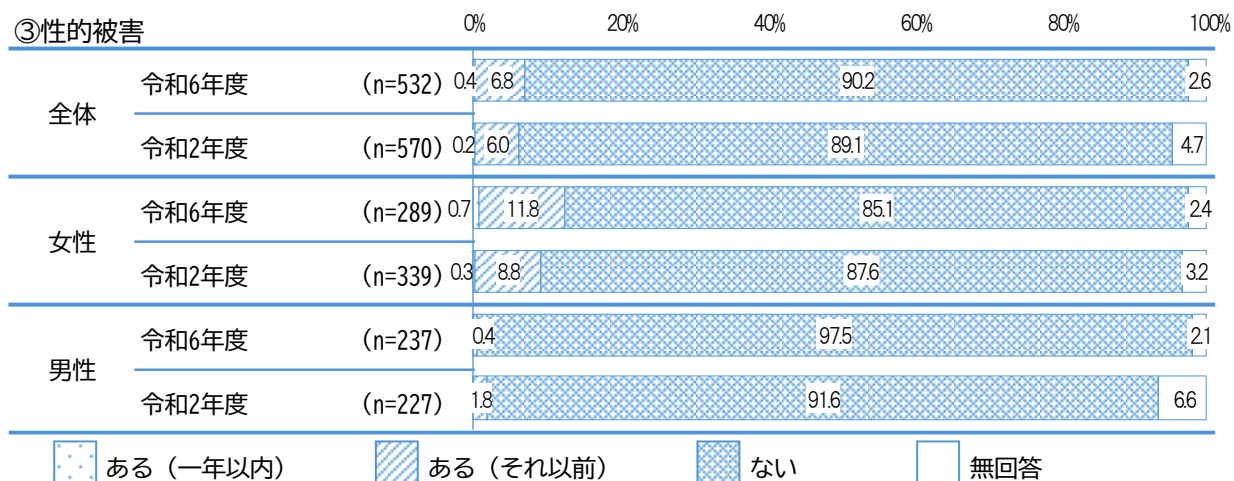


全体でみると、『ある』(「ある(一年以内)」と「ある(それ以前)」を合わせた割合)が 5.5%、「ない」が 91.9%となっています。

性別でみると、『ある』では女性が 9.7%、男性が 0.0%と女性に比べ女性が 9.7 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。



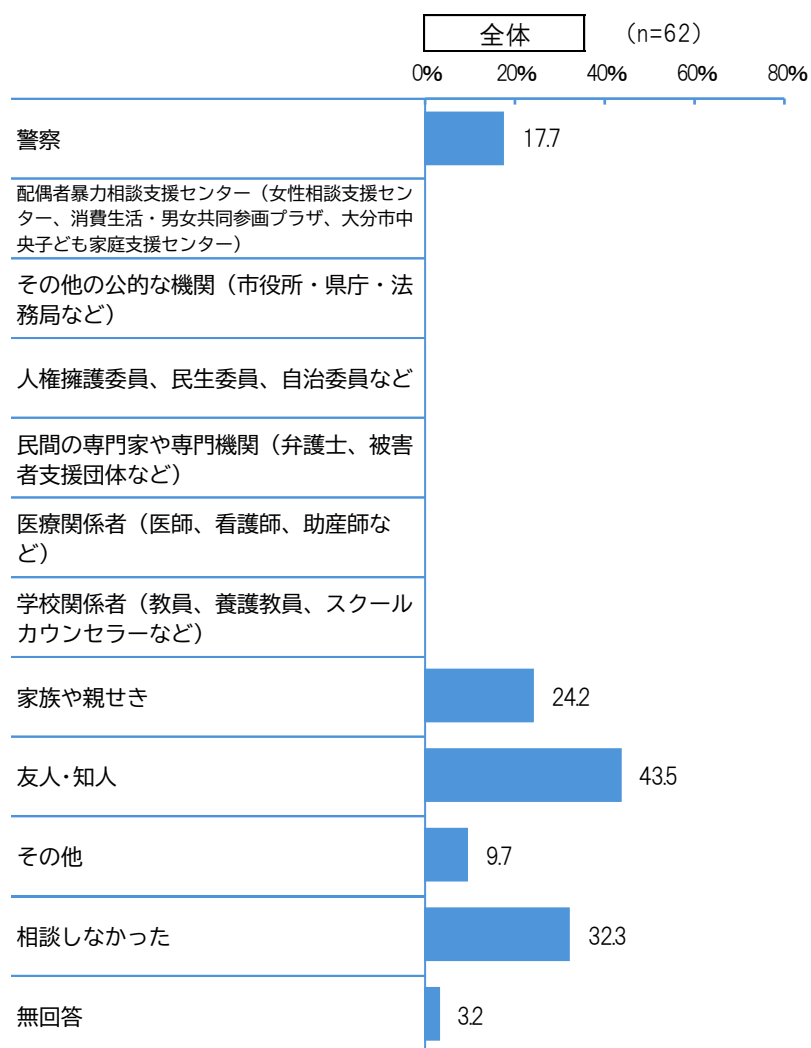
全体でみると、『ある』（「ある（一年以内）」と「ある（それ以前）」を合わせた割合）が 7.2%、「ない」が 90.2%となっています。

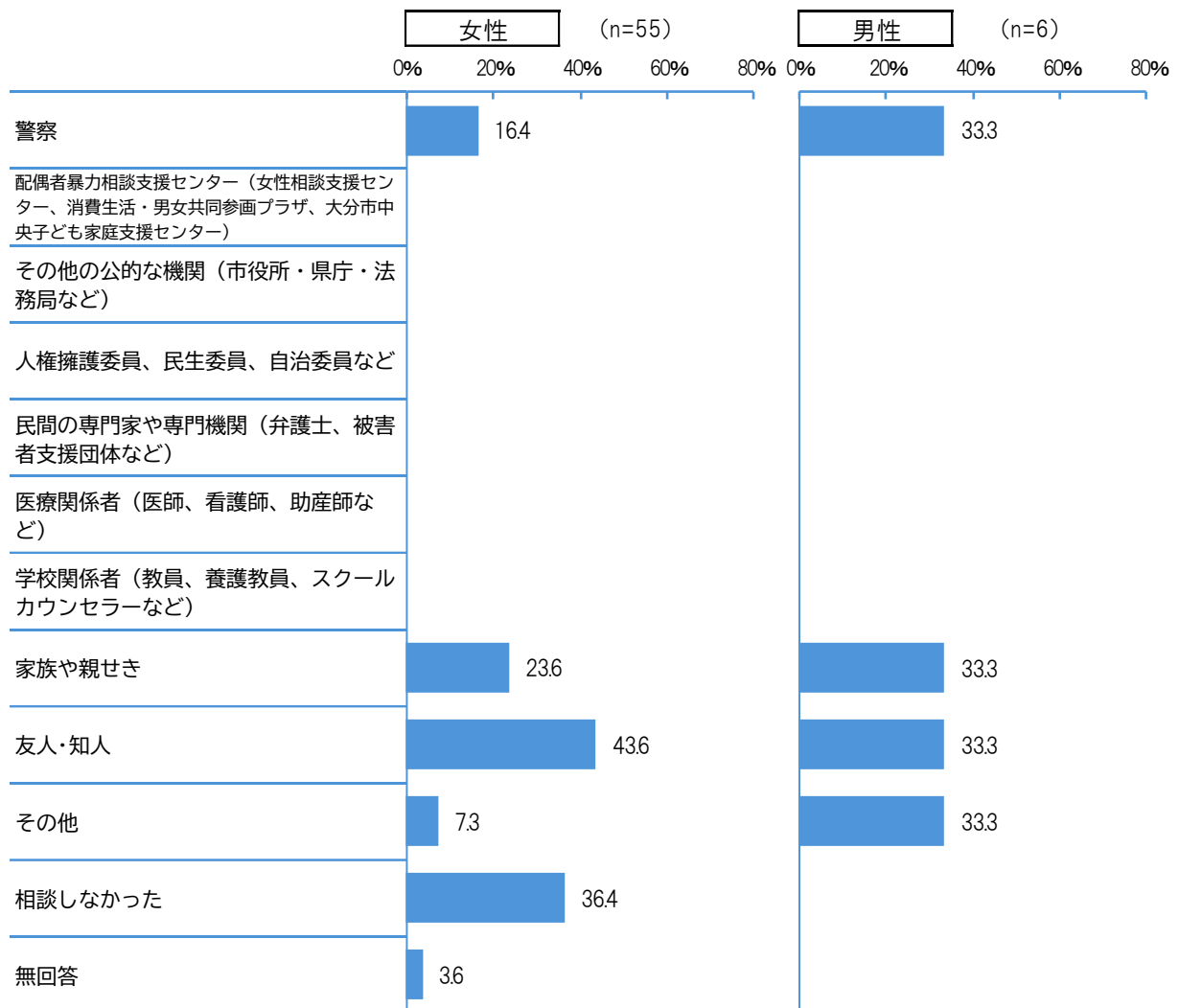
性別でみると、『ある』では女性が 12.5%、男性が 0.4%と男性に比べ女性が 12.1 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、男性では「ない」が 5.9 ポイント増加しています。

問20 【問 19 で1つでも「受けたことがある」と答えた方におうかがいします。】誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。





全体でみると、「友人・知人」が43.5%と最も高く、次いで「相談しなかった」(32.3%)、「家族や親せき」(24.2%)となっています。

性別でみると、「警察」では女性が16.4%、男性が33.3%と女性に比べ男性が16.9ポイント高く、「相談しなかった」では女性が36.4%、男性が0.0%と女性に比べ女性が36.4ポイント高くなっています。

■ その他相談相手

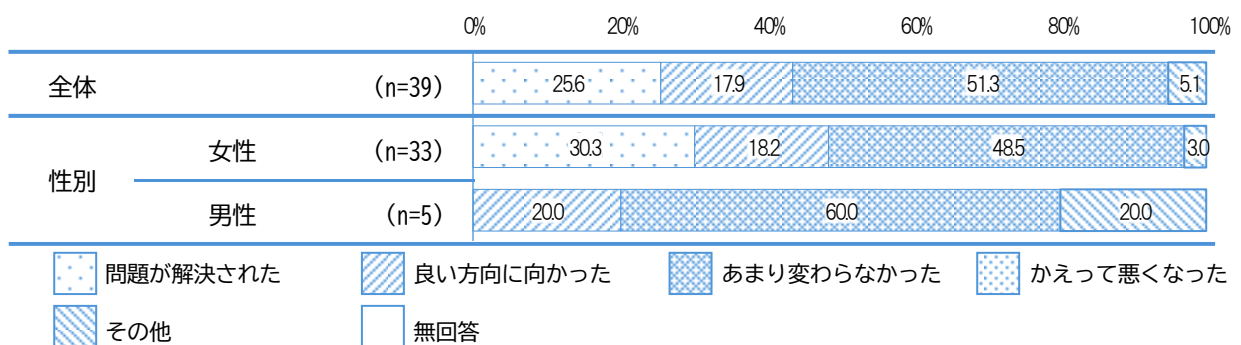
お店の人。
豊の国健康ランドの職員。
職場の上司。

■「相談しなかった」理由

小学生だったのでそれが悪いことだとわからなかった。
してもどうにもならないからと思ったから。
当人と話し合っ嫌だと言った(中学の頃)。
怖かったから言いにくい。
身近な人だったから。
通勤途中の路上で後ろから抱きつかれたが、すぐに犯人が走って逃げたため。
話したくなかったから。
古い考えをする人だったので話しても無駄だと思い受け流した。
公にしたいくない、考えたくない、騒ぎを起こしたくない。
勇気がない。
一時的な言葉だったので我慢できた。

[SA]

問21 【問20で1つでも「相談した」と答えた方におうかがいします。】相談した結果、状況はどうになりましたか。



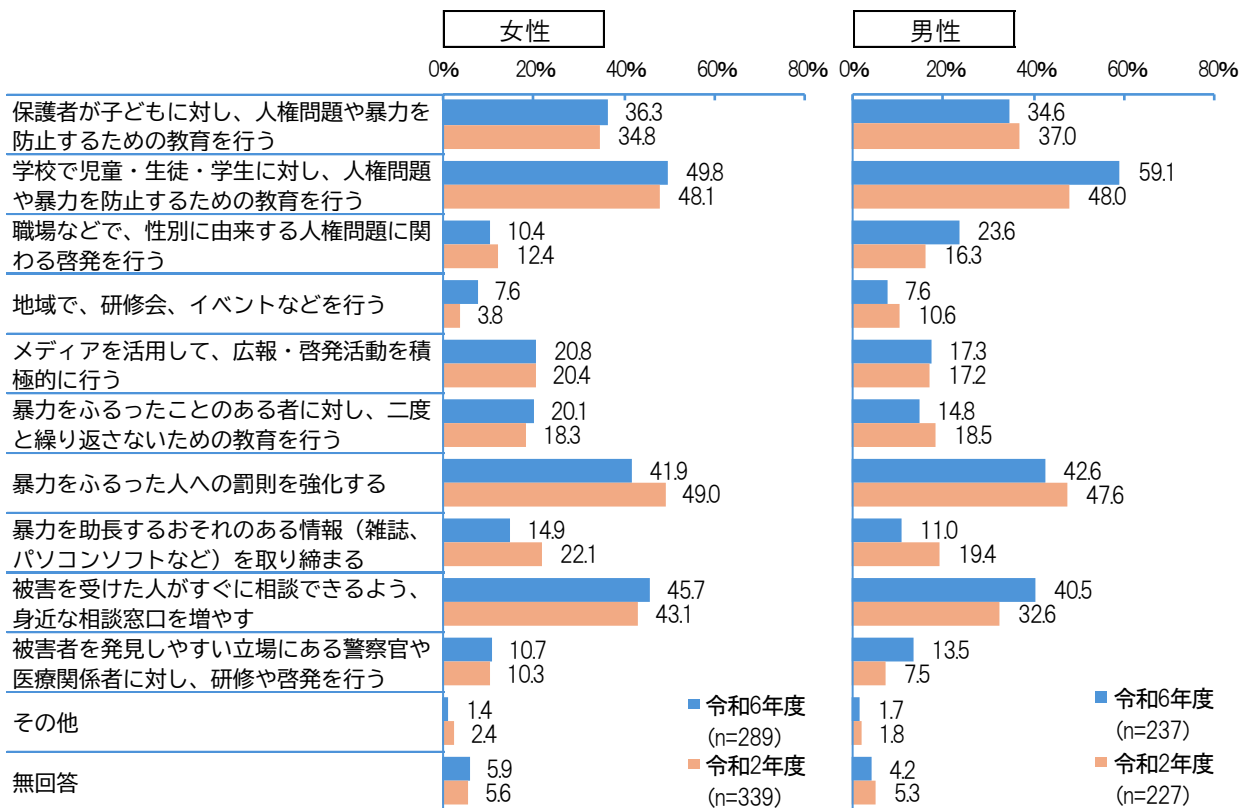
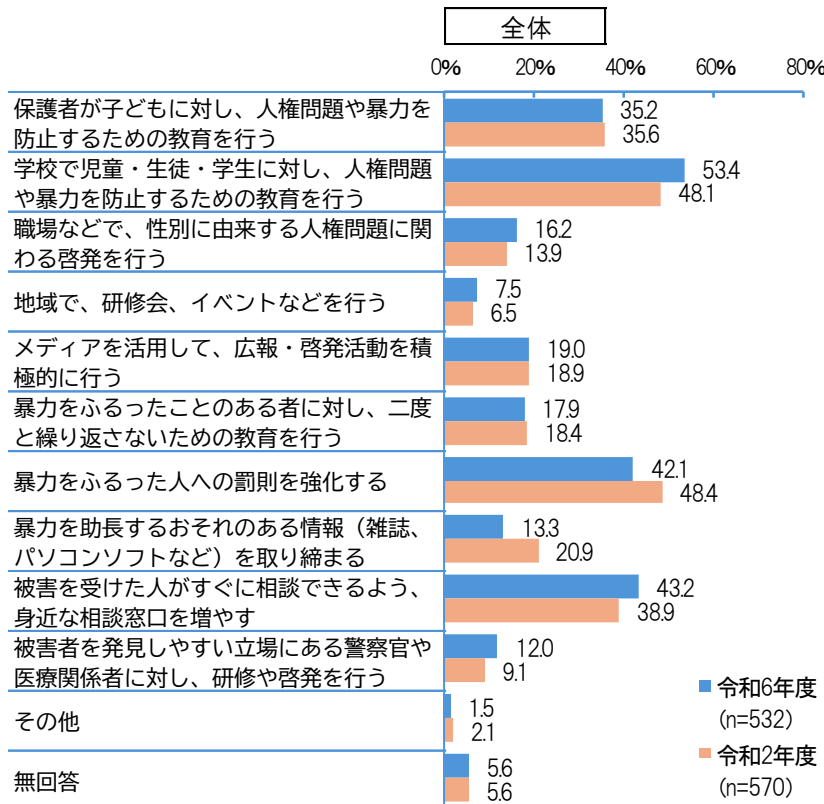
全体でみると、「あまり変わらなかった」が 51.3%と最も高く、次いで「問題が解決された」(25.6%)、「良い方向に向かった」(17.9%)となっています。

男性の母数が 10 名以下のため性別での比較は行いません。

■その他意見

防犯カメラがないからと取り合ってくれなかった
次に行った時に捕まっていた

問22 性犯罪、売買春(援助交際を含む)、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアルハラスメント、ストーカー行為等などの暴力をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。



全体でみると、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が53.4%と最も高く、次いで「被害を受けた人がすぐに相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(43.2%)、「暴力をふるった人への罰則を強化する」(42.1%)となっています。

性別でみると、「職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う」では女性が10.4%、男性が23.6%と女性に比べ男性が13.2ポイント、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」では女性が49.8%、男性が59.1%と女性に比べ男性が9.3ポイント高くなっています。

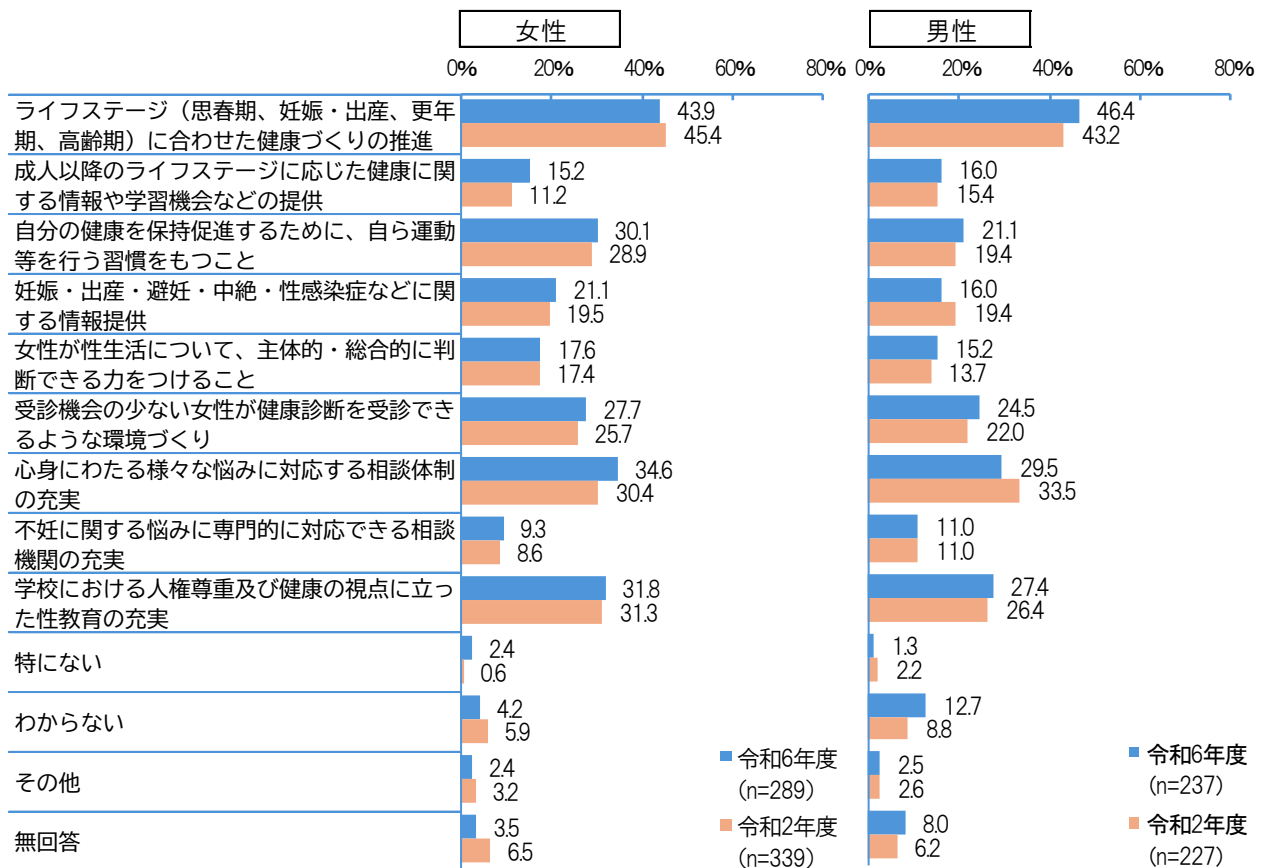
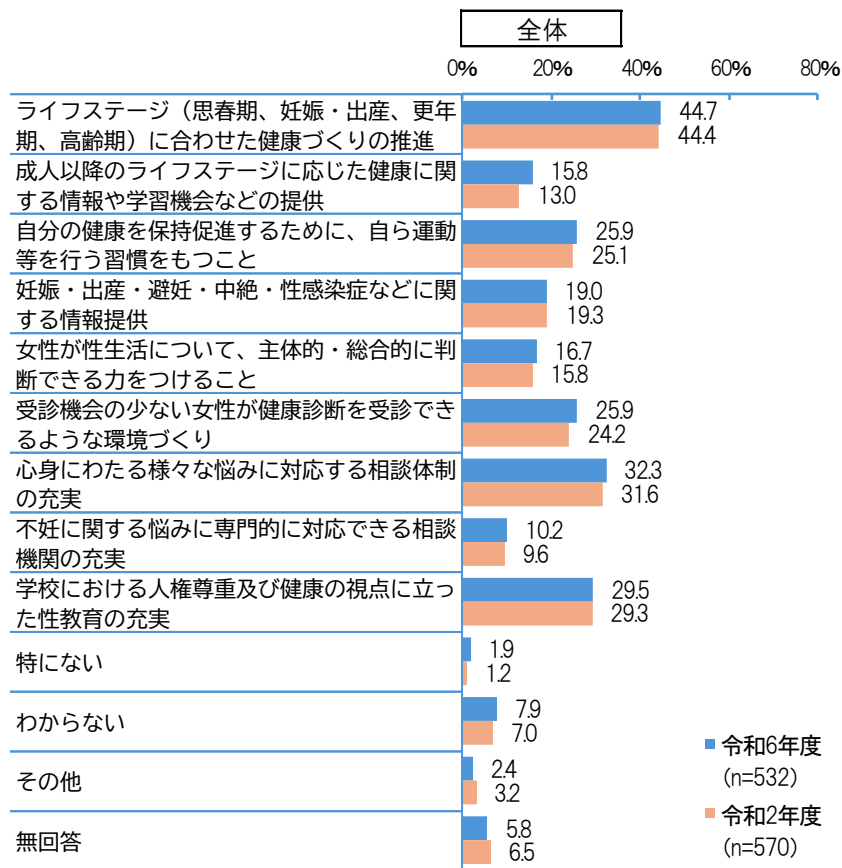
前回調査と全体で比較すると、「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、パソコンソフトなど)を取り締まる」が7.6ポイント、「暴力をふるった人への罰則を強化する」が6.3ポイント減少し、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が5.3ポイント増加しています。

性別で比較すると、「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、パソコンソフトなど)を取り締まる」では女性が7.2ポイント、男性が8.4ポイント減少し、男性では「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が11.1ポイント増加しています。

■その他意見

保護施設の強化、認知度を上げ相談しやすい、すぐに行きやすい環境を作っていくこと、警察や児童相談所の職員が疑わしい時にすぐ自宅に踏み込めるようにして欲しい。
メディアによる偏った発信を減らす。
注意喚起の意味も含め暴力をふるった人の氏名、顔写真を公開する。
罰則の強化。
家庭の経済的貧困を少なくする。子どもから大人まで地域の人、社会との関わりをできるだけ持ち、支え、支えられる関係性を多く持つ。
被害者の逃げ場の確保。
性犯罪者は名前・顔写真を公表する。
国会議員が本気になって様々な情報を集めて無くすための法律をつくる。
結局、家庭環境でしょう。

問23 妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が生涯にわたり心身共に健康であるために、どのようなことが大事だと思いますか。



全体でみると、「ライフステージ(思春期、妊娠・出産、更年期、高齢期)に合わせた健康づくりの推進」が44.7%と最も高く、次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実」(32.3%)、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の充実」(29.5%)となっています。

性別でみると、「自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣をもつこと」では女性が30.1%、男性が21.1%と男性に比べ女性が9.0ポイント高く、「わからない」では女性が4.2%、男性が12.7%と女性に比べ男性が8.5ポイント高くなっています。

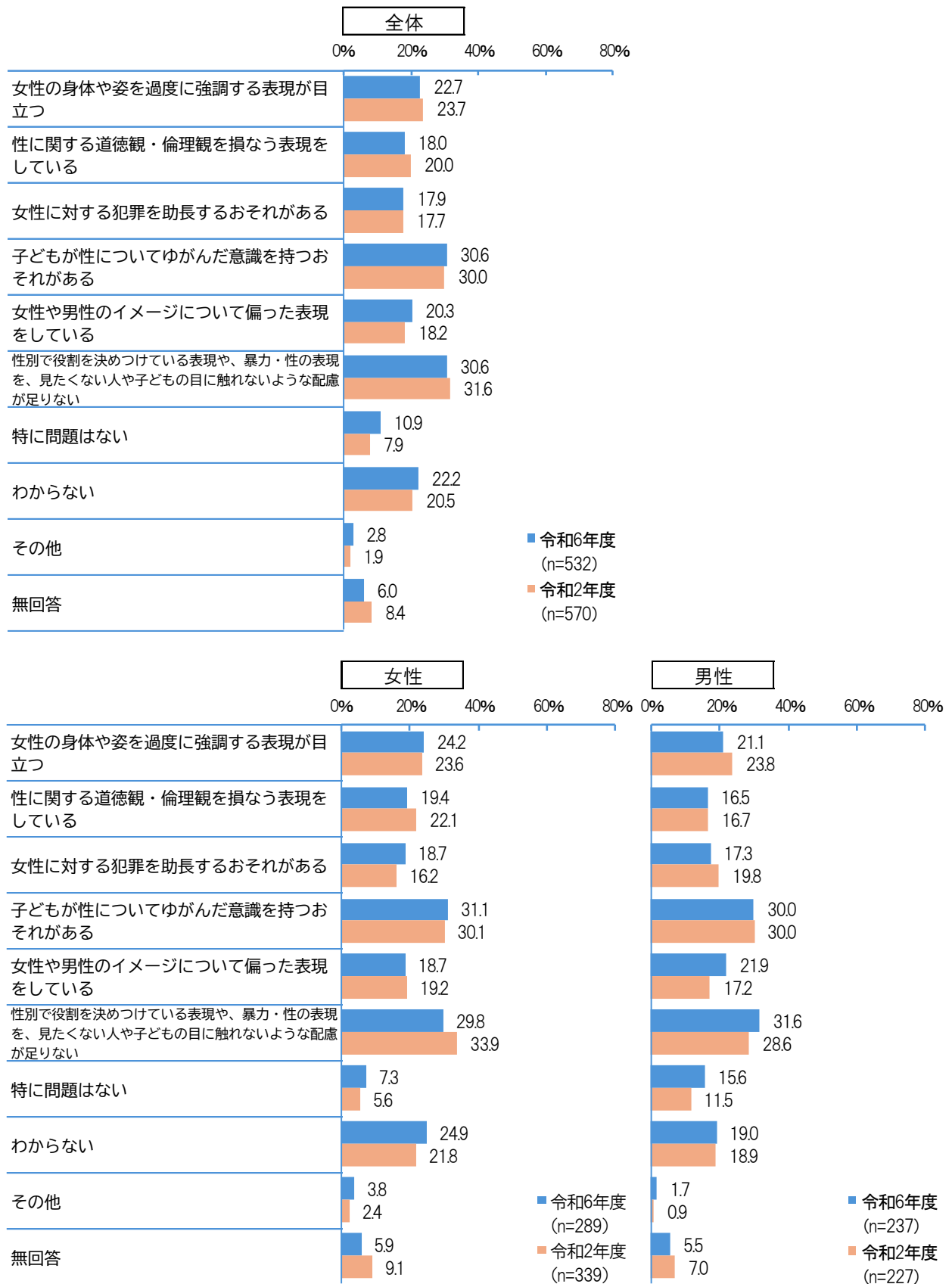
前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

■その他意見

中学生、高校生に対し実践で乳幼児の世話を体験させる。妊娠・出産は誰でもできるがその後が大変なことを教えるべき。
性教育は子どもが小さいときから続ける。頭が柔軟だから女性の身体の変化が普通と思えるといいな。
子どもを産むということはいわゆる本能です。母性も本能です。女性は男性コメンテーター等の意見に惑わされることなく、子どもを守る為にできることをする。それでいいと思う。
男性なので問23の意味が分からないし、我々の時代は多分それは女性だけ集めて授業してたことと関係があるのだろうか。
女性も絶対に働かなければいけない、社会進出しなければいけないというような風潮をやめる。
出産費用の保険適用、社会の中の男尊女卑の意識をなくす。
同年代で悩みを話し合える場の設定(気軽に参加可能な)。
母性特有の心身のことについて学校・社会・職場のあらゆる場面で理解が深まるよう知識を共有すること。上記を実践できるよう女性が重職に就くこと。
妊娠、出産の際、補助金制度の拡充。
男性なみに働く。
異性にも理解が必要。
男性にも女性のつらさを理解してもらおう機会が多々必要と思う。
まともな男性と一緒にすること。

問24 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの固定的な性別役割分担の表現(男は仕事、女は家庭など)や暴力、性の表現について、どう思いますか。



全体でみると、「子どもが性についてゆがんだ意識を持つおそれがある」「性別で役割を決めつけている表現や、暴力・性の表現を、見たくない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が30.6%と最も高く、次いで「女性の身体や姿を過度に強調する表現が目立つ」(22.7%)、「わからない」(22.2%)となっています。

性別でみると「特に問題はない」では女性が7.3%、男性が15.6%と女性に比べ男性が8.3ポイント高くなっています。

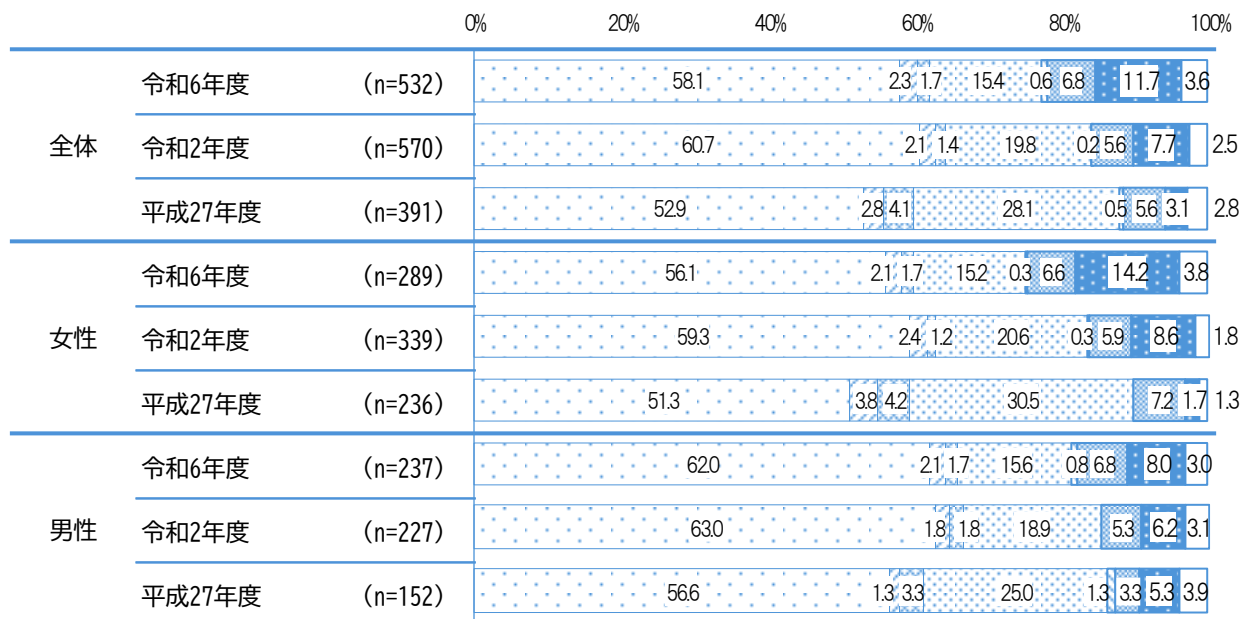
前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

■その他意見

様々な表現や情報があふれていてどうすることもできない。
人それぞれ考え方や感じ方が違って、人によっては嫌な言葉も良い言葉と思う人もいるので、会社でも力仕事を男性にしてもらった時に「さすが男！」みたいなことも言っただめなのかと思うときもあります。
間違っていると思うことは家庭で話す。
現在は表現を締め付け過ぎ、昭和のような大らかな時代にするべきだ。人間の本能にまつわる部分を他者が抑圧するのは様々な権利の侵害。
現在ではメディアよりもスマートフォンなどのものがあり、それにより子どもたちの考え方、また物に対する向き合い方などが進んでおり、60代の私たちには想像ができない。
この件については今や「ゆとり教育を受けた者」が番組を作っているので配慮などある訳がない。なぜならそういう教育を受けていないから。
メディアでの表現はこれまでと変わらないと思う、がそれを見る、目に入ってしまう機会や方法が誰でも手に入りやすくなっている。
メディア関係者にも偏った考えで(介護を男性が行うのは性加害と変わらないかのように報道するNHK等)いる人が存在しているので。そうした前提が間違いであると気づき、指摘できるような柔軟な思考の枠組みをつくるべき。
確固たる考えがあれば惑わされないのでは、と思う。少数の意見を取り上げ過ぎなのでは。
社会、政治自体が男女差別している。個人に情報提供しても改善できない。
男性と女性は生まれつき体の持つ機能が違うので、全て平等に表現しようとするのは無理があるのではと感じる。性に差が出るのは当たり前でなんでも差別というのは違う気がする。
今はそのような表現をしているメディアは少ないように思います。
「歪んだ意識」や「偏った表現」というものが個人によって違うことを理解すること。

問25 女性が働くことをどう思いますか。



結婚や出産にかかわらず、働き続けた方がよい
 結婚するまでは、働いた方がよい
 子どもができるまでは、働いた方がよい
 子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら、また働くのがよい
 働かない方がよい
 わからない
 その他
 無回答

全体でみると、「結婚や出産にかかわらず、働き続けた方がよい」が58.1%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら、また働くのがよい」(15.4%)、「その他」(11.7%)となっています。

性別でみると「結婚や出産にかかわらず、働き続けた方がよい」では女性が56.1%、男性が62.0%と女性に比べ男性が5.9ポイント高くなっています。

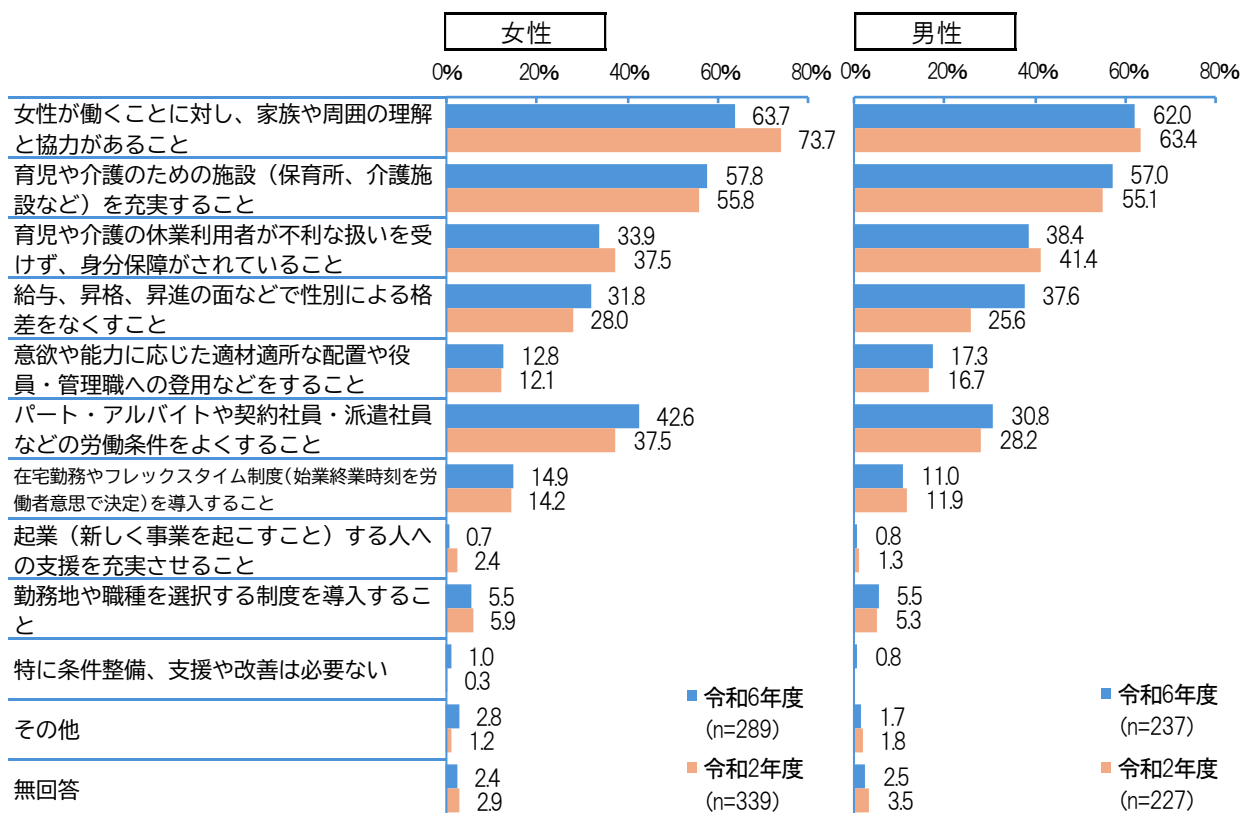
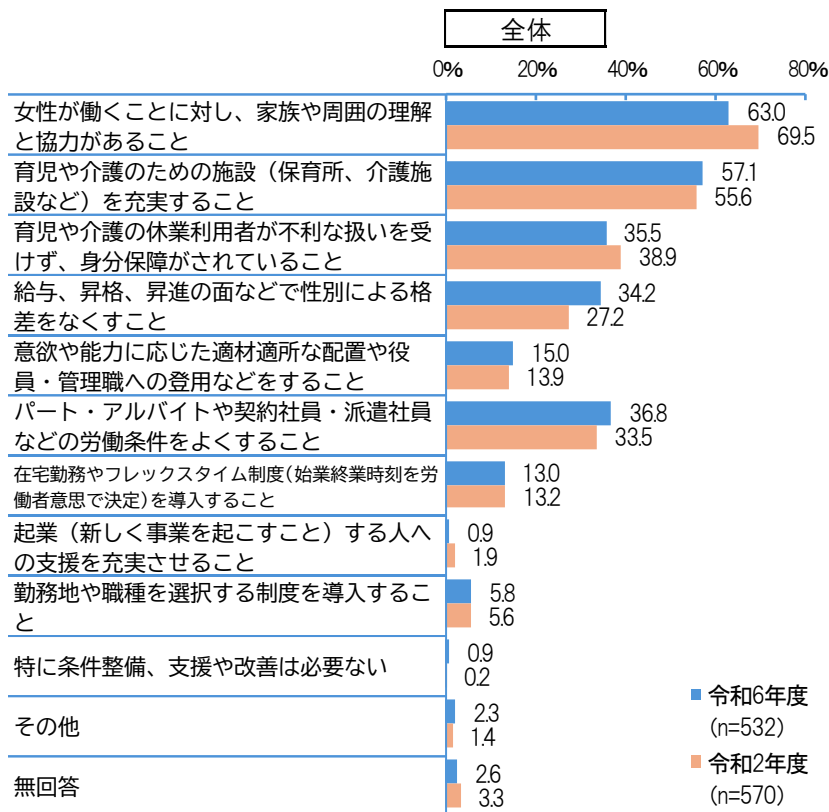
前回調査と全体で比較すると、大きな差はみられません。

性別で比較すると、女性では「その他」が5.6ポイント増加し、「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら、また働くのがよい」が5.4ポイント減少しています。

■その他意見

働きたい人は働けばいいし、家にいたい人はそうすればいい。ただしパートナー次第ということを忘れずに。
「働き続けるかどうか」はその人の状況で変わるが、社会に出て働くという経験は大切だと思う。
自身が働きたいと思えば働き続けければ良い。
個人の自由。
自分らしく生きることができるよう、仕事と適切な距離を保つべき。
どの選択をしても受け入れてくれる社会になって欲しい。
経済的なことがあると思うのでどれとは選べない。
「～がよい」ではなく本人が望むことが実現されるべき。
働き続けたい、子どもができたなら辞めたい等、個人の意見が尊重されるべき。
本人が自由に決められるようにして欲しい。
夫婦間で話がしっかりできているなら一概に「～した方がいい」とは言えない。したいならすればいいと思う。
仕事を辞めたいが年金が少なくなるので働かざるを得ない。
キャリア優先も家庭優先もどの選択も尊重したい。
自分の身体と相談しながら働けるといい。
働き続けたいと思う人が働き続けられる環境を整えることが大事と思うが、家庭に入りたいと思う人もいると思う。
家の外で「働く」ことの機会を確保できるよう環境整備して、男女が差別なく「働く」ことができる状況を作っていけばよい。「働く」かどうか個人の意思の自由。
自分の家庭の事情で好きにしたらいい。それぞれ事情が違うのだから女性が〇〇と決めなくても良いと思う。
世帯収入によって働き方が変わると感じるが、夫の収入関係なく働きたい女性もいると思う。
女性の社会進出は必要だと思いますが「結婚・出産・育児」の言葉でくられると否定されているように聞こえる。
母親はなるべく子供と過ごす時間があつた方がいい。働かなくていいとは思わないけど、働きすぎるのも子供との関わりが少なくなり、会話が少なくなる気がする。(子供の変化に気付かない。)
自分の意思で選択したことが実現できれば良い。その実現を支えられる社会に成長してほしい。
働く、働かないといった選択を女性自身が納得して決められる仕組みづくりが必要だと感じる。
女性は結婚する、出産するという前提で働くことをどう思うか考えるのはどうかと思う。
出産後も可能なら働き続けた方が良いが、働き方については見直すべきである。
「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら、また働くのがよい」が理想だが、今の給与体系では、女性も働かざるを得ない。

問26 女性が働き続けていくためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。



全体でみると、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が63.0%と最も高く、次いで「育児や介護のための施設（保育所、介護施設など）を充実すること」（57.1%）、「パート・アルバイトや契約社員・派遣社員などの労働条件を良くすること」（36.8%）となっています。

性別でみると、「給与、昇格、昇進の面などで性別による格差をなくすこと」では女性が31.8%、男性が37.6%と女性に比べ男性が5.8ポイント高く、「パート・アルバイトや契約社員・派遣社員などの労働条件を良くすること」で

は女性が 42.6%、男性が 30.8%と男性に比べ女性が 11.8 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「給与、昇格、昇進の面などで性別による格差をなくすこと」が 7.0 ポイント増加し、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が 6.5 ポイント減少しています。

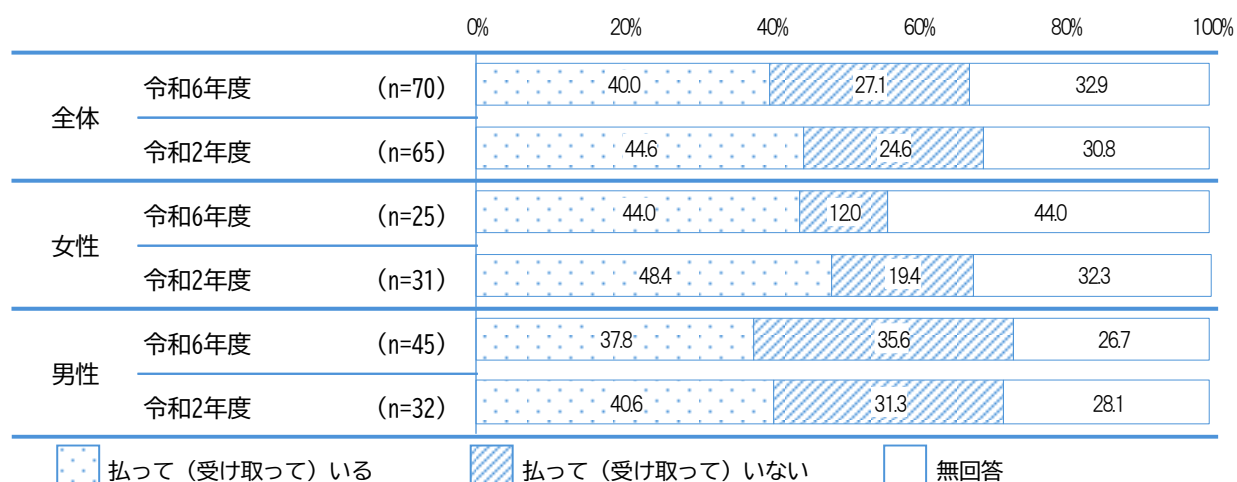
性別で比較すると、女性では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が 10.0 ポイント減少し、男性では「給与、昇格、昇進の面などで性別による格差をなくすこと」が 12.0 ポイント増加しています。

■その他意見

家事代行サービスの充実。
子育てのための休暇制度の充実と代替職員の確保。
子どもを育てる場合は女性に育児手当等支援を行う。どうしても子どもができると休業、退職等で経験年数が少なくなり給与・昇格・昇進に差ができるので補助。でもやることが多いのでそれ以上の額にすべき。
家の外で働く、家の中で働く、男女の考え、様々な働く方が尊重される個人個人の意識を小さい頃から醸成すること。
配偶者の意識改革。
時間有休がとれるようにする
育児は母親が主体という考えをやめて男親も協力(全体)となって支えていくことが必要。そのために男親の職場での配慮が保障されてほしい。
働きたい人が保険料や税金を気にせずに働けるような仕組みづくり、扶養控除など税制の根本見直し。
条件整備や支援も大事だがそもそも日本全体が貧しく、余裕がない。社会や企業がもっと豊かであれば条件整備が出来ると思う。もっと簡単に言えば給料が上がればいい。

問27 【農林漁業、商工サービス業等自営業に従事(家族従事者も含む)している方におうかがいします。】

いわゆる給料は、家族に対して払って(受け取って)いますか。

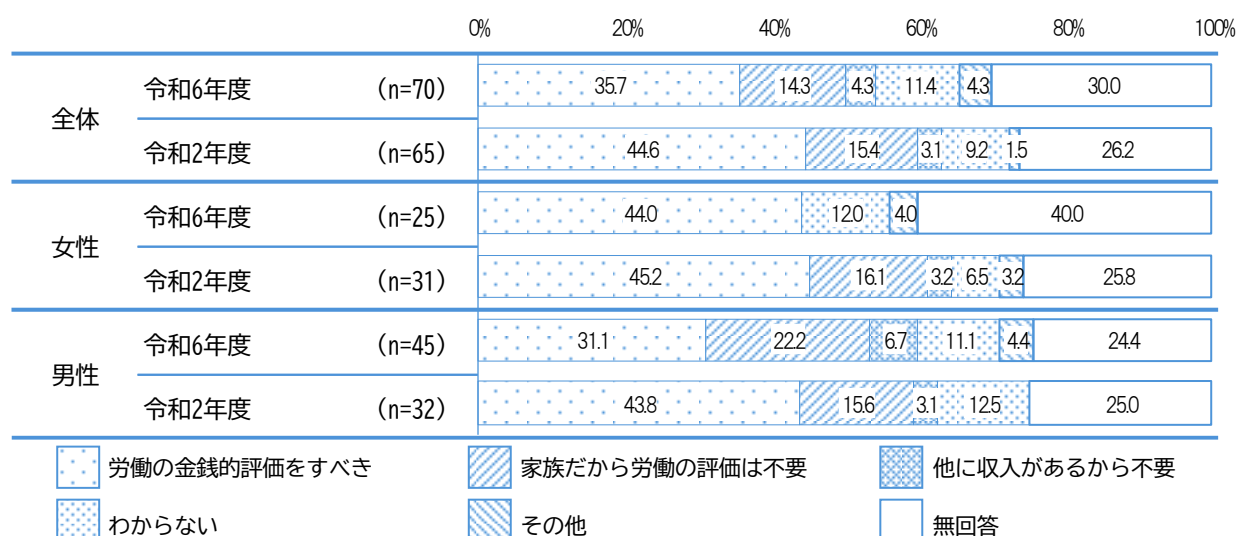


全体でみると、「払って(受け取って)いる」が40.0%、「払って(受け取って)いない」が27.1%となっています。性別でみると、「払って(受け取って)いる」では女性が44.0%、男性が37.8%と男性に比べ女性が6.2ポイント高く、「払って(受け取って)いない」では女性が12.0%、男性が35.6%と女性に比べ男性が23.6ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、女性では「払って(受け取って)いない」が7.4ポイント減少しています。

問28 農林漁業、商工サービス業等自営業に従事したことに対し、労働報酬(いわゆる給料)を支払うなど金銭的な評価をすべきだと思いますか。



全体でみると、「労働の金銭的評価をすべき」が 35.7%と最も高く、次いで「家族だから労働の評価は不要」(14.3%)、「わからない」(11.4%)となっています。

性別でみると、「家族だから労働の評価は不要」では女性が 0%、男性が 22.2%と女性に比べ男性が 22.2 ポイント高く、「労働の金銭的評価をすべき」では女性が 44.0%、男性が 31.1%と男性に比べ女性が 12.9 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「労働の金銭的評価をすべき」が 8.9 ポイント減少しています。

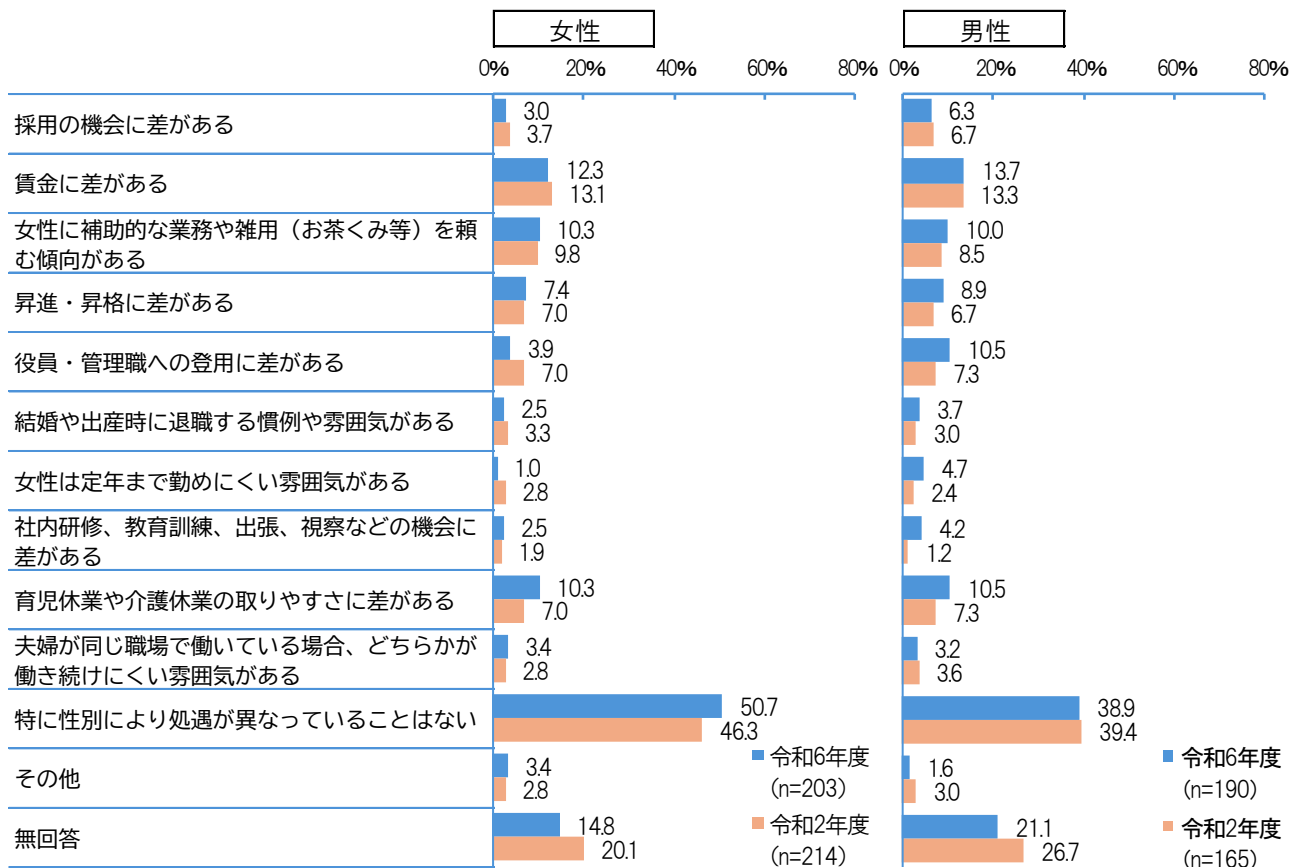
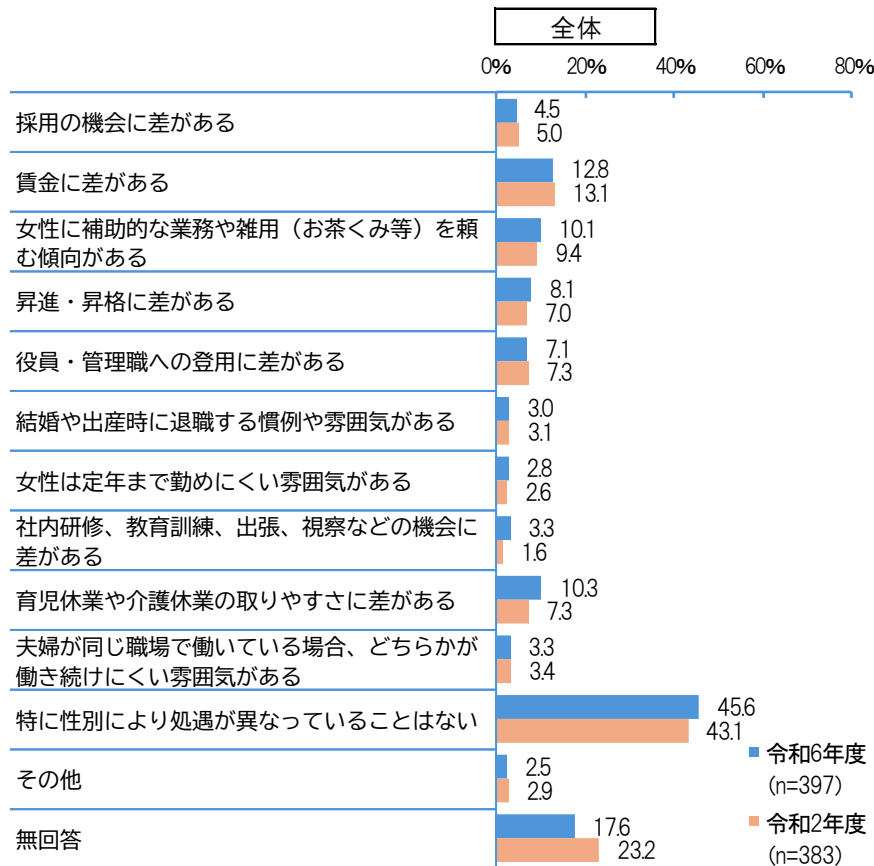
性別で比較すると、女性では「家族だから労働の評価は不要」が 16.1 ポイント減少し、男性では「労働の金銭的評価をすべき」が 12.7 ポイント減少しています。

■ その他意見

自営業の収入は共同で消費しているので。

収入を家計に入れている。

問29 【現在、働いている方(パート、アルバイト含む)におうかがいします。】あなたの職場では、性別によって処遇が違いますか。



全体でみると、「特に性別により処遇が異なっていることはない」が45.6%と最も高く、次いで「賃金に差がある」(12.8%)、「育児休業や介護休業の取りやすさに差がある」(10.3%)となっています。

性別でみると、「特に性別により処遇が異なっていることはない」では女性が50.7%、男性が38.9%と男性に比べ女性が11.8ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、大きな差はみられません。

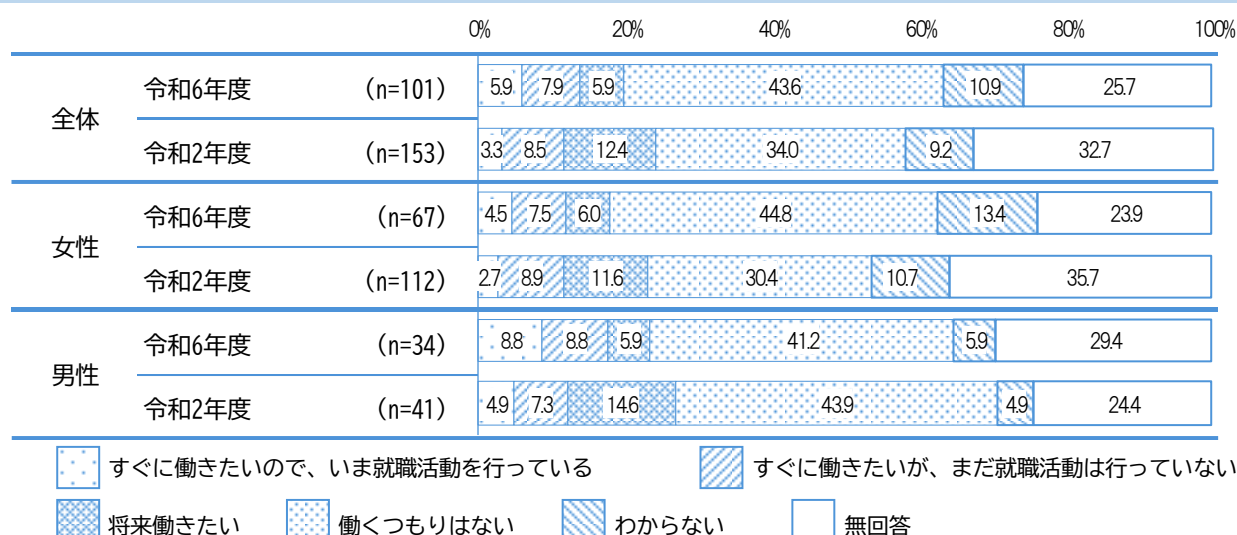
性別で比較すると、大きな差はみられません。

■その他意見

休みが取りにくい。辞めたいと言ったが辞められない。
男性は力仕事で年末は忙しい職場なので出勤も多くなるため、その為に給料に差があるが特に不満はない。
男性がいないのでわからない。
建設業なので処遇に違いはあります。
担当の偏り（防災担当等募集）。

[SA]

問30 【現在、就業されていない方におたずねします。】 今後、働く予定はありますか。



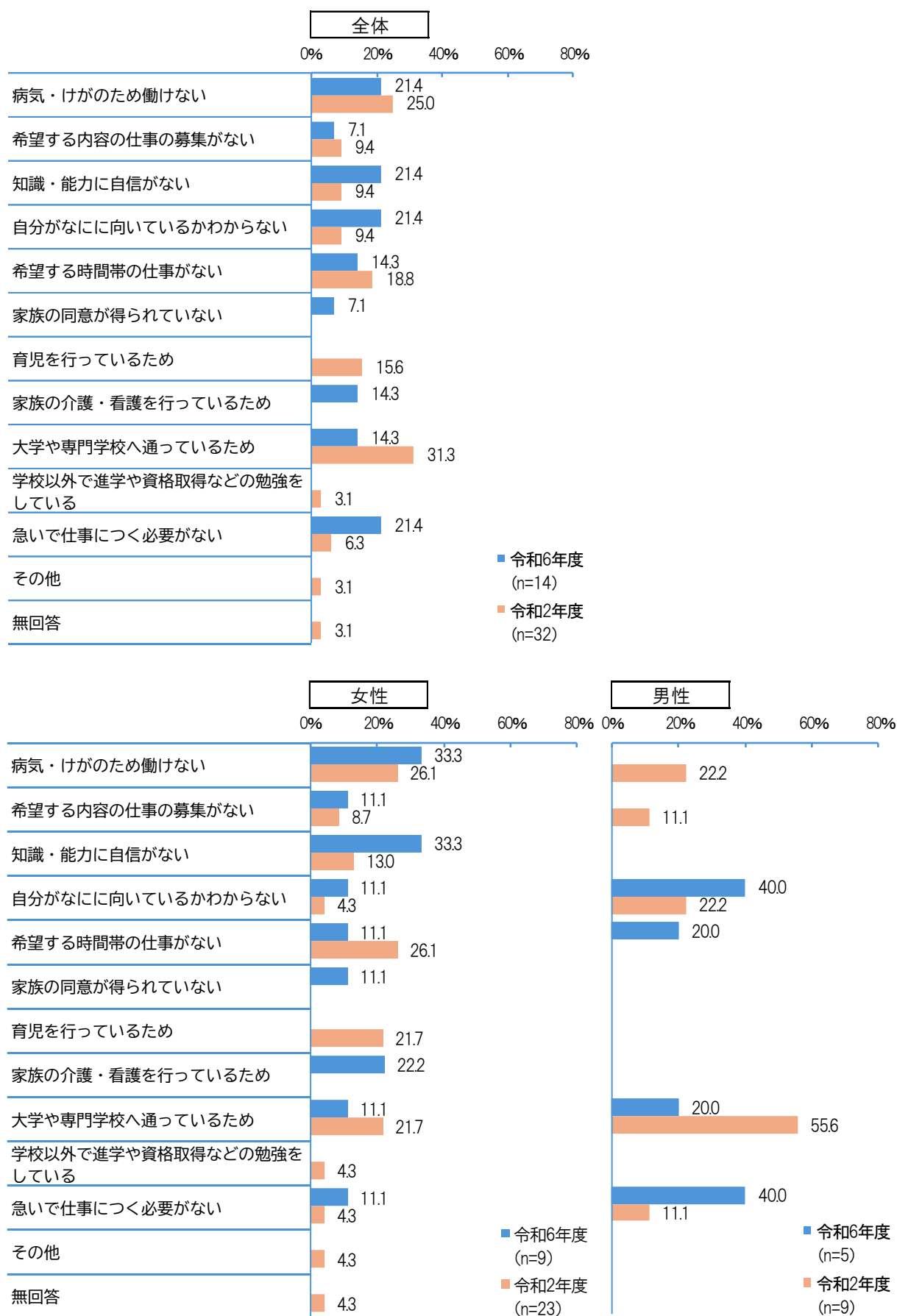
全体でみると、「働くつもりはない」が43.6%と最も高く、次いで「わからない」(10.9%)、「すぐに働きたいが、まだ就職活動は行っていない」(7.9%)となっています。

性別でみると、「わからない」では女性が13.4%、男性が5.9%と男性に比べ女性が7.5ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「働くつもりはない」が9.6ポイント増加し、「将来働きたい」が6.5ポイント減少しています。

性別で比較すると、「将来働きたい」では女性が5.6ポイント、男性が8.7ポイント減少し、「働くつもりはない」では女性が14.4ポイント増加しています。

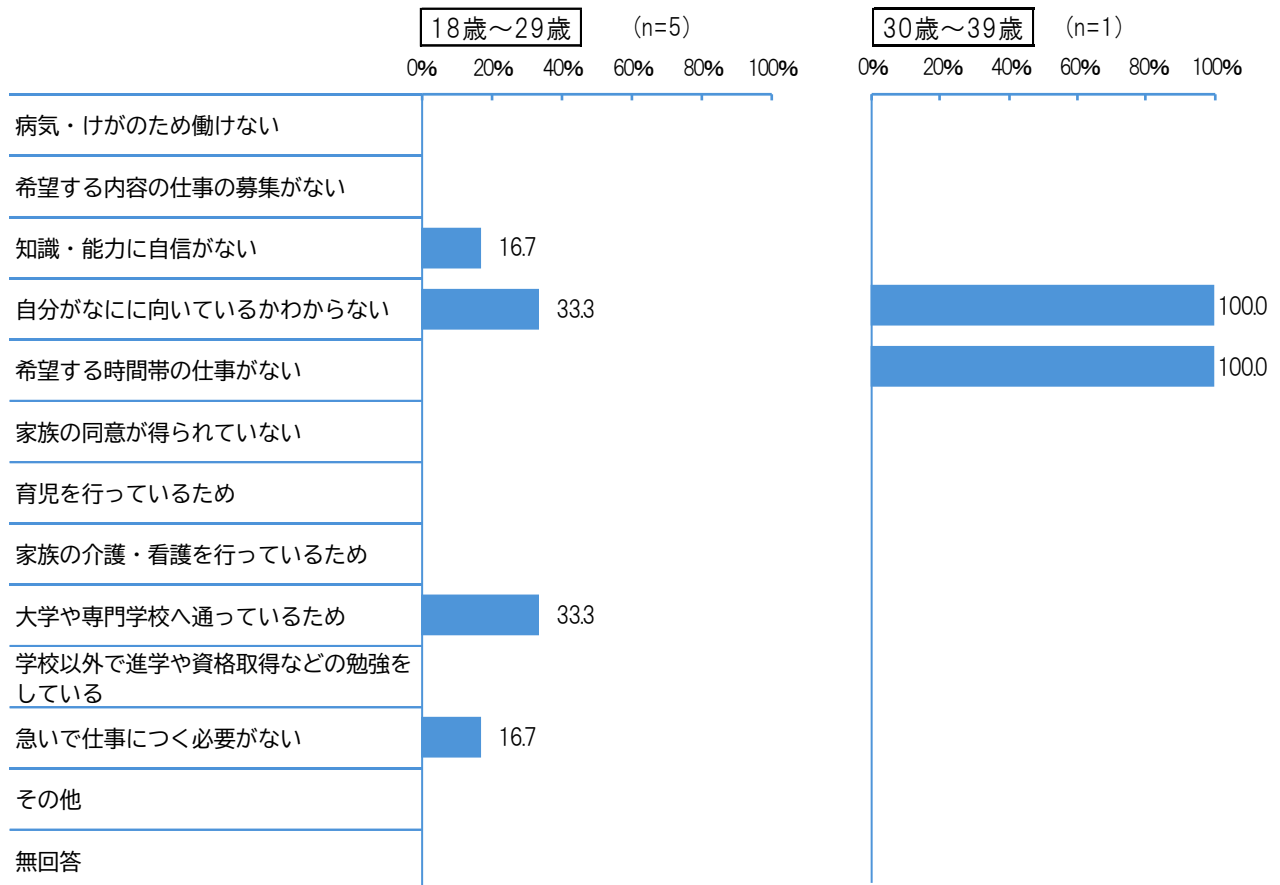
問31 【問30で「2. すぐに働きたいが、まだ就職活動は行っていない」、または「3. 将来働きたい」と答えた方におうかがいします。】現在、就職活動をされていない理由は何ですか。

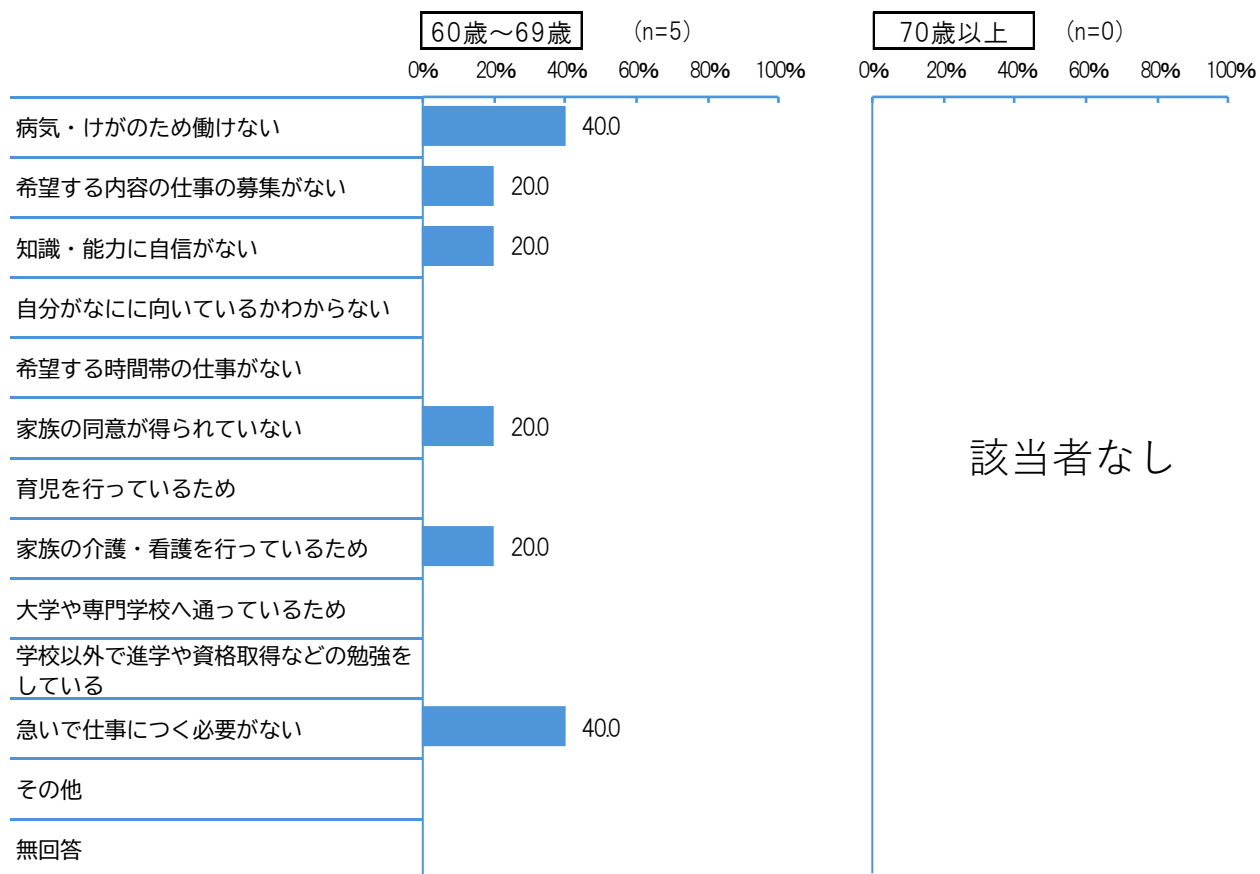
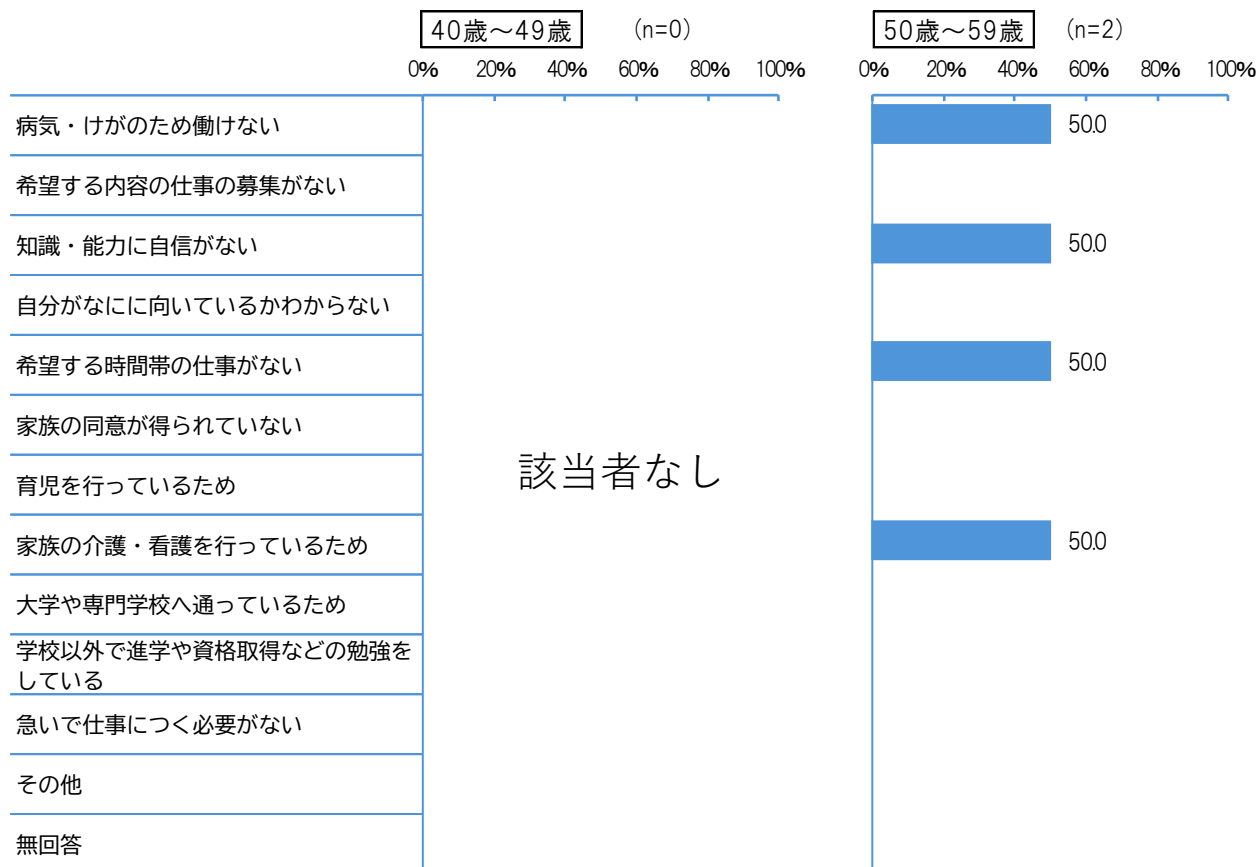


全体でみると、「病気・けがのため働けない」「知識・能力に自信がない」「自分がなにに向いているかわからない」「急いで仕事につく必要がない」が 21.4%と最も高く、次いで「希望する時間帯の仕事がない」「家族の介護・看護を行っているため」「大学や専門学校へ通っているため」(14.3%)となっています。

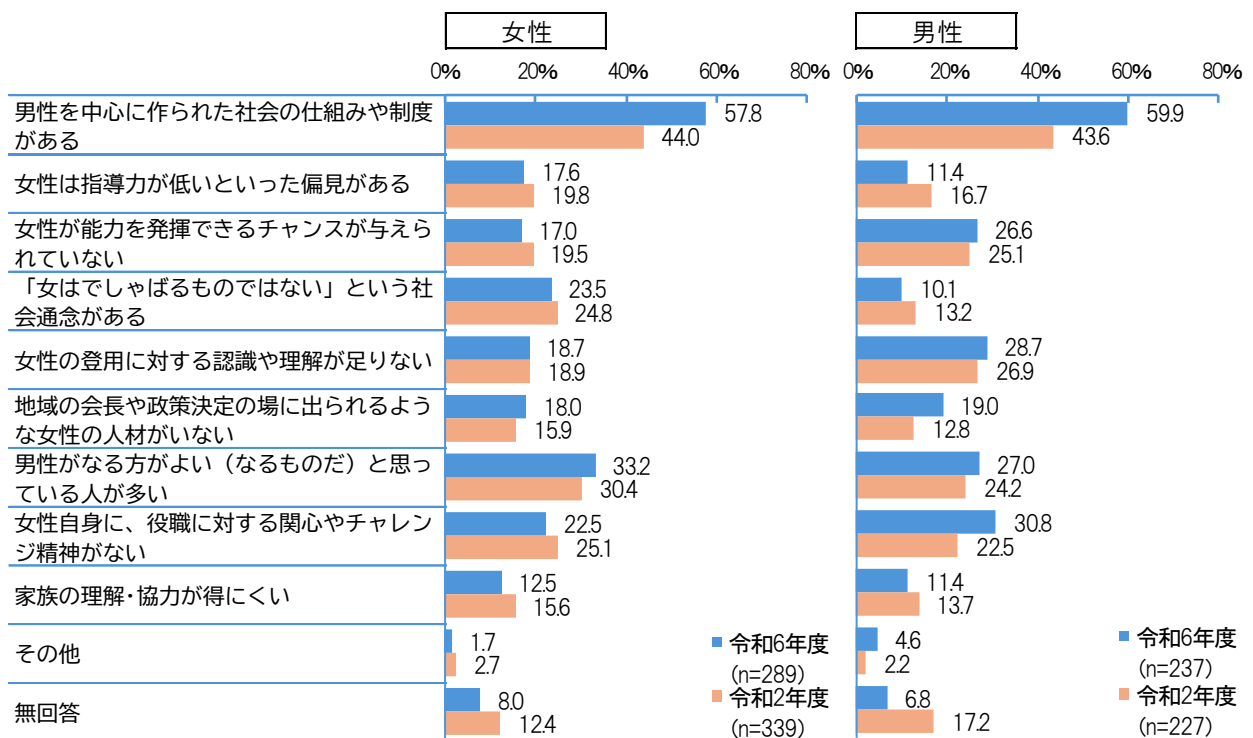
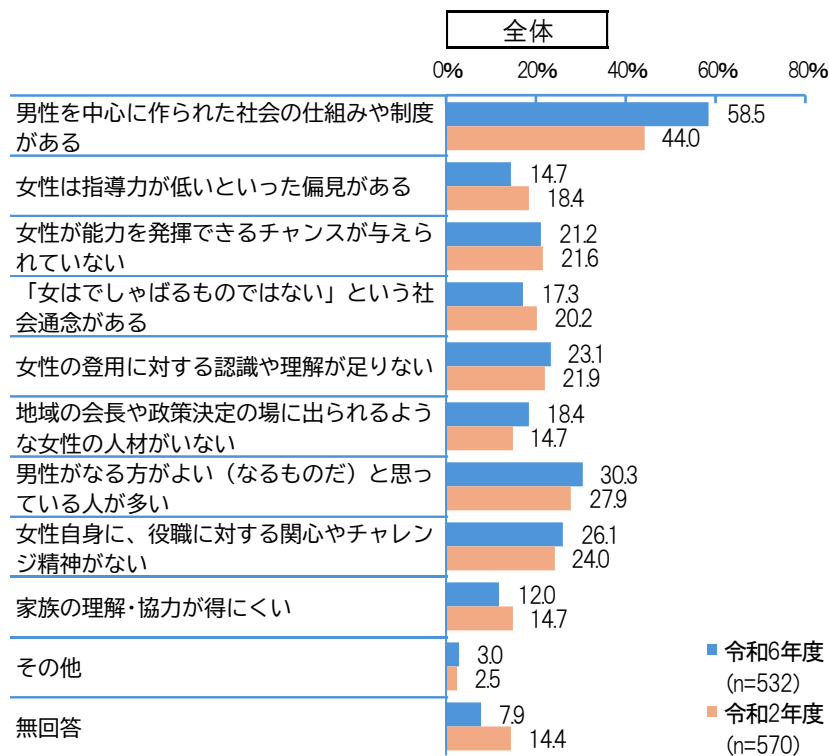
女性、男性ともに母数が 10 名以下のため性別での比較は行いません。

前回調査と全体で比較すると、「急いで仕事につく必要がない」が 15.1 ポイント、「家族の介護・看護を行っているため」が 14.3 ポイント、「知識・能力に自信がない」「自分がなにに向いているかわからない」が 12.0 ポイント増加し、「大学や専門学校へ通っているため」が 17.0 ポイント、「育児を行っているため」が 15.6 ポイント減少しています。





問32 女性の社会進出は進んでいますが、議員や審議会委員、自治会長などにはまだ女性が少ないのが現状です。なぜだと思いますか。



全体でみると、「男性を中心に作られた社会の仕組みや制度がある」が 58.5%と最も高く、次いで「男性になる方がよい(なるものだ)」と思っている人が多い(30.3%)、「女性自身に、役職に対する関心やチャレンジ精神がない」(26.1%)となっています。

性別でみると、「女性の登用に対する認識や理解が足りない」では女性が 18.7%、男性が 28.7%と女性に比べ男性が 10.0 ポイント、「女性が能力を発揮できるチャンスが与えられていない」では女性が 17.0%、男性が 26.6%と女性に比べ男性が 9.6 ポイント、「女性自身に、役職に対する関心やチャレンジ精神がない」では女性が 22.5%、男性が 30.8%と女性に比べ男性が 8.3 ポイント高く、「『女はでしゃばるものではない』という社会通念がある」では女性が 23.5%、男性が 10.1%と男性に比べ女性が 13.4 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「男性を中心に作られた社会の仕組みや制度がある」が 14.5 ポイント増加しています。

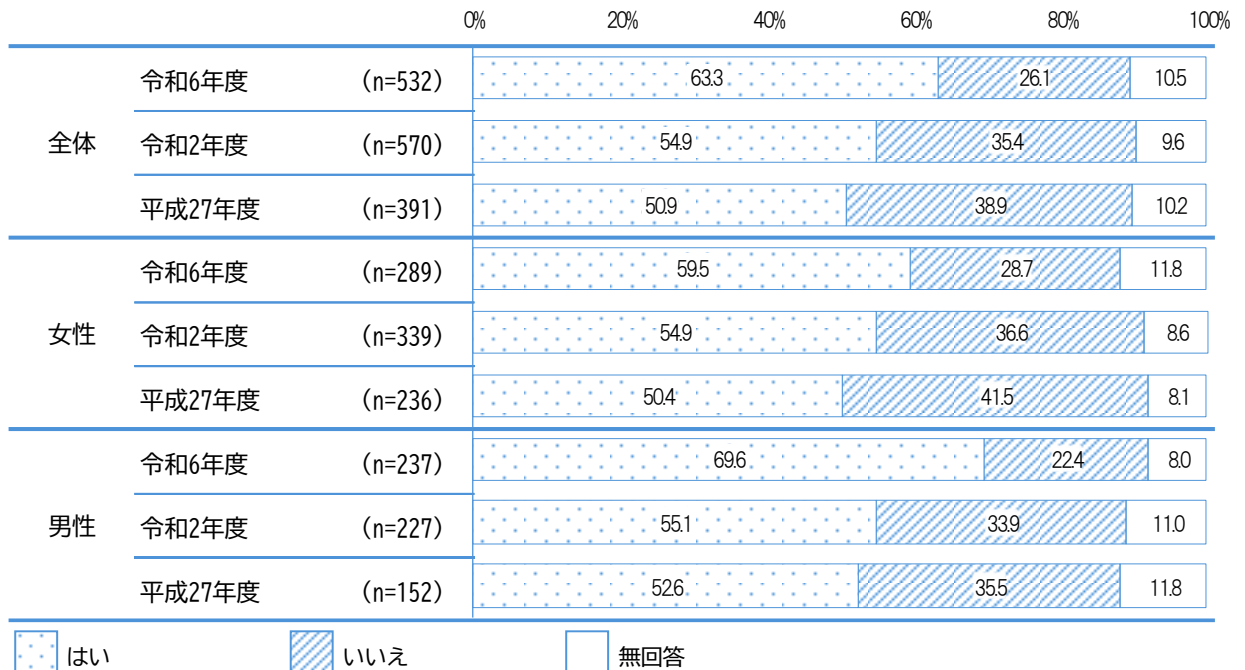
性別で比較すると、「男性を中心に作られた社会の仕組みや制度がある」では女性が 13.8 ポイント、男性が 16.3 ポイント増加しています。

■ その他意見

女性そもそもの立候補者数がはるかに少ないのではと思います。
女性は動物的に物事を俯瞰することが苦手なので絶対数が少なくなるのは当然。
女性の方が社会に対して偏見を持っている。なぜなら肉体労働とかできないし、だから楽な事務員になるという女性が多い。その先の管理職を目指すなら男性と同じ仕事をすべき。
やりたくない。
家事や仕事に時間が取られており、それ以上の負担は困難です。
女性は育児や家事が率先、就業できないと思われる。
男性中心に作られた社会の代替わりまでついていない。学歴社会なのでまずは大学や経歴で見劣りする。議員をやるより育児をした方が良い。仕事・家庭・育児から議員をやろうとは思わない。
女性のマネジメント職への登用するための裾野となる女性の昇任促進と同時に子育て環境、家庭家事の男性進出促進のための仕組み(休暇促進や子育て環境整備)。
どうしても家庭が犠牲になってしまう。
できることなら、自治会長などしたくないと思っている人が多いと思う。
無理やり多くすることがおかしい。
以前見た「女性で管理者や役職につきたいか」というアンケートでなりたいという女性が少なかった。もっと世の中の女性の意見を聞くべきだと思う。
経験上、決定事項がある際、女性になると、まとまる話もまとまらなくなることがあった。

問33 今、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進がもとめられていますが、現状をお聞かせください。あなたは、仕事と生活の調和がうまくとれていますか。

(自分の時間について、仕事・家庭・趣味など自分のやりたいこともできるようにバランスがとれているかどうか)

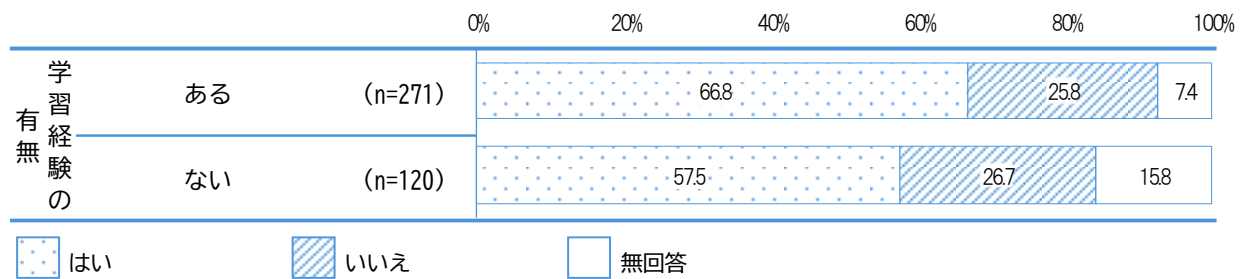


全体でみると、「はい」が 63.3%、「いいえ」が 26.1%となっています。

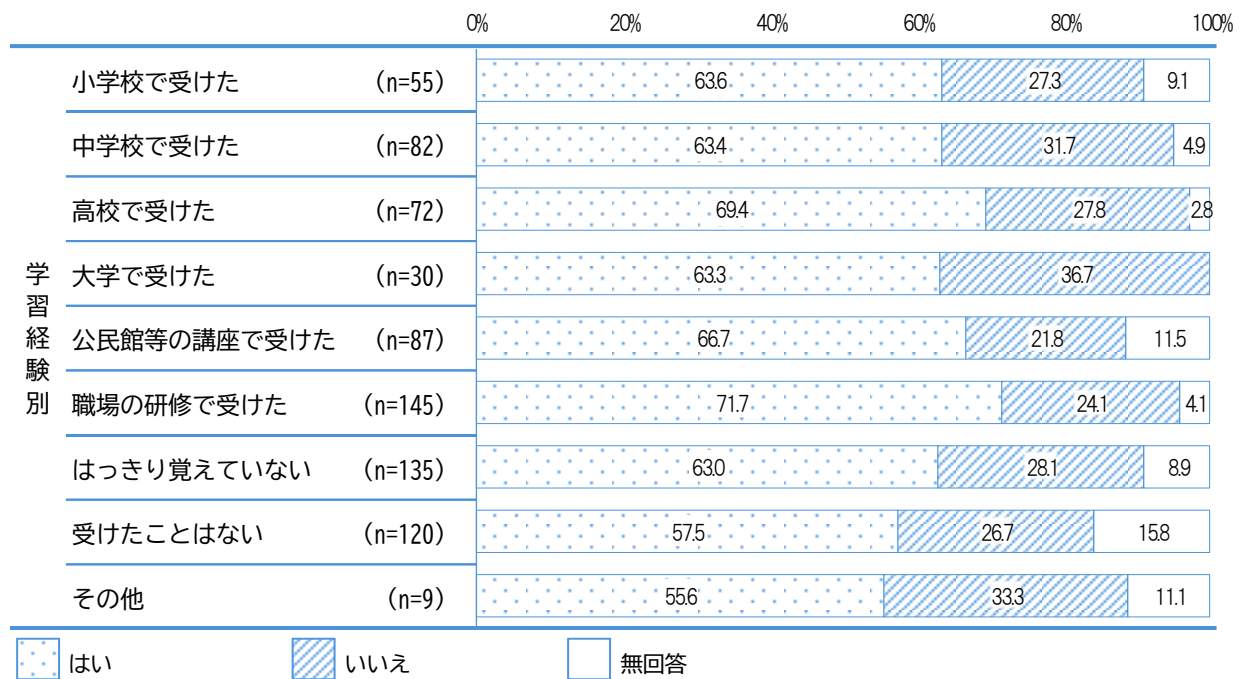
性別でみると、「はい」では女性が 59.5%、男性が 69.6%と女性に比べ男性が 10.1 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「はい」が 8.4 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「いいえ」では女性が 7.9 ポイント、男性が 11.5 ポイント減少しています。

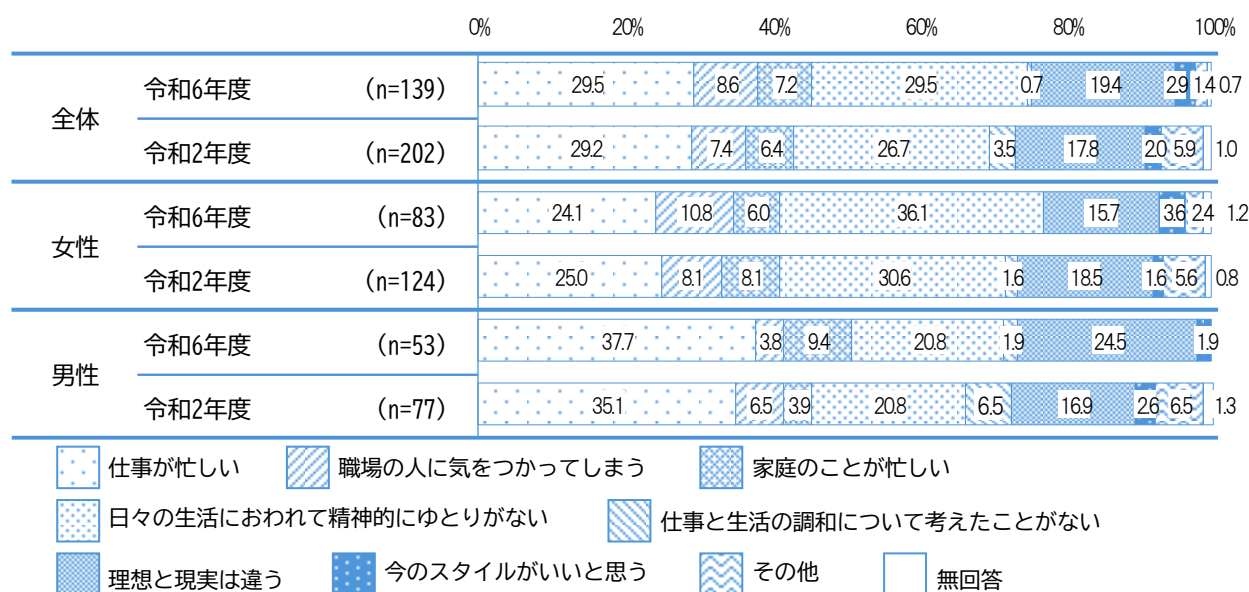


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、「はい」ではある人が 66.8%、ない人が 57.5%とない人に比べある人が 9.3 ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「受けたことはない」で「はい」が 57.5%と、他の項目に比べ 5.5 ポイント以上低くなっています。

問34 【問 33 で「いいえ」と答えた方におうかがいします。】 仕事と生活の調和がうまくとれない理由は何だと思えますか。



全体でみると、「仕事が忙しい」「日々の生活に追われて精神的にゆとりがない」が29.5%と最も高く、次いで「理想と現実が違う」(19.4%)、「職場の人に気がつかってしまう」(8.6%)となっています。

性別でみると、「仕事が忙しい」では女性が24.1%、男性が37.7%と女性に比べ男性が13.6ポイント高く、「日々の生活に追われて精神的にゆとりがない」では女性が36.1%、男性が20.8%と男性に比べ女性が15.3ポイント高くなっています。

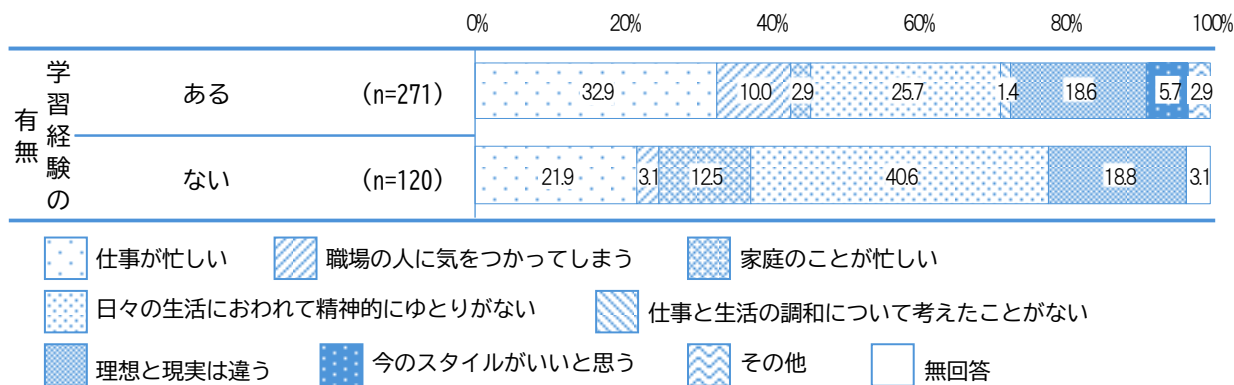
前回調査と全体で比較すると、大きな差はみられません。

性別で比較すると、女性では「日々の生活におわれて精神的にゆとりがない」が5.5ポイント、男性では「理想と現実が違う」が7.6ポイント増加しています。

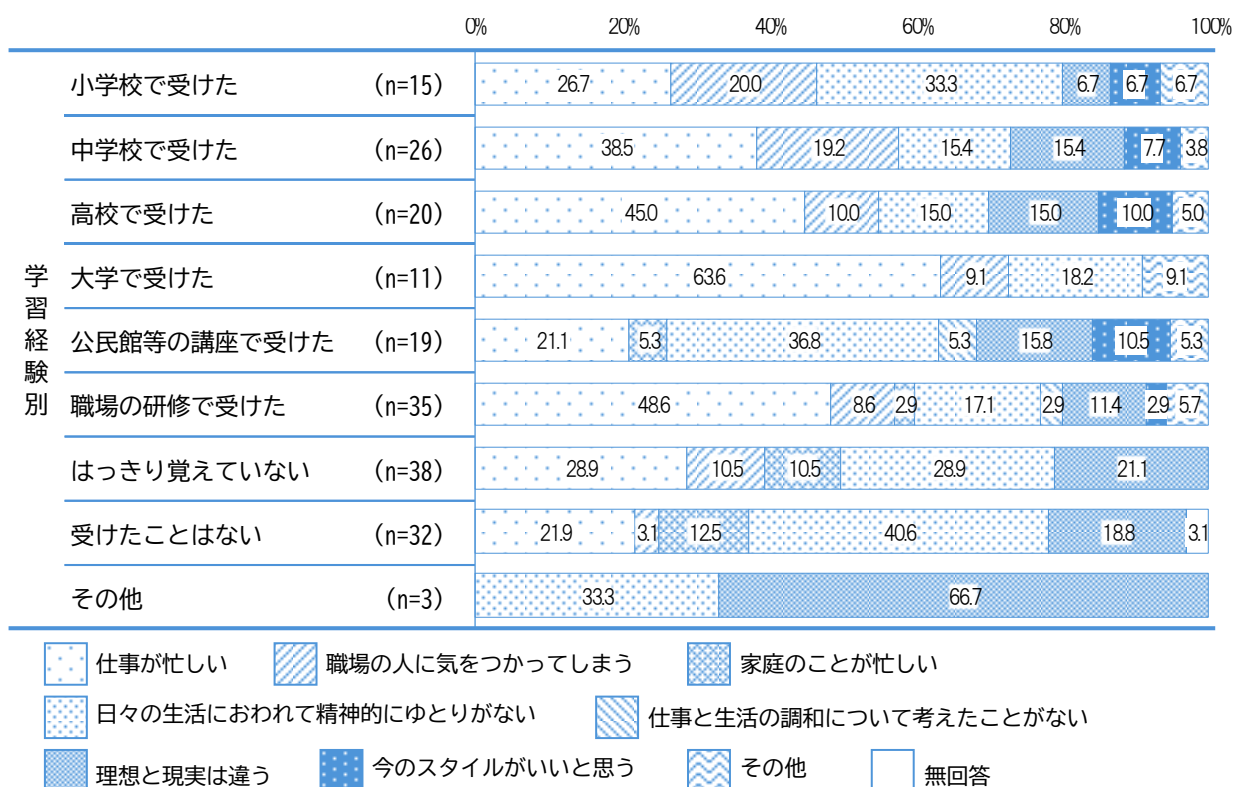
■ その他意見

非正規なので時間は沢山あり、仕事のストレスもないが収入がとても低い。

もっと仕事をしたいがやりたい仕事に時間の制限がある。

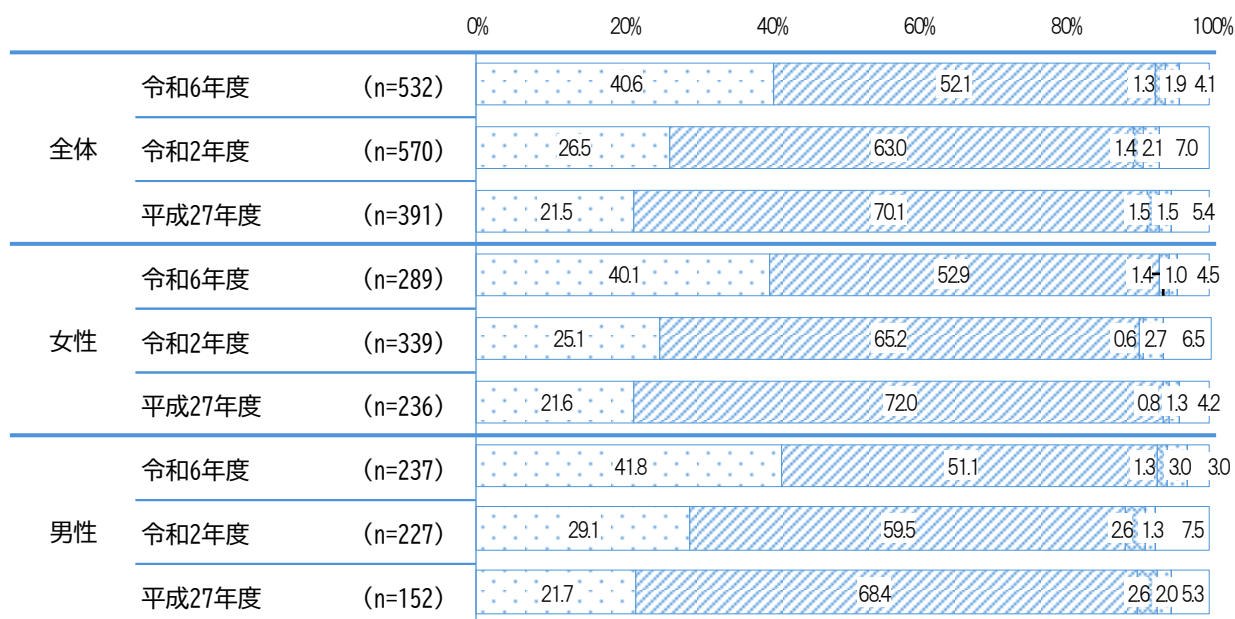


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、「仕事忙しい」ではある人が32.9%、ない人が21.9%と、ない人に比べある人が11.0ポイント高く、「日々の生活におわれて精神的にゆとりがない」ではある人が25.7%、ない人が40.6%と、ある人に比べない人が14.9ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「受けたことはない」で「日々の生活におわれて精神的にゆとりがない」が40.6%と最も高く、次いで「仕事忙しい」(21.9%)、「理想と現実が違う」(18.8%)となっています。

問35 男性が育児・介護休暇を取ることに、あなたはどのように思いますか。



男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである

男性が育児・介護休暇を取ることに賛成だが、実際は取りづらいと思う

育児・介護は女性の方が向いているので、男性が休暇を取る必要はない その他 無回答

全体でみると、「男性が育児・介護休暇を取ることに賛成だが、実際は取りづらいと思う」が52.1%と最も高く、次いで「男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである」(40.6%)、「その他」(1.9%)となっています。

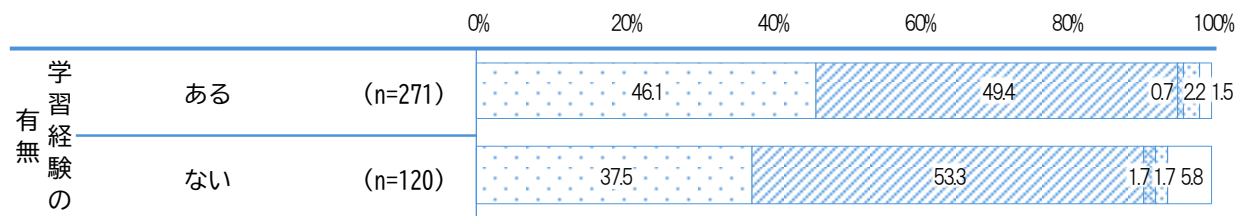
性別でみると、大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである」が14.1ポイント増加し、「男性が育児・介護休暇を取ることに賛成だが、実際は取りづらいと思う」が10.9ポイント減少しています。

性別で比較すると、「男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである」では女性が15.0ポイント、男性が12.7ポイント増加しています。

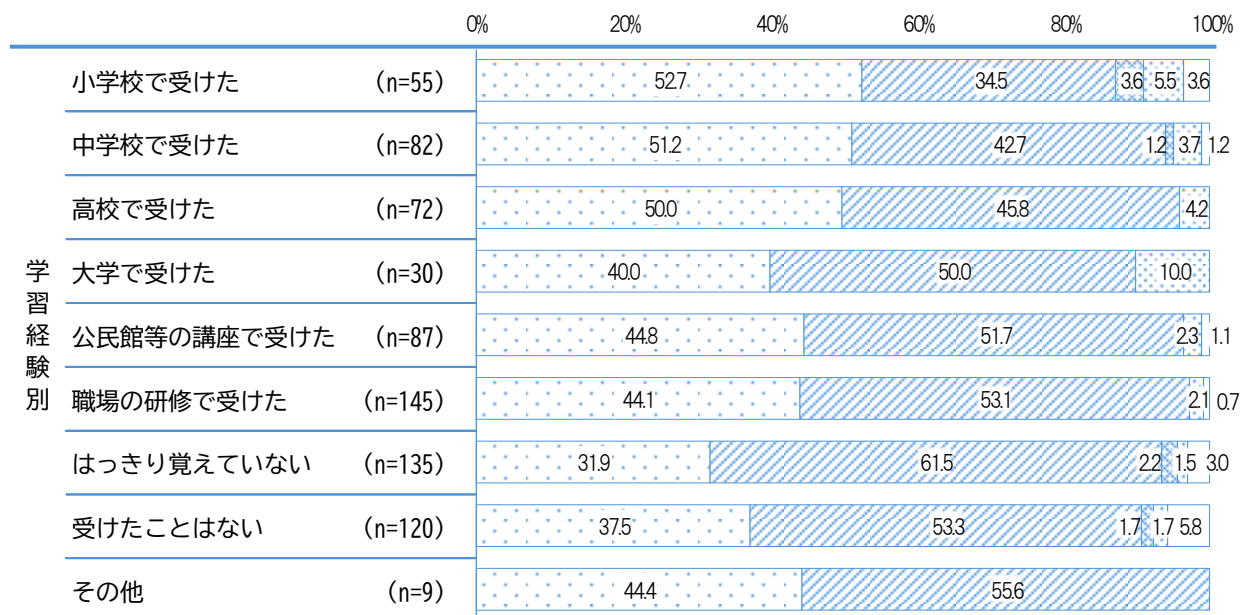
■ その他意見

家庭の事情・状況。
取りたい人は取ればよい。
本人や家族が決めること。「どちらの方が良い」といえるものではない。ただし取りたい男性がいたら周りには取りやすいように配慮すべき。
取ってもいいと思うが、男の人の育休の使い方が本当にあっているのか、してほしいことに手がきちんと届いているのか考えてほしい。
家庭で話しあって決めたことが実現できると良い。
取得は大賛成。しかし目的を果たしているかに不信感。
育児にかかわらない人にも、同じ期間だけ休みが取れるようにしたら、取りやすくなる。特定の人だけ優遇しようとするから問題である。



- ☐ 男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである
☐ 男性が育児・介護休暇を取ることに賛成だが、実際は取りづらいと思う
☐ 育児・介護は女性の方が向いているので、男性が休暇を取る必要はない ☐ その他 ☐ 無回答

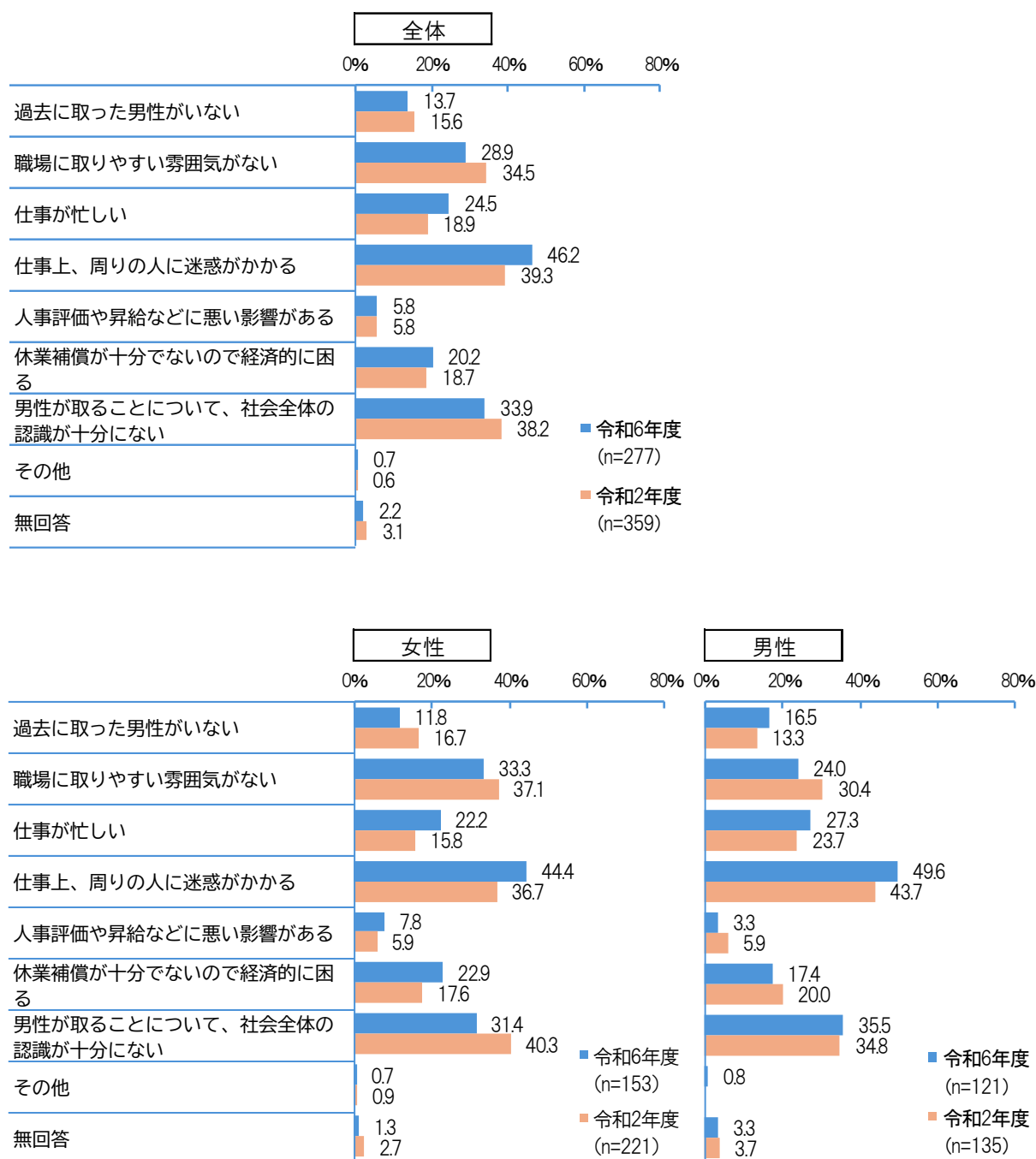
男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、「男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである」ではある人が46.1%、ない人が37.5%と、ない人に比べある人が8.6ポイント高くなっています。



- ☐ 男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである
☐ 男性が育児・介護休暇を取ることに賛成だが、実際は取りづらいと思う
☐ 育児・介護は女性の方が向いているので、男性が休暇を取る必要はない ☐ その他 ☐ 無回答

男女共同参画についての学習経験別でみると、「はっきり覚えていない」で「男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである」が31.9%と、他の項目に比べ5.6ポイント以上低くなっています。

問36 【問35で「2. 男性が育児・介護休暇を取ることに賛成だが、実際は取りづらいと思う」を選んだ方におうかがいします。】実際に取りづらい理由は何だと思いますか。



全体でみると、「仕事上、周りの人に迷惑がかかる」が46.2%と最も高く、次いで「男性が取ることに、社会全体の認識が十分でない」(33.9%)、「職場に取りやすい雰囲気がない」(28.9%)となっています。

性別でみると、「職場に取りやすい雰囲気がない」では女性が33.3%、男性が24.0%と男性に比べ女性が9.3ポイント高くなっています。

前回調査と全体と比較すると、「仕事上、周りの人に迷惑がかかる」が6.9ポイント、「仕事が忙しい」が5.6ポイント増加し、「職場に取りやすい雰囲気がない」が5.6ポイント減少しています。

性別で比較すると、「仕事上、周りの人に迷惑がかかる」では女性が7.7ポイント、男性が5.9ポイント増加しています。

■その他意見

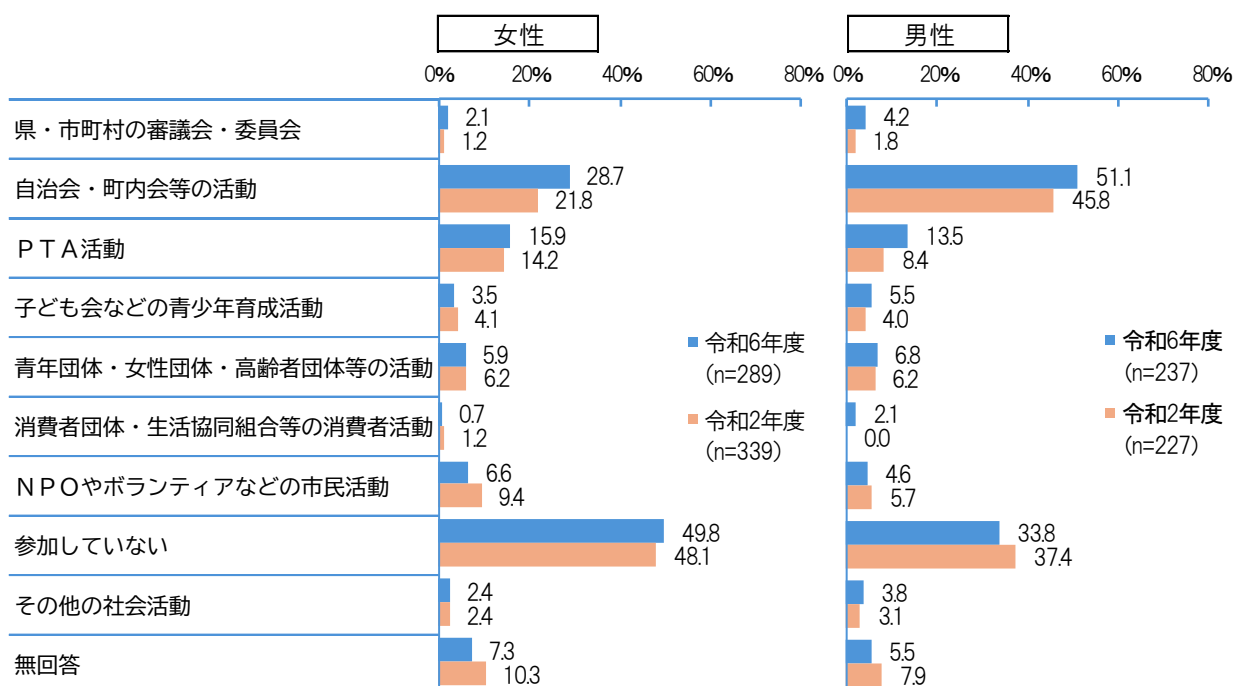
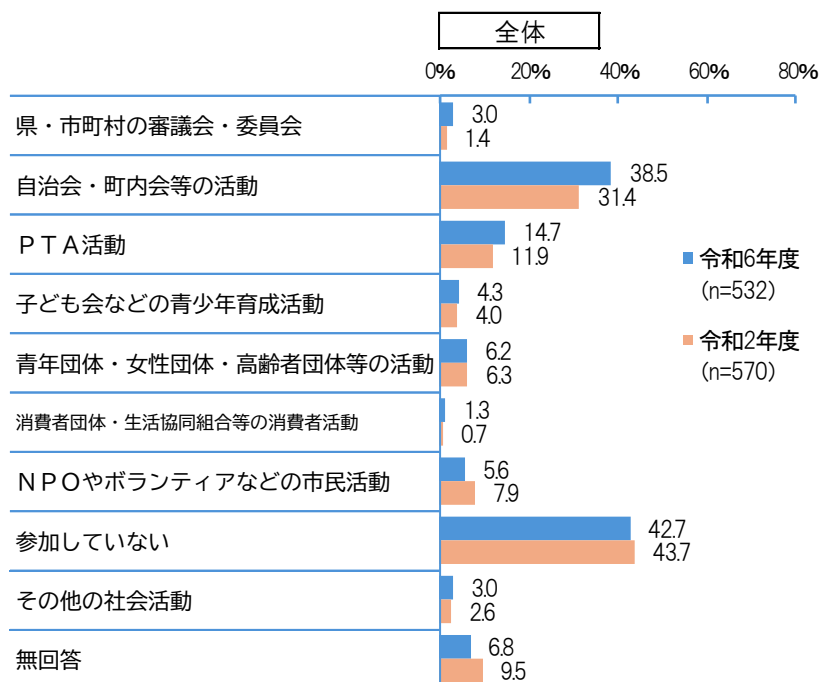
賃金、賞与が減らされる。

企業や社会に余裕がない。仕事を回す人員が足りない。

地域活動について

[MA]

問37 次のような地域活動を行っていますか。



全体でみると、「参加していない」が 42.7%と最も高く、次いで「自治会・町内会等の活動」(38.5%)、「PTA活動」(14.7%)となっています。

性別でみると、「自治会・町内会等の活動」では女性が 28.7%、男性が 51.1%と女性に比べ男性が 22.4 ポイント高く、「参加していない」では女性が 49.8%、男性が 33.8%と男性に比べ女性が 16.0 ポイント高くなっています。

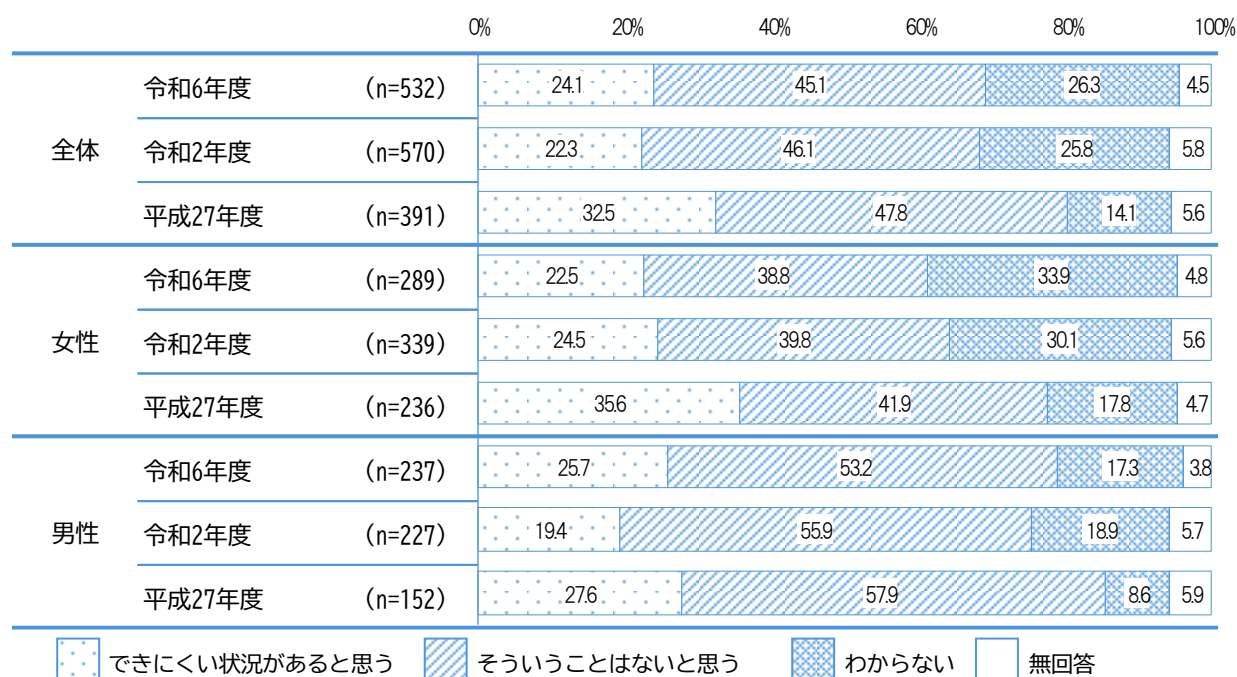
前回調査と全体で比較すると、「自治会・町内会等の活動」が 7.1 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「自治会・町内会等の活動」では女性が 6.9 ポイント、男性が 5.3 ポイント増加しています。

■その他の社会活動

班内、地区内活動、掃除、お祭り、その他。
論理法人会。
地区婦人団体の活動。。
墓地組合役員。
認知症サポーター。
文化講座の講師。
会社が行うボランティア活動。
消防団。
草刈り、清掃。
農業法人。
老人会の清掃活動。
ボランティア、手芸、絵などの会へ出向いている。

問38 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい状況があると思いますか。



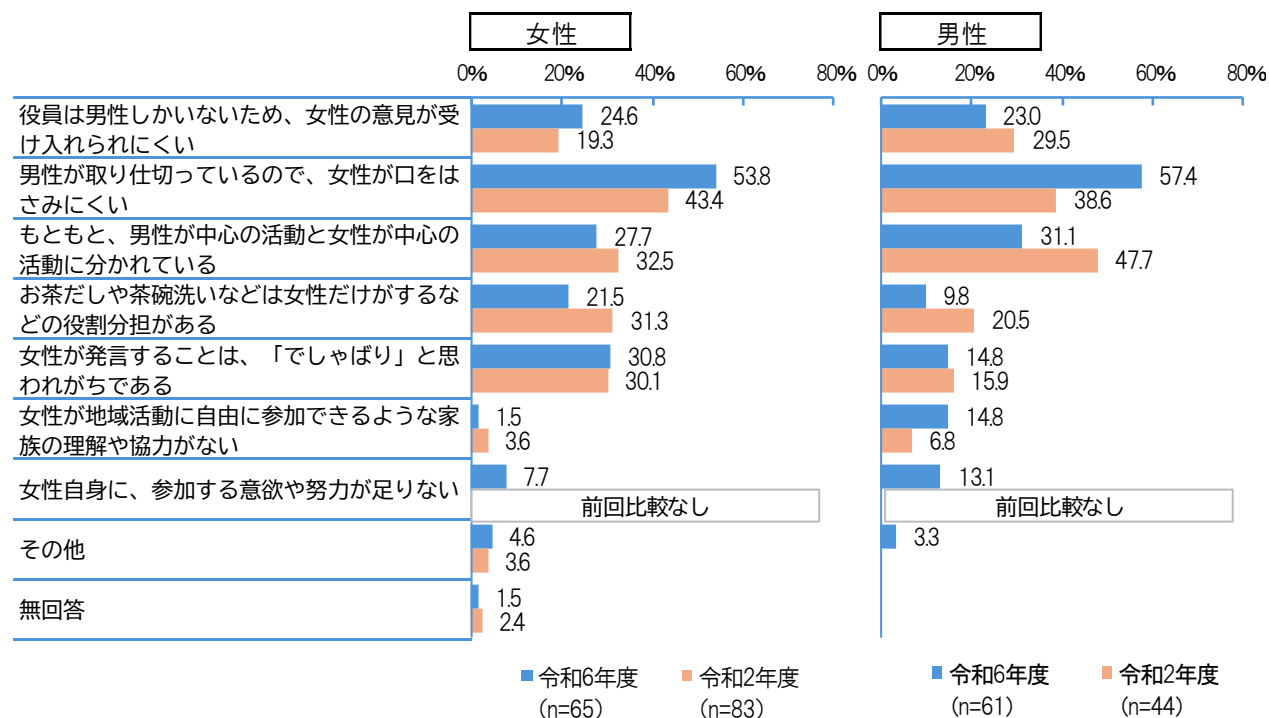
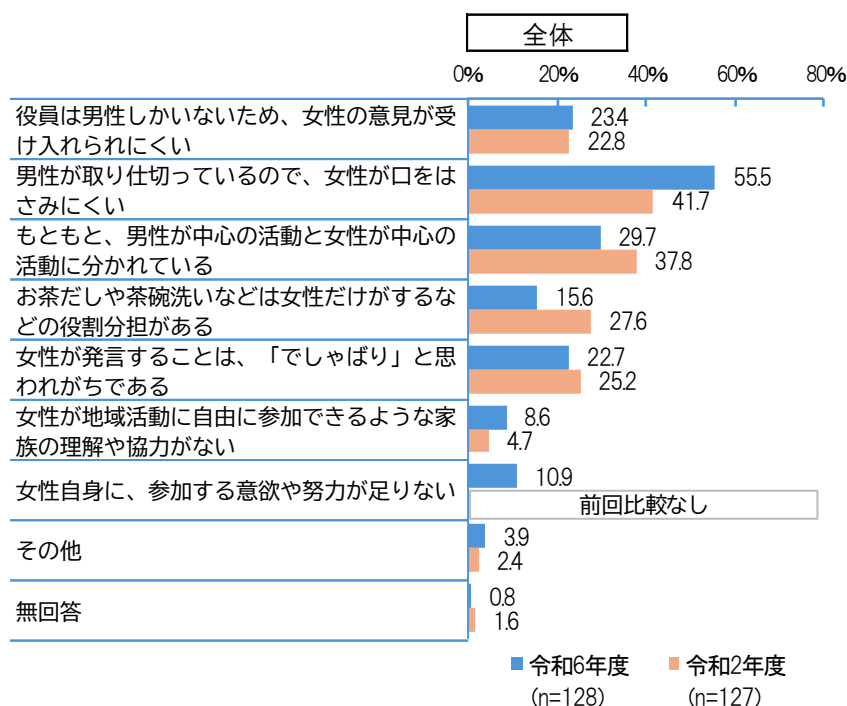
全体で見ると、「そういうことはないと思う」が45.1%と最も高く、次いで「わからない」(26.3%)、「できにくい状況があると思う」(24.1%)となっています。

性別で見ると、「わからない」では女性が33.9%、男性が17.3%と男性に比べ女性が16.6ポイント高く、「そういうことはないと思う」では女性が38.8%、男性が53.2%と女性に比べ男性が14.4ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、大きな差はみられません。

性別で比較すると、男性では「できにくい状況があると思う」が6.3ポイント増加しています。

問39 【問38で「1. できにくい状況があると思う」を選んだ方におうかがいします。】それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。



全体でみると、「男性が取り仕切っているので、女性が口をはさみにくい」が55.5%と最も高く、次いで「もともと、男性が中心の活動と女性が中心の活動に分かれている」(29.7%)、「役員は男性しかいないため、女性の意見が受け入れられにくい」(23.4%)となっています。

性別でみると、「女性が発言することは、『でしゃばり』と思われがちである」では女性が30.8%、男性が14.8%と男性に比べ女性が16.0ポイント、「お茶だしや茶碗洗いなどは女性だけがするなどの役割分担がある」では女性が21.5%、男性が9.8%と男性に比べ女性が11.7ポイント高く、「女性が地域活動に自由に参加できるような家族の理解や協力が無い」では女性が1.5%、男性が14.8%と女性に比べ男性が13.3ポイント高くなっています。

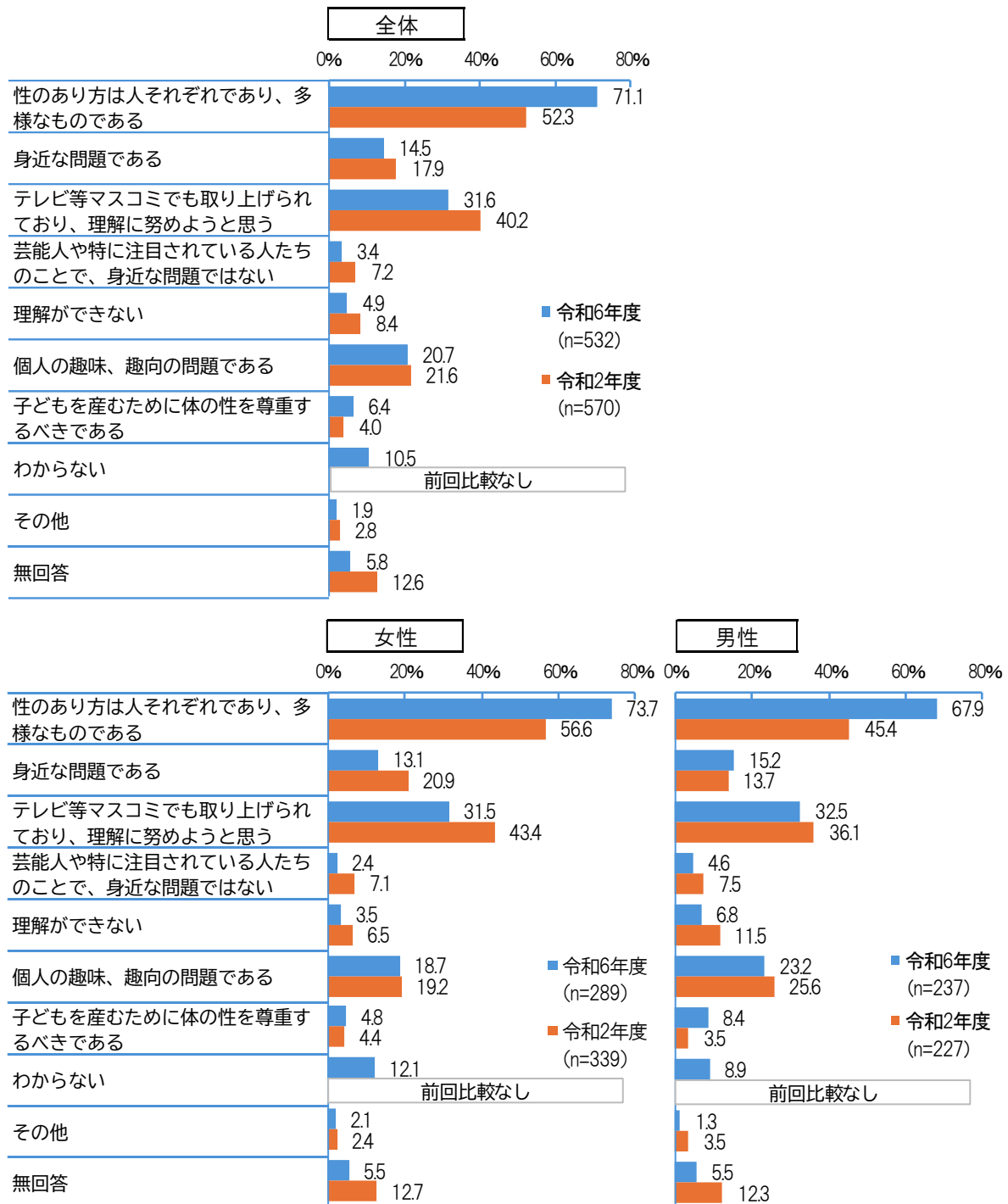
前回調査と全体で比較すると、「男性が取り仕切っているので、女性が口をはさみにくい」が13.8ポイント増加し、「お茶だしや茶碗洗いなどは女性だけがするなどの役割分担がある」が12.0ポイント、「もともと、男性が中心の活動と女性が中心の活動に分かれている」が8.1ポイント減少しています。

性別で比較すると、「男性が取り仕切っているので、女性が口をはさみにくい」では女性が10.4ポイント、男性が18.8ポイント増加し、「もともと、男性が中心の活動と女性が中心の活動に分かれている」では男性が16.6ポイント、「お茶だしや茶碗洗いなどは女性だけがするなどの役割分担がある」では女性が9.8ポイント、男性が10.7ポイント減少しています。

■その他意見

年配の方ばかりで新しい意見を取り入れようとしない。
戸主は男性が多いので必然的に男性中心の会となる。
地域活動そのものが停滞気味で流れ作業になっていて、過去と同じことをしてただこなすだけになり意欲がない人が多い。
昔からの風習が残っている。
そもそも女性への議論の教育と機会が少ない為、論点からズレていると思われがち。

問40 LGBTQ+など(性的マイノリティ)にどのような考えやイメージをおもちですか。

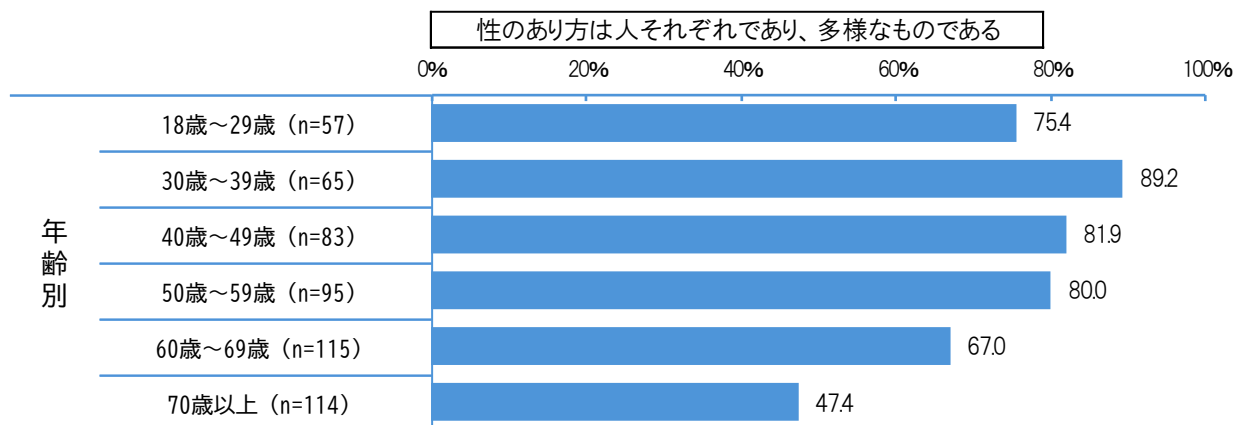


全体でみると、「性のあり方は人それぞれであり、多様なものである」が71.1%と最も高く、次いで「テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う」(31.6%)、「個人の趣味、趣向の問題である」(20.7%)となっています。

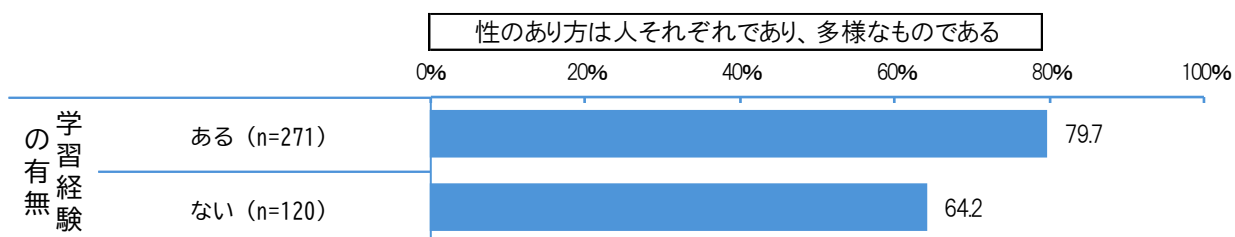
性別でみると、「性のあり方は人それぞれであり、多様なものである」では女性が73.7%、男性が67.9%と男性に比べ女性が5.8ポイント高くなっています。

■ その他意見

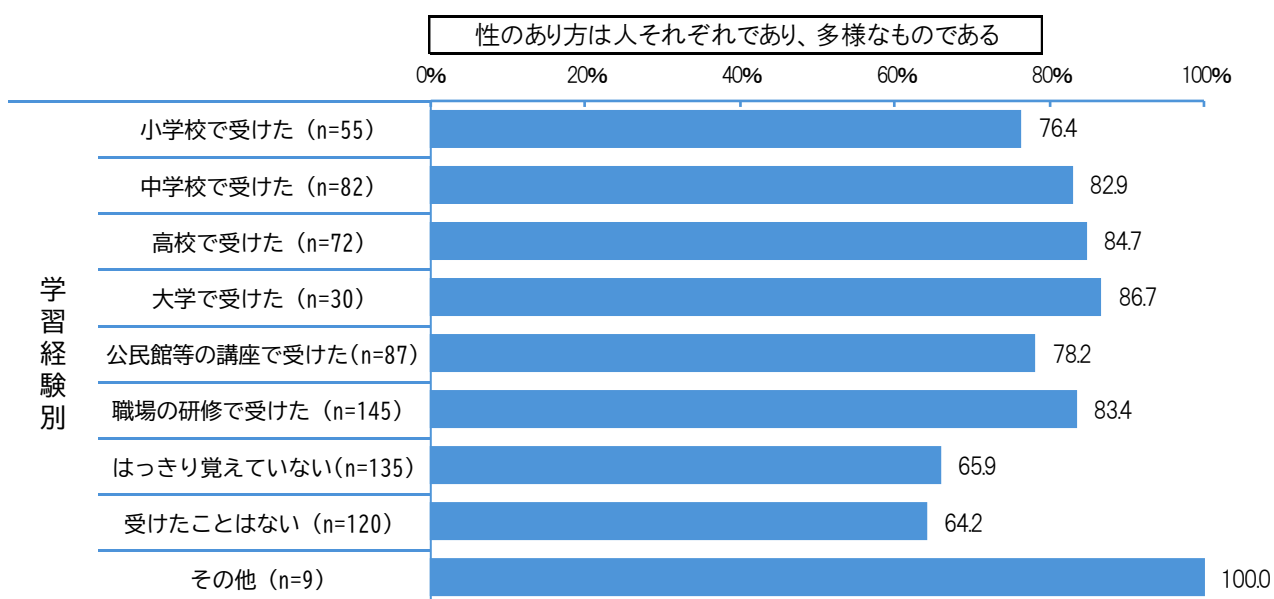
メディアで取り上げられている事案を見ると LGBTQ を悪用してるとしか思えないケースも散見される。それらの規制を含めた法整備が必要と思う。
特別な人達だとは思っていない！！人間のあるべき姿だと思います。色々な人間がいるということ。
理解しているが心は女と言って女風呂に入るなど犯罪を助長している気がする。
心が女性でも体が男性で風呂などは無理がある。性のあり方は自由だけれど見た目の性別で出入りできる場所の制限は必要だと思う。
マイノリティの人と接してみると視野が広がり理解が深まる。
目で見えないこと（心の問題）であり、言った方が正しいと悪用した犯罪が増える可能性がある。
横文字を使わなくても日本は昔から多様性を認めてきた国である。
同性同士の婚姻については理解できるが、その人達が子どもを持つことに対しては、子どもの立場を考えると理解し難い。
性自認を重視する事柄と身体の性を重視する事柄はちゃんと分けるべきである。
本能的に無理なものは無理。それを強要しようとする姿勢がさらに違和感を覚える。



年代別で「性のあり方は人それぞれであり、多様なものである」をみると、30 歳代が 89.2%と最も高く、30 歳代以上の年代では、年代が高くなるにつれ減少傾向にあります。

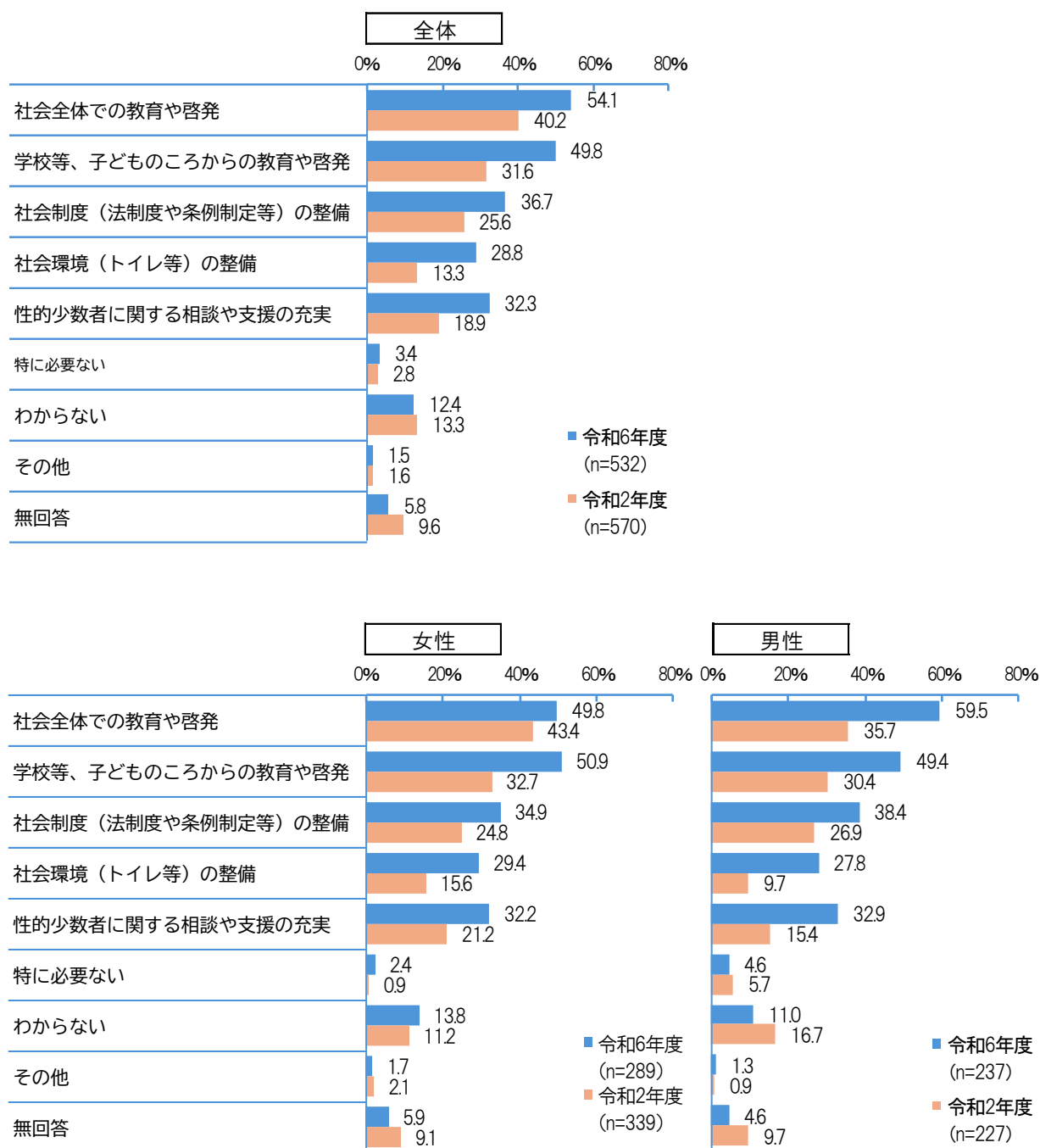


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、「性のあり方は人それぞれであり、多様なものである」ではある人が 79.7%、ない人が 64.2%と、ない人に比べある人が 15.5 ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別で「性のあり方は人それぞれであり、多様なものである」をみると、「受けたことはない」が 64.2%と最も低く、次いで「はっきり覚えていない」(65.9%)、「小学校で受けた」が 76.4%となっています。

問41 LGBTQ+など(性的マイノリティ)の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。



全体で見ると、「社会全体での教育や啓発」が54.1%と最も高く、次いで「学校等、子どものころからの教育や啓発」(49.8%)、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」(36.7%)となっています。

性別で見ると、「社会全体での教育や啓発」では女性が49.8%、男性が59.5%と女性に比べ男性が9.7ポイント高くなっています。

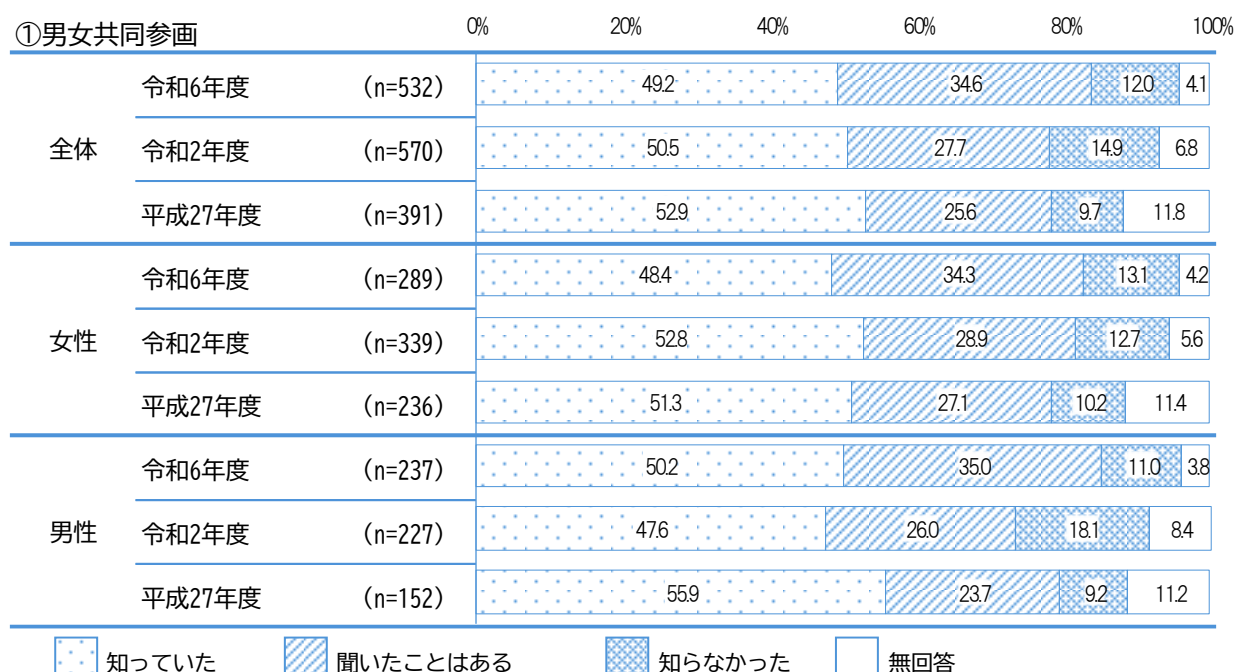
前回調査と全体で比較すると、「学校等、子どものころからの教育や啓発」が18.2ポイント、「社会環境(トイレ等)の整備」が15.5ポイント、「社会全体での教育や啓発」が13.9ポイント、「性的少数者に関する相談や支援の充実」が13.4ポイント、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」が11.1ポイント増加しています。

性別で比較すると、「学校等、子どものころからの教育や啓発」では女性が18.2ポイント、男性が19.0ポイント増加しています。

■その他意見

LGBTQ 以外の人意見も取り入れて平等に偏らず人権を守って欲しい。
マイノリティなどという言い方をしなくても良くなるくらいわざわざ区別しない世の中にする。
まわりの子どもたちは自然に受け入れていると思うが、当事者が自然にふるまえない状況があるのでは？
性的マイノリティの方の人権も大切だが重要視しすぎてマジョリティの人権を侵害するのは本末転倒ではないか。
すでに守られていると思います。
当事者の苦しみを知ること。
LGBTQ+以外の人権も尊重すること。
権利を主張し、それを振りかざし、周りに押し付けようとするので不要。

問42 あなたは、次の①～⑫にあげることがらについて知っていますか。

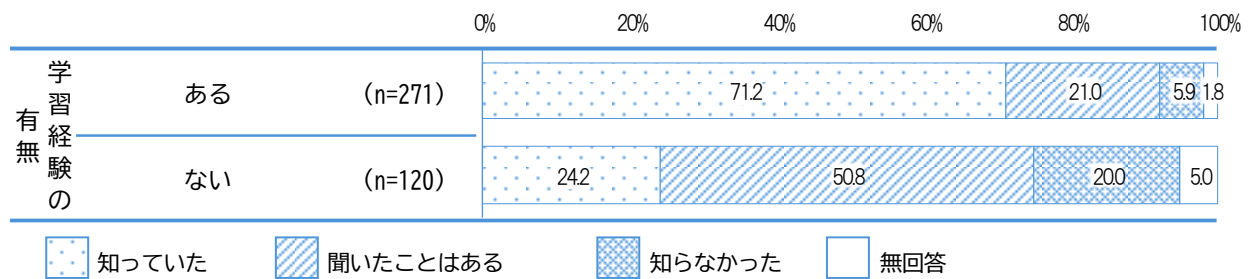


全体でみると、「知っていた」が49.2%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(34.6%)、「知らなかった」(12.0%)となっています。

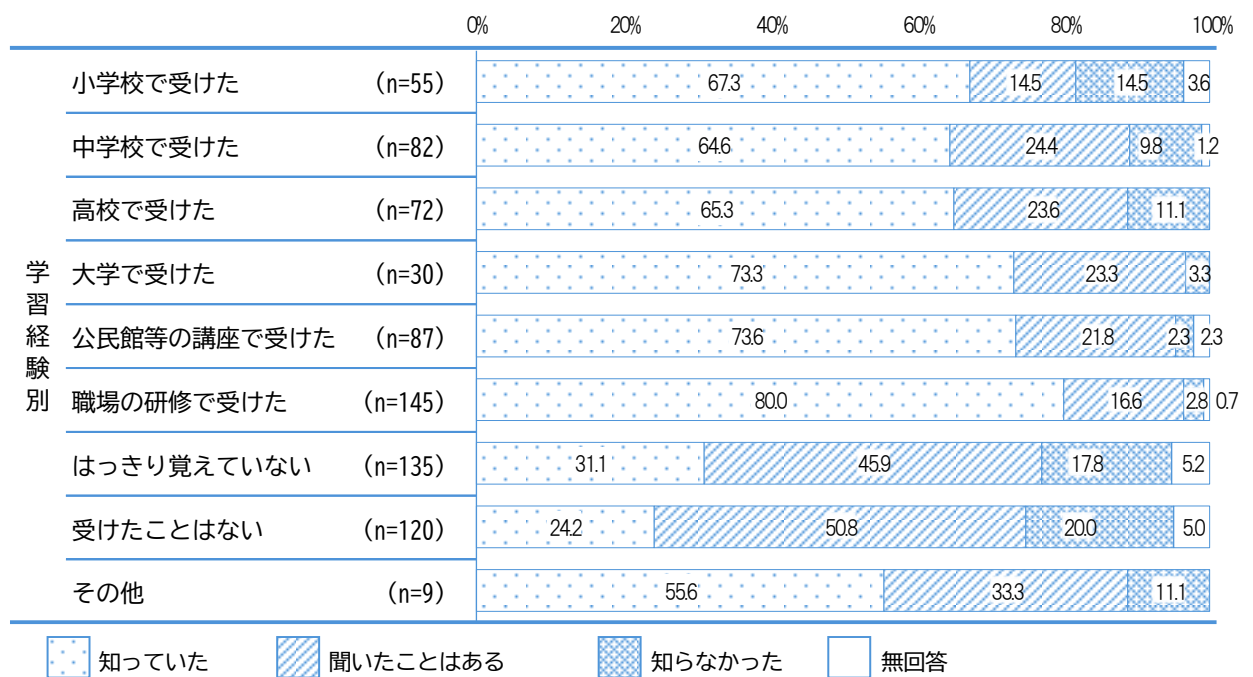
性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「聞いたことはある」が6.9ポイント増加しています。

性別で比較すると、「聞いたことはある」では女性が5.4ポイント、男性が9.0ポイント増加し、「知らなかった」では男性が7.1ポイント減少しています。

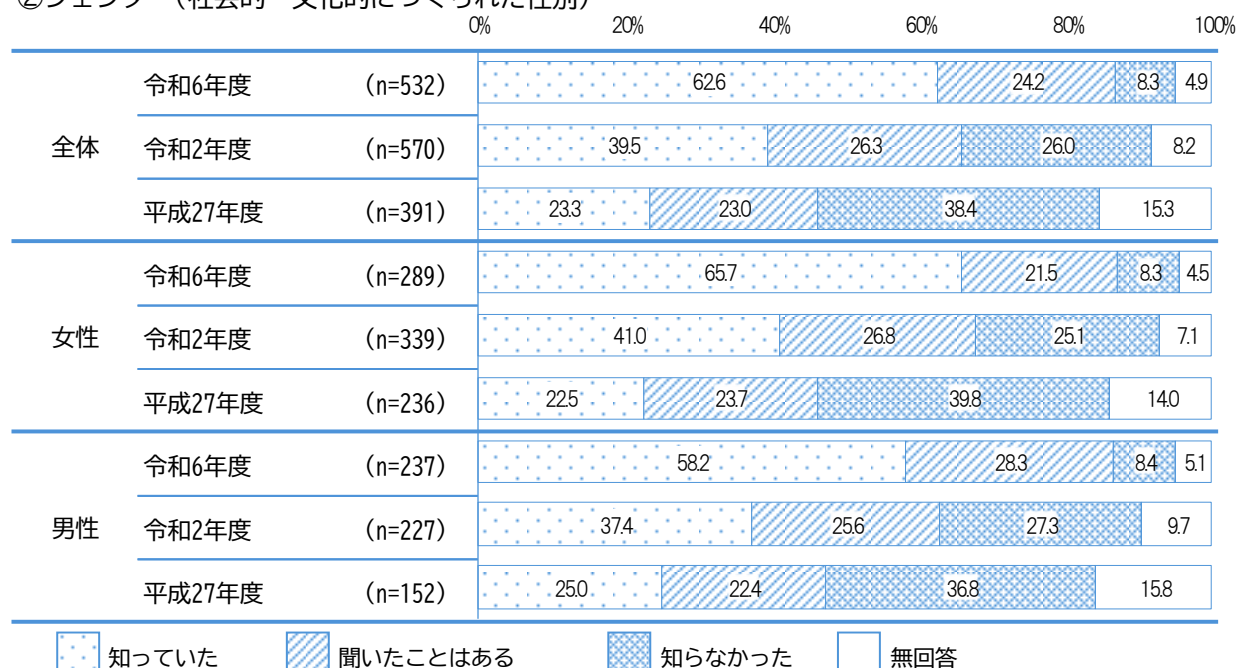


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、「知っていた」ではある人が71.2%、ない人が24.2%と、ない人に比べある人が47.0ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「知っていた」が「受けたことはない」で24.2%と最も低く、次いで「はっきり覚えていない」(31.1%)となっており、他の回答を大きく下回っています。

②ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)

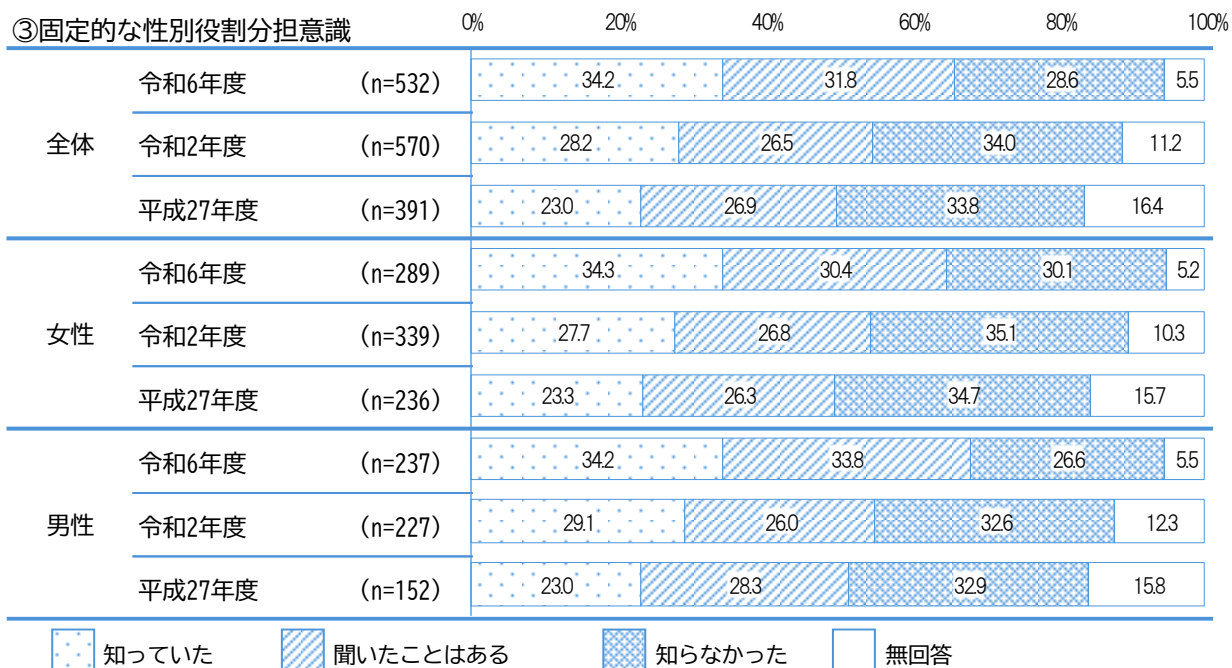


全体でみると、「知っていた」が62.6%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(24.2%)、「知らなかった」(8.3%)となっています。

性別でみると、「知っていた」では女性が65.7%、男性が58.2%と男性に比べ女性が7.5ポイント高く、「聞いたことはある」で女性が21.5%、男性が28.3%と女性に比べ男性が6.8ポイント高くはなっています。

前回調査と全体で比較すると、「知っていた」が23.1ポイント増加し、「知らなかった」が17.7ポイント減少しています。

性別で比較すると、「知っていた」では女性が24.7ポイント、男性が20.8ポイント増加し、「知らなかった」では女性が16.8ポイント、男性が18.9ポイント減少しています。



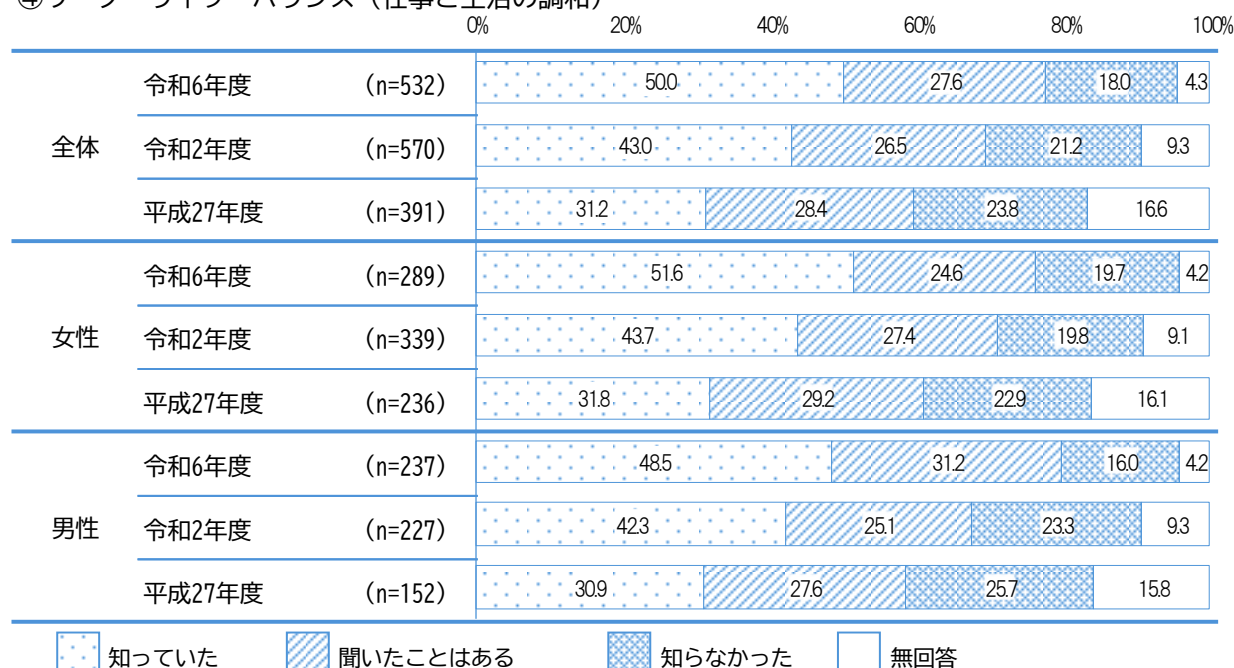
全体でみると、「知っていた」が 34.2%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(31.8%)、「知らなかった」(28.6%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「知っていた」が 6.0 ポイント、「聞いたことはある」が 5.3 ポイント増加し、「知らなかった」が 5.4 ポイント減少しています。

性別で比較すると、「知っていた」では女性が 6.6 ポイント、男性が 5.1 ポイント、「聞いたことはある」では男性が 7.8 ポイント増加し、「知らなかった」では女性が 5.0 ポイント、男性が 6.0 ポイント減少しています。

④ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

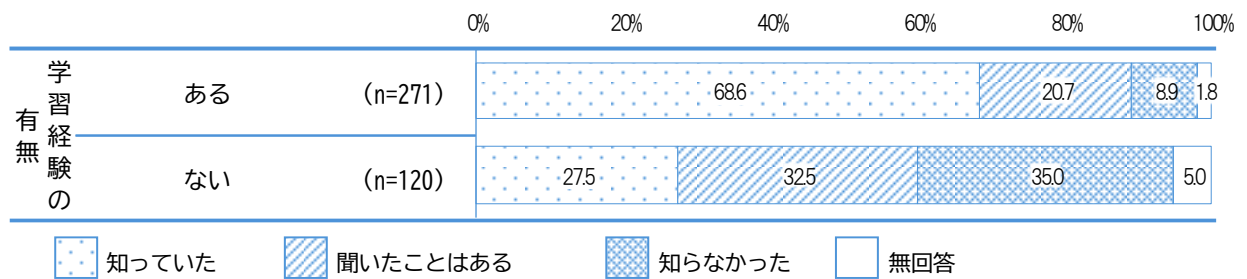


全体でみると、「知っていた」が 50.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(27.6%)、「知らなかった」(18.0%)となっています。

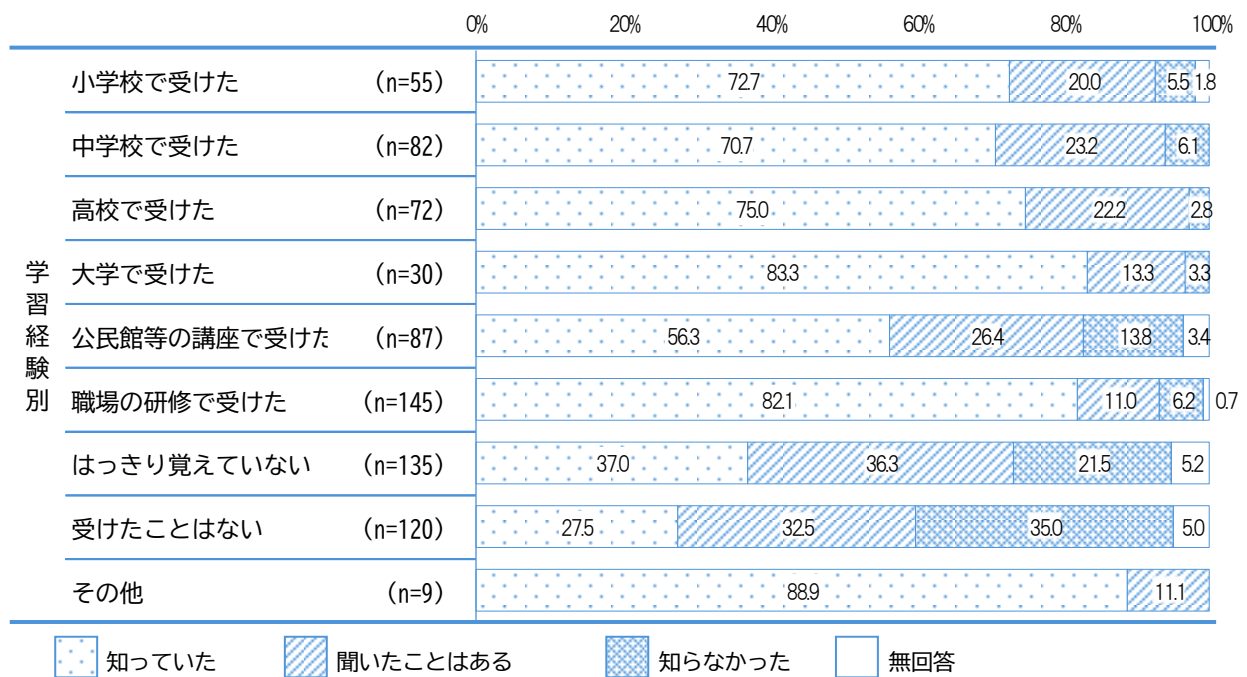
性別でみると、「聞いたことはある」では女性が 24.6%、男性が 31.2%と女性に比べ男性が 6.6 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「知っていた」が 7.0 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「知っていた」では女性が 7.9 ポイント、男性が 6.2 ポイント、「聞いたことはある」では男性が 6.1 ポイント増加し、「知らなかった」では男性が 7.3 ポイント減少しています。

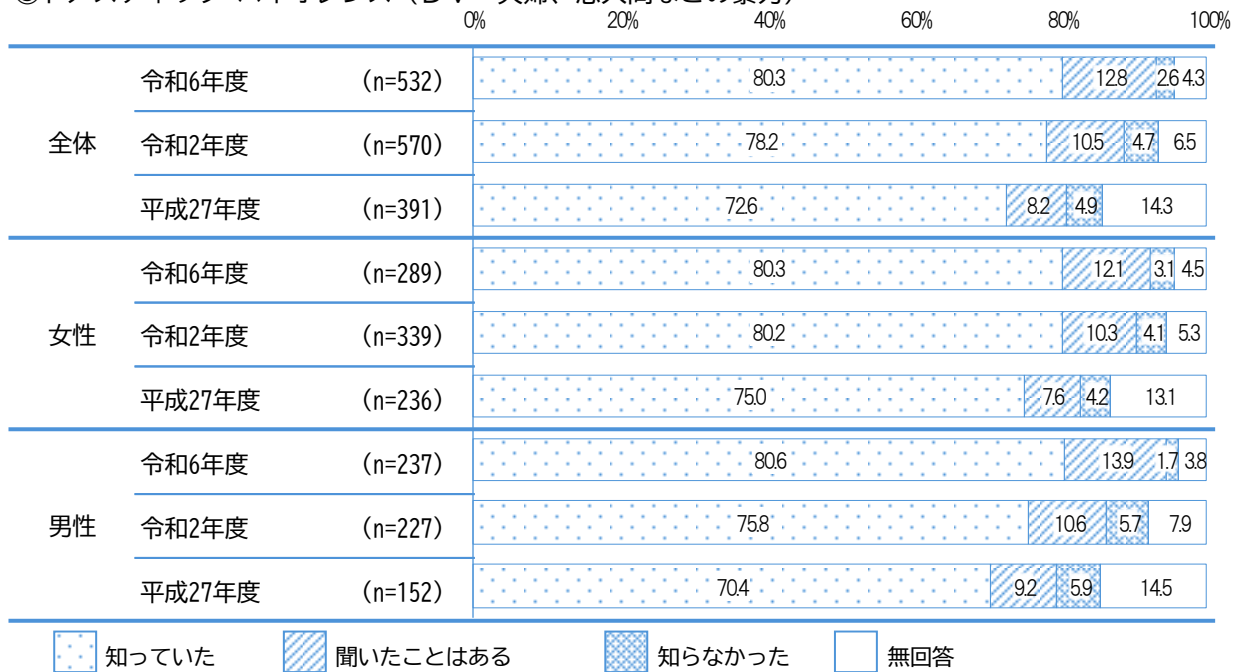


男女共同参画についての学習経験の有無別でみると、「知っている」ではある人が68.6%、ない人が27.5%と、ない人に比べある人が41.1ポイント高くなっています。



男女共同参画についての学習経験別でみると、「知っている」が「受けたことはない」で27.5%と最も低く、次いで「はっきり覚えていない」(37.0%)となっており、他の回答を大きく下回っています。

⑤ドメスティック・バイオレンス（DV：夫婦、恋人間などの暴力）



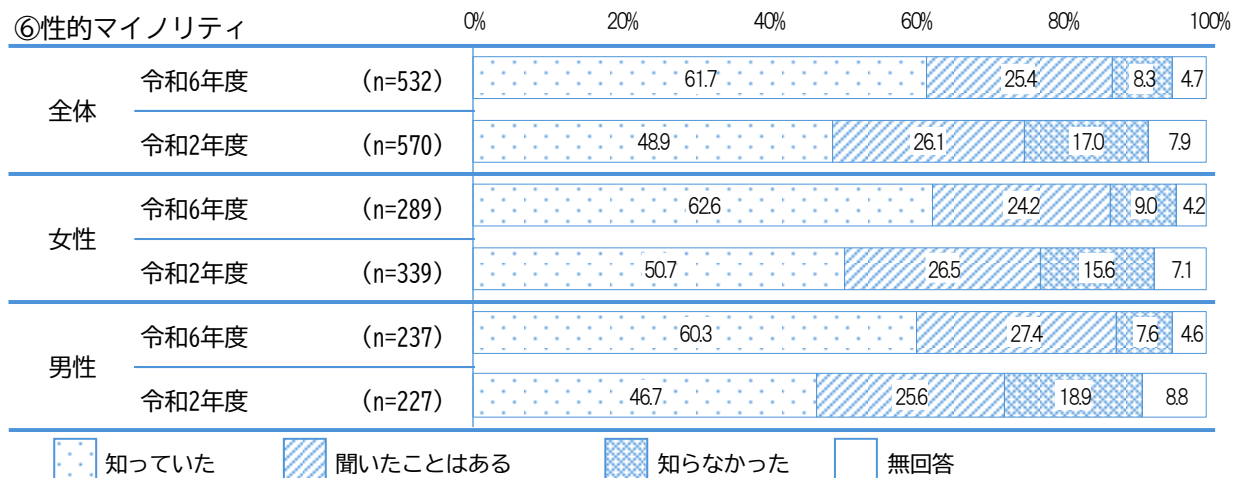
全体でみると、「知っていた」が80.3%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(12.8%)、「知らなかった」(2.6%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

⑥性的マイノリティ



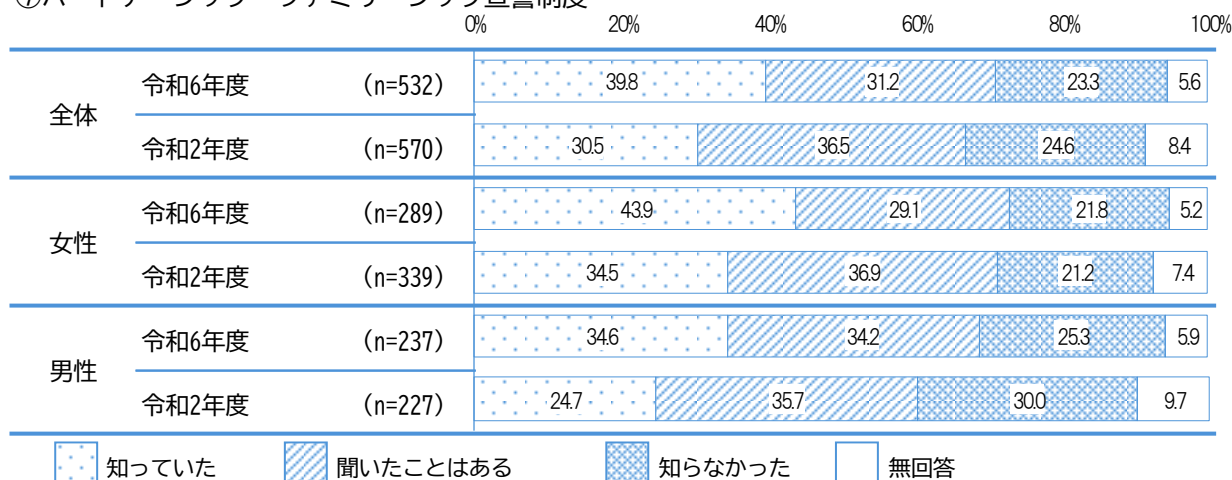
全体でみると、「知っていた」が61.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(25.4%)、「知らなかった」(8.3%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、「知っていた」が12.8ポイント増加し、「知らなかった」が8.7ポイント減少しています。

性別で比較すると、「知っていた」では女性が11.9ポイント、男性が13.6ポイント増加し、「知らなかった」では女性が6.6ポイント、男性が11.3ポイント減少しています。

⑦パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度



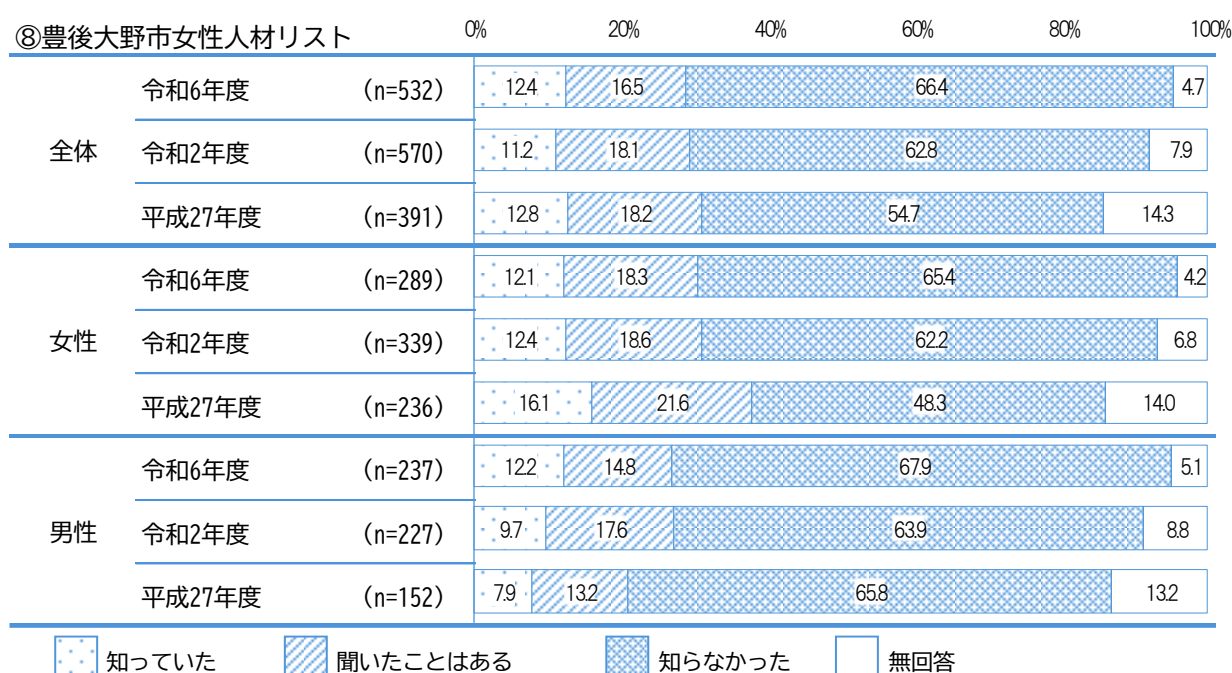
全体でみると、「知っていた」が39.8%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(31.2%)、「知らなかった」(23.3%)となっています。

性別でみると、「知っていた」では女性が43.9%、男性が34.6%と男性に比べ女性が9.3ポイント高く、「聞いたことはある」では女性が29.1%、男性が34.2%と女性に比べ男性が5.1ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「知っていた」が9.3ポイント増加し、「聞いたことはある」が5.3ポイント減少しています。

性別で比較すると、「知っていた」では女性が9.4ポイント、男性が9.9ポイント増加し、「聞いたことはある」では女性が7.8ポイント減少しています。

⑧豊後大野市女性人材リスト

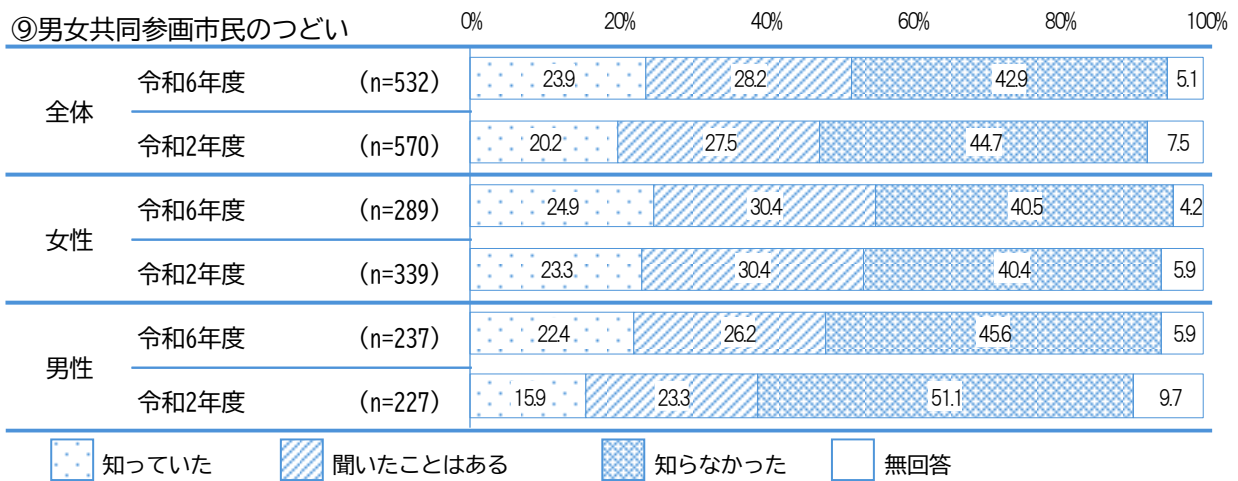


全体でみると、「知らなかった」が66.4%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(16.5%)、「知っていた」(12.4%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

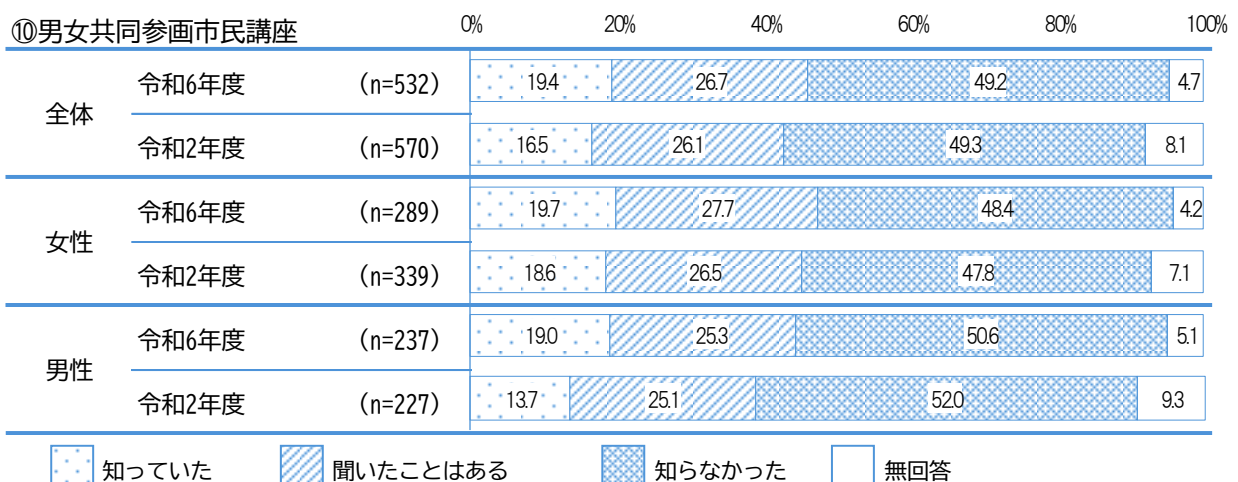


全体でみると、「知らなかった」が 42.9%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(28.2%)、「知っていた」(23.9%)となっています。

性別でみると、「知らなかった」では女性が 40.5%、男性が 45.6%と女性に比べ男性が 5.1 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、男性では「知っていた」が 6.5 ポイント増加し、「知らなかった」が 5.5 ポイント減少しています。

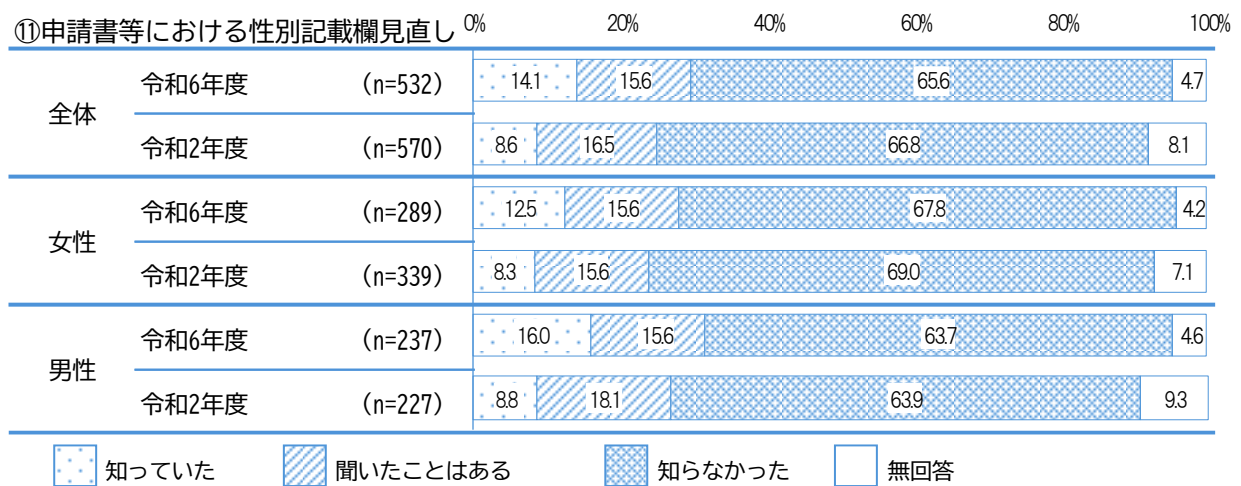


全体でみると、「知らなかった」が 49.2%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(26.7%)、「知っていた」(19.4%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体で比較すると、すべての項目で大きな差はみられません。

性別で比較すると、男性では「知っていた」が 5.3 ポイント増加しています。

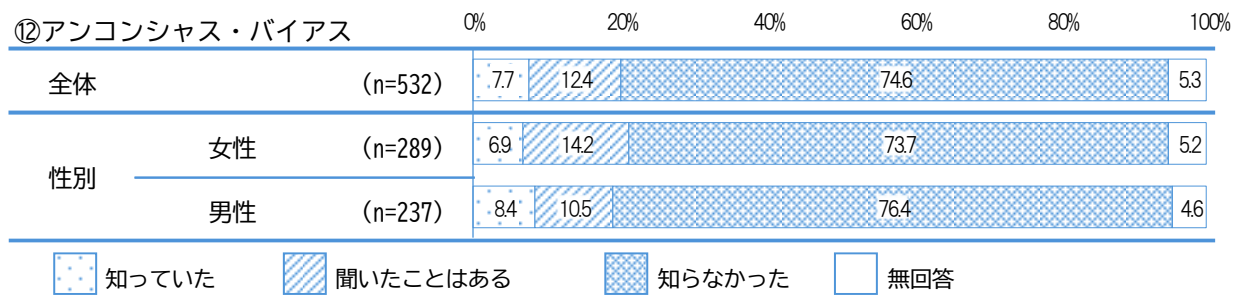


全体でみると、「知らなかった」が 65.6%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(15.6%)、「知っていた」(14.1%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

前回調査と全体と比較すると、「知っていた」が 5.5 ポイント増加しています。

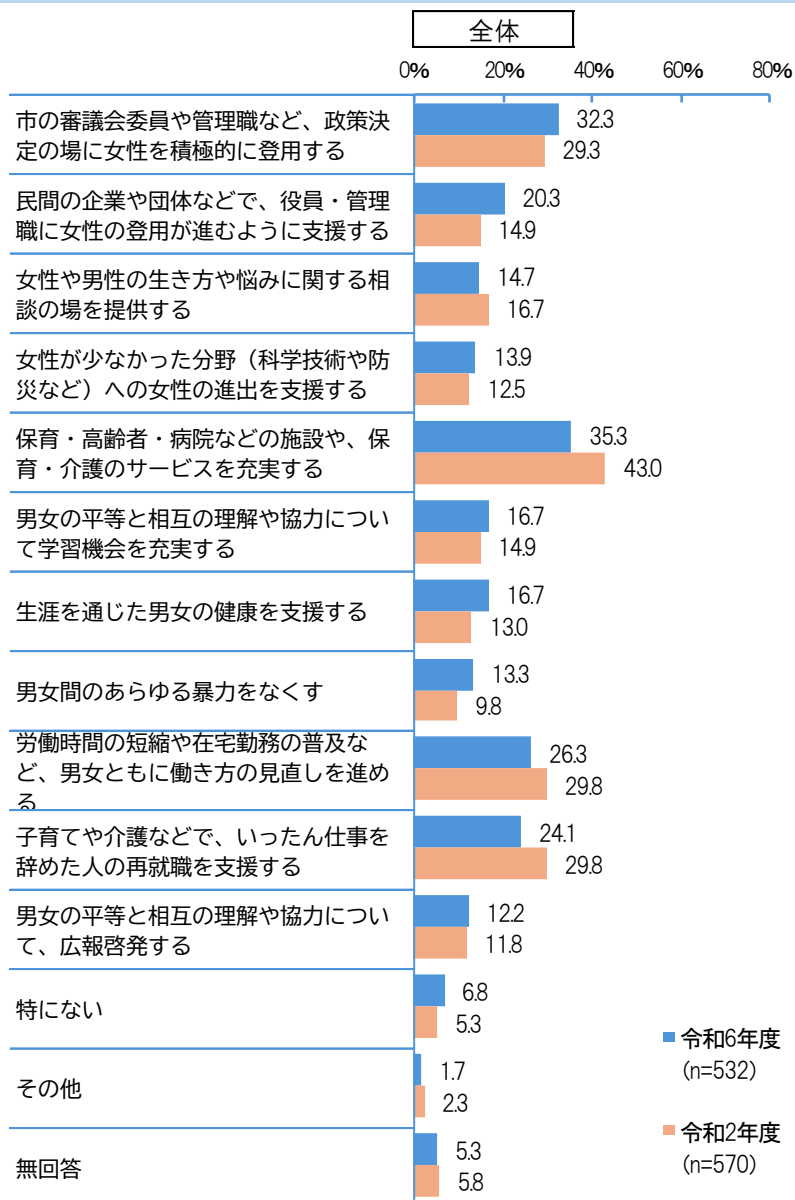
性別で比較すると、男性では「知っていた」が 7.2 ポイント増加しています。

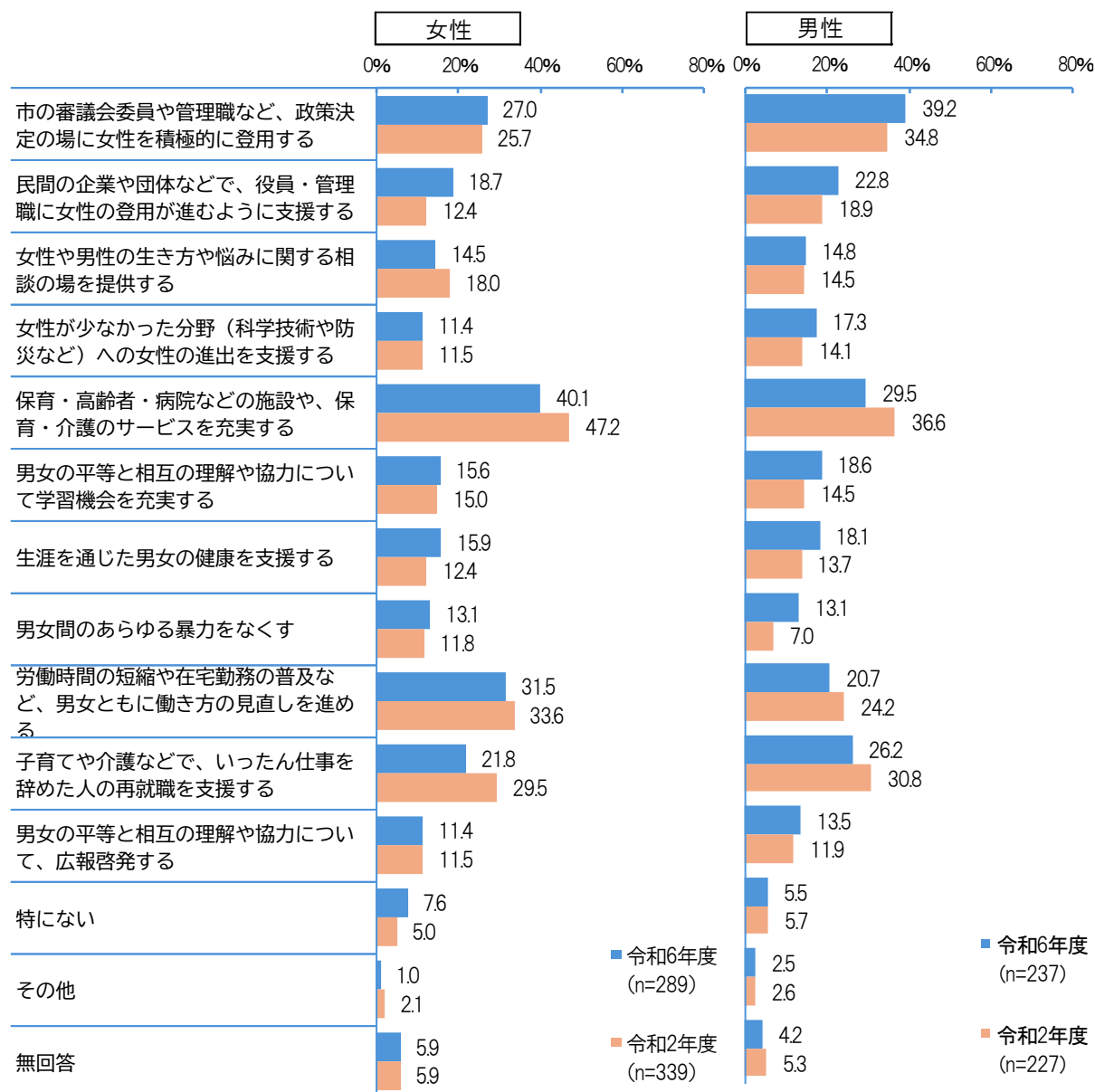


全体でみると、「知らなかった」が 74.6%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(12.4%)、「知っていた」(7.7%)となっています。

性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられません。

問43 あなたは男女共同参画社会の実現に向けて、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。





全体でみると、「保育・高齢者・病院などの施設や、保育・介護のサービスを充実する」が 35.3%と最も高く、次いで「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」(32.3%)、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める」(26.3%)となっています。

性別でみると、「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」では女性が 27.0%、男性が 39.2%と女性に比べ男性が 12.2 ポイント高く、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める」では女性が 31.5%、男性が 20.7%と男性に比べ女性が 10.8 ポイント、「保育・高齢者・病院などの施設や、保育・介護のサービスを充実する」では女性が 40.1%、男性が 29.5%と女性に比べ女性が 10.6 ポイント高くなっています。

前回調査と全体で比較すると、「保育・高齢者・病院などの施設や、保育・介護のサービスを充実する」が 7.7 ポイント減少し、「民間の企業や団体などで、役員・管理職に女性の登用が進むように支援する」が 5.4 ポイント増加しています。

性別で比較すると、「保育・高齢者・病院などの施設や、保育・介護のサービスを充実する」では男女ともに 7.1 ポイント減少しています。

■その他意見

市は女性が主体的に進出できるような政策をしていくべきと思います。高齢化が進む中で少ない若者が子育てしながら高齢者の相手をするのはかなりツライ環境となると思います。
今頃、男女共同参画をアンケートしなければいけないの？豊後大野遅すぎるでしょ！！と言いたくなります。
家事や育児の支援。
市役所内で全職員に意識づけできるように予習機会を提供する。
子育てが楽になる制度をつくる。
性別関係なく、能力とやる気のある人間が職業や役職につける社会になってほしい。

問44 男性と女性が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に共同で参画する社会を実現するために、市に対してのご意見・ご希望などありましたら、ご自由にご記入ください。

■男女共同参画への意見

(1) 男女共同参画への取組について

年代により考え方、対応が変わって来ると思います。それぞれの年代（若者・中年・高齢者）に応じた研修などを考えられたらいかがでしょうか。
機会が平等であれば後は意欲のある者が管理職等になればよい。わざわざ女性が何人何割必要などと言って招集しないで欲しい。何事も理解を得る事は大切だが認識はしていても理解はできないというような人もいる事を理解する事も多様なのではないかな。
無理に女性を登用するなど形だけ取り繕っても意味も進歩もないので女性はもちろん男性の職員にも、性別により嫌な不利益な不便な事柄がないかを一定量プールしてみて性差による愚痴の中から特徴を分析して、それから対策に乗り出すなど、調査から慎重に続けて行くべきだと考えました。
女性議員がもう少し増えるとよい。環境美化考えてもらいたい。田舎の方こそ女は口出しするなとか偉そうに言うような風潮あり。
各種女性団体等の役員等について、男女共同参画社会実現に向けての理念の理解を深めるよう研修をしてもらいたい。呼応的な場で「男にそんなことはさせられない」「家の中でそんなことをさせられよんのじゃ」の発言が見られるとか多々ある。
年齢を重ねるにつれ（または現 80～90 代の男性）、男女の差異が大きいような気がします。戦時中の教育を受けた方に多い現象です。その方々が影響を受けた子ども世代にも少なからず影響があるのでやはり繰り返し勉強会や学習会を行って行く必要があると思います。
民主社会の中、男女と別けて考えるべきでないかも知れないが女性の地位を上げるのであれば成人人口比（男女）に応じて定数（会議人数）の割合で決める（男女で偏らない為に）。
あらゆる機会を通じて啓発する事が大切だと思います。常日頃の啓発活動のおかげで間違いなく職場や地域では様々な事が 10 年、20 年前から見ると変わってきています。今後も少しずつですが、啓発活動を行う事によって変わっていくと思います。
年々、女性の進出の多い分野（市役所職員でいえば 1F は女性職員が比較的多く、3F は逆に少ない。1F にもう少し男性が就くとよいかなと思う。性の特性上、女性・男性の割合が偏ることはあると思うが）そして管理職の女性の登用を進めることが、長期的に効果を生じる事に繋がる。
参画する女性の人数が増えることが実現ではない。家庭のことだけをしたい女性もいれば男性もいる。全ての人全てにおいて平等に機会を得られるべきだ。
女性は男性より時給が安い職が多いため、多く稼ぐためには長時間労働になる。逆に家庭をゆうせんさせると家庭内の収入が大はばにへる。賃金を男女ともによければ子供の教育の時間もふえるし夫婦の健康にもつながる。
女性だから、男性だからで参画するのではなく、能力や実績で参画する世の中になってほしい。仮にその結果政治家や会社の役員が女性が多くなった、男性がほとんどになったとしてもそれを不平等や差別と言われるような社会にはなってほしくない。
十分に共同参画していると思うが、これ以上何を求めているの？ 女性をもっと優遇しろと言っているのか？ それこそ平等を欠いてしまうのでは？ 行き過ぎは良くない。

(2) 男性または女性の意識改革について

男女性別関係なくお互いみとめあい理解し合えたら世の中は良くなると思うけどなかなか難しい。
子どもたちは男女関係なく学校で生活していますが、家庭や地域社会の中でどうしても男女の差やこうあるべきという考えをうえつけられてしまう気がします。学校はずいぶん学習できています。大人が変わらなければと思います。
田舎ほど、女性が何かしたり発言すると「女のくせに…」と言う人がまだまだいます。若い方より年配の方に理解してもらうような啓発活動をすすめてもらいたいです。
男性、女性にこだわらず能力があれば男性でも女性でも役員・管理職に登用すれば良い。今は女性に育児や家庭の事など偏っているようにあるのでそれが解消されればあらゆる分野の活動に

参画できると思う。男女ともに意識の改革が必要だと思う。
教育現場で働いています。子どもたちには既に性別の意識（赤ちゃんのお世話はお母さん、大工さんは男性の仕事など・・・）が付いてしまっている部分もあり、正しい学習の場が必要だと実感することが多いです。子どもたちが関わる大人が多様性を受入れ、子どもたちに広めていけるようになると良いと思います。
意識改革は子供の頃からの教育にあると思いますが、男女問わず得意な分野で活躍する場や機会を与えられるべきだと思います。

（３）その他

やはり世帯主である男性が中心に地域での参加が多いと思います。家庭事情により女性が参加してこともありますが、若い世代では男女の家庭における共同作業や代行も多くなってきているので（共働きによる助け合い）参画も実現していくのではと思います。アンケートも意識できて良いものと思います。一人一人が意識できる機会をお願いします。
1.家庭や各種（任意）組織団体及び会社等への広報活動実施。2.現状調査結果公表と併せ目標設定の広報実施。
女性の管理職への登用、市議会議員など女性が政策や政治の場にもっと積極的に参画できる社会を実施して下さい。
男女共同参画を実現する「豊後大野市」を目指し、がんばってください。
このアンケートの結果を何らかの形で公表して欲しい。

■男女平等について

男性も女性も違うのでそれぞれ向き不向きがあると思う。男女平等も確かに大事だが調整していく形でいいと思う。
男女の性質や役割の違いがある事を理解した上で平等に扱われ共に生きやすいような社会になるといいなと思います。
まだ昔からの地域においての男女の固定観念が根強く残っている。もうそんな時代ではないし、個人で考え判断し行動していけばよい。周りを気にし過ぎて昔のまま通している人が多い。
市職員であつても窓口へ出向いた市民が女性か男性かで態度が大きく違う職員も多くとても不快に感じている。具体的な実現方法は根が深すぎて分からない。
性別に関わらず個人が望む生き方ができるような社会づくりが必要と感じました。
家庭や職場では平等だと感じる人が多いですが、地域となると平等とは言えないと思います。特に年配の方々は未だに時代錯誤なことを言う方が多く、その世代の方の意識を変えるのは難しいというのが正直な思いです。

■市への要望等（男女共同参画についてを除く）

豊後大野市が住みやすい町になって行く事を期待しています。
悩みや相談を身近にないから窓口を紹介して欲しい。
男性の料理教室の開催。
誰でも相談出来る、相談しやすい場の提供をお願いします。
保育園の受け入れを増やしてほしい。学校等で子供に部落差別を教えなければ部落差別は忘れられて、なくなるのではとも思う。
相談の場や支援の仕組みがある事を情報提供、広告があると改善につながるのではないかと思います。また教育や研修での風土づくりが大切であると思いました。今後共より良い社会づくりをよろしくお願い致します。
未来を担う子どもたちにはこうした内容は小学生であれば高学年になれば理解できると思うので学校生活の中で学びの時間を作って、中学・高校と深めて行って欲しいです。共働き世帯が増え家事や子育てなど助け合うことが大切となっている。仕事の為にいつも子供たちがガマンしたり、さみしい思いをしなくてすむようバランス取れた労働環境の整備ができていくと嬉しいです。
少しでも社会が良くなるように粘り強く政策等を作っていただけたら幸いです。
市役所内から見直してはどうでしょう 呼び捨てなど散見されます。

■その他

男女共同参画社会についてはマイバックよりずっと前にほとんどの人が知っていると思っていたので、今頃こんなアンケートがくることに驚きました。これから周知するってことですか？都会に比べ収入の少ない田舎の女性のほとんどは働いています。社会にも進出しています。趣味も多様です。市役所のこの時代遅れのアンケートにびっくりです。もっと他に考える事あるのではと思います。
豊後大野市は7ヶ町村にて市になったもの。三重町にいささか市に関しての建物が多く感じる。他町村に振り分けての行政の在り方があれば男女共同参画社会の取り組み方も違って来るのではないかと思う。市長及び議員の考え方を聞きたいと思う昨今である。
教育の力が重要。学校教育、社会教育、幼児教育、高齢者大学等様々な場で性の多様性を認める学びの場を設定するとよい。
どちらにせよ、性別で人を見るにしても、若者に参画させる、(年齢差)の部分もみていかなければ、たくさんの意見、要望はでないと思うから、性別以外にも、年齢差にも気をつけないと、みんなの意見として出るものは少ないと思う。
私が思うことは何を云ってもすべては家庭からだと思います。夫婦は仲良くいつも心にゆとりをもって、ストレスをためず会話をし、子供がいれば良い悪いをしっかりと、小さいときにしつける。食事は、どんなに忙しいときでも手作りし食べさせる事も家庭の味。母・父親の味としてのこる。上手に何かできた時は両親がしっかりと受けとめ、だきしめてハグをすること(こんなに両親はあなたのことを思ってるんだよ!)と私はしてきました。
LGBT 理解法に反対。男女共同参画の予算を防衛費にもう少し挙げて欲しいです。
活気がない、やる気がない。
質問が雑。また、質問の回答の意図等なしに単純な番号のみで有意義な情報になるのか疑問。おそらく私の意図の3割も伝わるか怪しい。
市単位では無理。国、県特に国会議員が何もわかってない。日本だけダメ(夫婦別姓)。
問の文章自体が男女差別のように聞こえる部分があり答えるのが難しいと感じました。
問42では、①⑦⑧⑨⑩番と知らない事ばかりです。市役所に、パンフレット他が有るのでしょうか？一度うかがいたと思います。
各市町村の議員数のなりてが少なくなっていく様に思います。議員の給料を上げなければ選挙に出る人はいなくなると思います。女性が少ないのは政治に対して興味がないのじゃないでしょうか。
市のために働いてくださりありがとうございます。豊後大野市が、住みたい街の上位になると良いなと思います。
政治家は信用出来ない(身近でない)。ネットで人をたたく人達がいて生きづらい人が多いと思う。どんな意見もあると思うが押しつけはよくない。
年配者への学習機会。
環境作りの場を多くする。
LGBT の人を優遇するのはおかしいと思う。世界の標準に合わせなくて良いと思う。トイレを男女一緒にすることには反対です。

**令和 6 年度「男女共同参画社会づくり」に向けての
市民意識調査 報告書**

発行日 令和 7 年 3 月
発行者 豊後大野市 人権・部落差別解消推進課 男女共同参画係
住 所 〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場1200番地
TEL: 0974-22-1001(代表) FAX:0974-22-3361